

令和7年度産油国等連携強化促進事業費補助金(石油天然ガス
権益・安定供給の確保に向けた資源国との関係強化支援事業の
うち中東等産油・産ガス国投資等促進事業に係るものに限る。(中
央アジア・コーカサス地域等産油・産ガス国投資等促進事業))

ロシアの石油ガス輸出の「脱米欧化」と 中国へのエネルギー供給強化に関する調査

2026年3月

一般社団法人 ROTOBO
ロシアNIS経済研究所

序 文

ロシアによるウクライナ侵攻以降、国際社会は大きな地政学的変動に直面し、エネルギー、物流、金融をはじめとする経済環境の不確実性は一段と高まっている。さらに中東情勢、とりわけイランをめぐる緊張の高まりなどもあり、エネルギー市場や国際物流への影響が懸念されるなど、世界経済の先行きは依然として不透明な状況が続いている。

ロシアはこの4年間、対ロ制裁に参加していない中国、インド、トルコなど、いわゆる「グローバル・サウス」と呼ばれる新興国・途上国へのエネルギー供給を拡大し、「脱米欧化」を進めてきた。なかでも同盟関係にある中国とは、政治・経済から安全保障、人的交流に至るまで、あらゆる分野で連携を一段と強化している。

そこで本調査では、ロシアの石油ガスの輸出先の変化に焦点をあてて調査した。ロシアの石油ガス輸出の「脱米欧化」を軸とし、最大の供給先である中国へのエネルギー供給強化、中央アジア諸国、とくにカザフスタンとウズベキスタンとのエネルギー関係の変化についても整理、分析した。

本報告書は、令和7年度産油国等連携強化促進事業費補助金（石油天然ガス権益・安定供給の確保に向けた資源国との関係強化支援事業のうち中東等産油・産ガス国投資等促進事業に係るものに限る。（中央アジア・コーカサス地域等産油・産ガス国投資等促進事業））の一環として、経済産業省の助成を得て刊行された。本事業の実施にあたり、多大なご協力を賜った経済産業省、調査の過程で貴重なご助言をいただいた専門家、企業関係者、当会会員、関係各位に改めて御礼申し上げたい。

2026年3月

一般社団法人 ROTOBO
会 長 飯島 彰己

ロシアの石油ガス輸出の「脱米欧化」と 中国へのエネルギー供給強化に関する調査

目次

I. ロシアの石油ガス輸出の「脱米欧化」.....	1
1. ロシアの貿易概況.....	1
2. ロシアの石油ガス輸出の「脱米欧化」.....	13
II. ロシアの中国へのエネルギー供給強化.....	41
1. ロシアの中国への石油ガス輸出.....	41
2. 石油ガス分野での中ロ協力.....	61
III. ロシアと中央アジア諸国のエネルギー関係.....	73
1. カザフスタン.....	73
2. ウズベキスタン.....	82
3. 中央アジア諸国とロシア・中国とのエネルギー貿易.....	87

I . ロシアの石油ガス輸出の「脱米欧化」

1. ロシアの貿易概況

(1)ロシアの輸出入

ロシアがウクライナに侵攻してから4年が経過した。米欧による制裁が強化されるなかでも、ロシア経済はプラス成長を維持し、プーチン政権は戦争継続に強気の姿勢を崩していない。侵攻の長期化はロシアの貿易構造にどのような変化をもたらし、貿易相手国・地域にどのような影響を及ぼしたのか。本章では、エネルギー資源輸出の「脱米欧化」を論じる前提として、まずロシアの輸出入の概況を整理する。

ロシア連邦税関局は、2022年2月の侵攻開始以降、通関統計の公表を停止した。このため、従来の通関統計を用いて侵攻長期化や西側との関係断絶がロシアの対外経済関係に与えた影響を把握することは難しくなっている。それでも、ロシア当局が限定的に公表している貿易関連データを手がかりに、2024年の状況を可能な範囲で分析する。

年ごとの変動はあるものの、ロシアの貿易額は総じて右肩上がりでも推移してきた。侵攻が始まった2022年は、西側諸国の厳しい制裁にもかかわらず、資源価格の高騰により過去最高を記録した。2023年は資源価格の低迷で減少したものの、2024年には2年ぶりに増加へ転じた。

ロシア連邦税関局が公表した貿易統計によれば、2024年の貿易額は前年比0.9%増の7,169億2,690万ドルとなり、2年ぶりに増加した。内訳を見ると、輸出額は4,339億2,380万ドルで前年比2.0%増、輸入額は2,830億310万ドルで同0.8%減となった。

輸出額は、2021年の4,929億690万ドルから、侵攻開始年の2022年にはエネルギー価格の高騰により5,917億9,140万ドルへと増加したが、2023年には4,252億8,950万ドルまで減少していた。輸入額は、2021年の2,905億6,430万ドルから2022年には制裁の影響で2,554億9,140万ドルへ急減したものの、2023年には2,852億7,800万ドルまで回復していた。

2024年に輸出が増加した背景には、原油価格が1バレル当たり80ドル前後と低めに推移したにもかかわらず、輸出量の拡大で減収分を補ったこと、低迷していた木材輸出が増加に転じたこと、貴金属・卑金属価格が高値で推移したことが挙げられる。輸入が回復した要因としては、制裁の影響が徐々に緩和され新たな環境に適応したこと（制裁慣れ）、制裁対象品を第3国経由で調達するルートが確立したこと（制裁逃れ）、中国やトルコなど米欧に代わる新たな供給先を確保したこと（代替調達先の拡大）、並行輸入が常態化したことが大きい。

輸出から輸入を差し引いた貿易収支は1,509億ドルの黒字となり、黒字額は前年より約100億ドル増加した。

ロシアによるウクライナ侵攻後、ロシアの対外経済関係は急速に脱米欧化へと向かっている。2024

年はその動きがさらに加速し、ロシアと米欧の関係は1990年以降で最悪の水準に達した。ロシアはいま、ソ連解体以来30年以上ぶりの大きな転換期にある。貿易パートナーは米欧諸国から中国や新興・途上国へとシフトし、その傾向は3年以上続いている。

こうした変化はロシア自身が招いたものである。侵攻当初は戦争が長期化せず、米欧との関係もいずれ改善に向かうとの見方があった。しかし現実には、侵攻は長期化し、米欧による制裁は強化され続け、西側との関係断絶は深まる一方である。

西側との貿易が大きく落ち込む一方で、制裁を科していないインドや中国などとの貿易は拡大した。輸出の6割を占めるエネルギー資源の輸出先は、侵攻前は欧米が中心だったが、制裁により大幅に減少し、その減少分を補う形でインドや中国向けが急増した。

ロシアは米欧日の影響力低下を見据え、中国やインドなど主要パートナーとの関係強化を優先し、その基盤を固めたうえで新興・途上国（グローバル・サウス）との関係構築へと戦略を広げている。侵攻と制裁がもたらした貿易構造の変化は、これまでロシアと関係が薄かった新興国に利益をもたらす一方、資源価格高騰もありロシアにも相応の収益をもたらした。その結果、ロシアは侵攻前と同程度の外貨収入を維持し、戦争継続を可能にしてきた。この状況は2024年も変わらなかった。

(2)ロシアの輸出

ロシアの場合、国際資源価格の変動が貿易、ひいては経済のパフォーマンスを決定づけている。資源価格が上がれば貿易も経済も上向きになるし、逆に下がれば、貿易も経済も落ち込むという構造である。ロシア経済を下支えしているのは、原油やガスなどのエネルギーの輸出である。この状況は昔から変わらない。

油価はロシアによるウクライナ侵攻開始後に急騰し、2022年3月には一時1バレル＝130ドル超を記録した。しかし2023年には70～80ドル台へと落ち着き、侵攻前の水準に戻った。2024年も年間を通じて70～90ドルのレンジで推移し、平均は約80ドル（ブレント）と比較的安定した1年となった。油価の低下に連動して、天然ガス、LNG（液化天然ガス）、石炭の価格も下落した。

ロシアの輸出に占める鉱物資源・エネルギーの比率は依然として高い。2024年の鉱物製品（HSコード25～27）が輸出全体に占める割合は60.9%に達した。中国、インド、トルコなど多くの国がロシア産の鉱物資源・エネルギーに依存しており、輸出拡大による利益はそのままロシアの富として流入する。2024年は価格が落ち着いたとはいえ、依然として高水準で推移し、ロシアの収入を下支えするとともに、継戦能力の維持に寄与した。

2024年のエネルギー輸出をみると、数量ベースでは石炭とLNGが前年を下回った一方、原油とガス

は前年を上回った。価格は下振れしたものの、数量増で減収分を補い、鉱物製品全体の輸出額は前年をわずかに上回った。

主要品目別の輸出では、鉱物資源が1.4%増の2,640億8,150万ドル、貴金属、卑金属および同製品が6.1%増の636億5,240万ドル、化学品、ゴムが1.3%増の275億9,330万ドルとなり、幅広い品目で輸出が拡大した。一方、食料品、農産品は1.1%減の426億2,850万ドルとなり、5年ぶりに縮小した。昨年の農業生産がマイナスに落ち込んだことが影響した可能性がある。

(3)ロシアの輸入

主要品目別の輸入では、化学品、ゴムが4.0%減の534億6,650万ドル、繊維、繊維製品、履物が5.5%減の180億9,470万ドル、貴金属、卑金属および同製品が6.7%減の179億3,920万ドルとなり、幅広い品目で輸入が縮小した。一方、機械、設備、輸送手段は0.9%増の1,470億9,610万ドル、食料品、農産品は7.0%増の377億150万ドルとなり、そろって拡大した。

ロシアの最大輸入商品は「機械、設備、輸送手段、その他（68～70、84～90、91～97）」である。2024年のこれら商品が輸入全体に占める割合は50.2%にのぼった。

米欧日メーカーが撤退した穴を埋めるかのように、機械から電気機器、自動車まで幅広い分野で、中国製品の存在感が増している。中国ブランド車のロシア国内での販売シェアが60%以上を達するなど、市場の勢力図はこの3年で一変した。

いまや工業製品の多くの部分を、中国や第3国経由での輸入に頼っており、軍事転用可能な物資の流入は、そのままロシアを支援することを意味する。2024年もまた制裁を強化して、ロシアへの流入を食い止めようとする西側諸国と、どんな手段を使ってでも先端部品や設備を調達しようとするロシアの攻防が繰り返された。ロシアの街の様子を見れば、制裁があまり効いていないのは明らかである。輸入もまたロシアの継戦能力を支えた。

米国は、かねてより中国が軍事転用可能な原料や製品のロシアへの輸出を増やし、ロシアの軍需産業の生産拡大を支援していると指摘。軍事転用可能な原料や製品のロシアへの輸出を中止するよう求めた。こうした支援がロシアの経済を長期的に発展させ、ロシアの戦争継続能力を高めていると批判し、制裁の発動をちらつかせた。

バイデン大統領は2023年12月、対ロ制裁の回避に関与した銀行に制裁を科す大統領令に署名した。ロシアの軍需産業と取引を行う第三国の銀行に対して、米国での活動を制限する二次制裁を科すという内容で、決済機能を担う金融機関に圧力をかけることで、第3国の企業、とくに中国企業にロシアとの取引停止を迫った。制裁が科せられれば、国際金融ネットワークから締め出され、ドル取引が事

実上できなくなり、海外企業との決済業務が困難になるなど経営に大きな影響が及ぶ恐れがあった。

二次制裁を回避したい中国の銀行は昨年初から5月ごろにかけて、相次いでロシアとの貿易決済を拒否したり、遅らせたりした。ロシアとの決済を停止する動きは、中国の大手だけでなく中小の銀行にも広がった。

中国税関のデータによれば、昨年春には米国による圧力が強まる中、機械や電気機器の輸出が前年同月を下回る場面があったものの、その影響は小さかった。ロシアの貿易統計をみても、機械、設備、輸送手段は前年比0.9%増の1,470億9,610万ドルを記録しており、全体的な影響は限定的であったといえる。

(4)ロシアの貿易相手地域

ロシアの輸出相手地域は2022年以降、アジアの比重が急速に高まっている。2024年にはアジア向け輸出が全体の76%を占める一方、これまで主力市場であったヨーロッパ向けは16%にまで低下した。輸入も同様の傾向を示し、2019年に4割強だったアジアのシェアは2023年に66%、2024年には68%に達し、全体の7割近くを占めるまでになった。対照的に、ヨーロッパのシェアは26%まで低下し、減少傾向が続いている。

プーチン政権は、中国や「グローバル・サウス」と呼ばれる新興・途上国との関係強化を戦略的に進めている。アフリカ諸国との貿易はその典型であり、ロシアの輸出額は2021年比で3.6倍、輸入も52.6%増加し、年々拡大している。一方、米国やカナダなど制裁国に加え、ブラジルやアルゼンチンなど非制裁国を含む米州との貿易は、輸出が61.4%、輸入が43.6%減少し、存在感は低下した。オーストラリアやニュージーランドを含むオセアニアとの貿易も、輸出が98.2%、輸入が87.3%減少するなど、急速に縮小している。

もっとも、アジア地域との経済関係の強化はウクライナ侵攻後に突然始まったわけではない。プーチン政権は2000年の発足当初からアジア重視を掲げ、エネルギー輸出拡大に向けたパイプライン整備、ウラジオストクの大規模開発、極東地域への投資誘致のための特区設置など、長期的な取り組みを進めてきた。侵攻後はこのアジアシフトが一段と強まり、プーチン大統領は極東の鉄道輸送インフラ拡張や資源輸出拡大を通じて、アジア太平洋地域、とくにインドや東南アジア諸国との連携強化に明確な姿勢を示している。

2005年から2024年までの大陸別輸出入比率の推移をみると、ヨーロッパの比率が低下する一方、アジアの比率が20年かけて着実に上昇してきたことがわかる。輸出では、アジアの比率は2005年の24%から2013年に30%、2020年に40%を超え、2023年には2022年の49%から72%へと急増した。ヨーロッ

パは2005年の70%から2015年に6割、2020年に5割を下回り、2023年には20%へと半減した。輸入も同様で、アジアは2005年の28%から2016年に40%を超え、2023年には2022年の57%から66%へ上昇した。ヨーロッパは2005年の6割超から2022年に4割を下回り、2023年には28%となり、この18年間でアジアとヨーロッパの立場が完全に逆転した。

輸出入とも、ウクライナ侵攻と制裁強化が決定打となり、アジアの比率が急上昇し、ヨーロッパの比率が急低下した。ロシア当局が公表する限られたデータからも、ロシアの脱米欧と新興・途上国へのシフトが一段と進展していることが明確に読み取れる。

(5)ロシアの貿易相手国

貿易相手国はこの3年間で劇的に変化した。いわゆるグローバル・サウスと呼ばれる新興・途上国との貿易が急増し、脱欧米とアジア・アフリカ重視の動きが一気に加速した。貿易相手国の上位には、従来の常連であった欧米諸国や日本に代わり、中国、インド、トルコなど制裁に参加しない国々が並ぶようになった。さらに、ブラジル、アラブ首長国連邦（UAE）、エジプト、香港といった国・地域も新たな主要パートナーとして台頭している。

2024年の輸出入相手国について、ロシア当局からは、大陸別の輸出入の金額が発表されただけである。まずはこの情報をもとに、ロシアがどのような地域と貿易を行ったかを分析する。その上で、ロシアの主要貿易相手国の輸出入データ、いわゆる「ミラーデータ」を用いて分析する。ロシアの主要貿易相手国の対ロシア輸出入データを入手し、「ロシアへの輸出」を「ロシアの輸入」、「ロシアからの輸入」を「ロシアの輸出」にひっくり返すことよって、ロシアの輸出入相手国上位5カ国を明らかにする。侵攻の長期化と西側との関係断絶がもたらしたロシアの対外関係の変化や新しい現実への適応など、ロシアの貿易動向を分析することは、現在のロシアの姿をより鮮明にとらえるヒントになるはずである。

ロシアの最大の輸出相手国は中国であり、これにインド、トルコ、ベラルーシ、カザフスタンが続く。2024年の輸出先は、中国が29.8%で首位、インドが15.1%、トルコが9.9%、ベラルーシが8.1%、カザフスタンが4.2%となった。

これら上位5カ国はいずれも西側制裁に加わらず、ロシアとの関係を維持し、原油や天然ガスなどのエネルギー輸入を継続している。中国のシェアは2022年の16.7%から29.8%へと13.1ポイント上昇し、インドも5.2%から15.1%へと9.9ポイント増加した。黒海を挟んでロシア・ウクライナ双方と関係を持つトルコは、2023年に続き3位を維持した。ベラルーシとカザフスタンを含めた上位5カ国で、ロシアの輸出全体の約67%を占める。

一方、ドイツやフランスなど従来の上位常連国は、2024年には10位圏外に後退したとみられる。このほか、UAE、ブラジル、香港、韓国などが上位に入ったと推測される。

輸入でも中国が圧倒的な首位を維持している。2024年のロシアの輸入に占める中国のシェアは40.2%で、2年連続で40%を超えた。以下、ベラルーシ(8.8%)、カザフスタン(3.4%)、ドイツ(2.9%)、トルコ(2.8%)が続く。このほか、イタリア、韓国、フランス、インドなども上位に入ったとみられる。

輸入データからは、この3年間で中国依存が一段と進むとともに、周辺国を経由した制裁逃れが活発化している実態が浮かび上がる。カザフスタンやキルギスなどからは、自国では生産されていない自動車やスマートフォンが大量にロシアへ流入しており、日本を含む西側諸国からの輸入が急増するなど、不自然な貿易動向が続いている。これらの国を経由して制裁対象品がロシアに持ち込まれていることはほぼ確実であり、米欧は制裁逃れを防ぐため圧力を強めたが、「抜け穴」を塞いでも新たなルートが生まれるという“いたちごっこ”が続いた。

非友好国の中では、韓国のみが輸出入ともに上位10カ国に入ったとみられる。総額は前年より減少したものの、韓国がロシア産の石炭やLNGの輸入を継続していることが影響している。

侵攻前まで中国に次ぐ主要貿易相手国だったドイツは、輸入では4位に踏みとどまったものの、輸出では上位から姿を消したとみられる。ドイツの貿易統計によれば、2024年の対ロ輸出は2021年比で71.7%減、対ロ輸入は95.6%減と急減した。

このほか上位にはイタリア、韓国、フランス、インドなどがランクインしたとみられる。

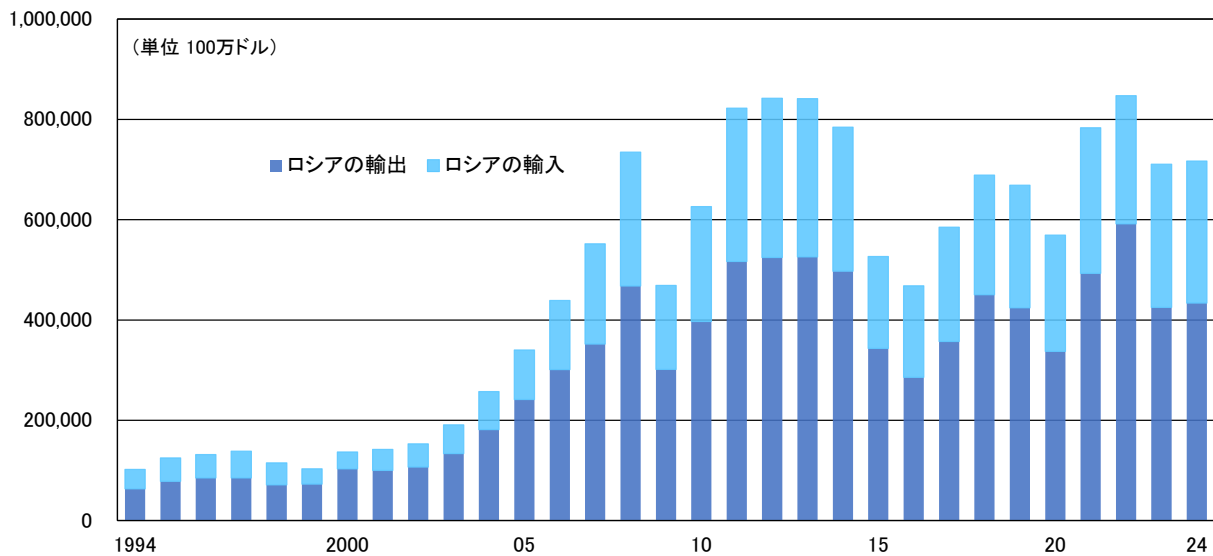
ミラーデータからも、ロシアの対外経済関係が急速に「脱米欧化」し、中国・インド・トルコなど非制裁国や新興国への依存を強めていることが明確に読み取れる。

図表1 ロシア貿易高の推移

(単位 100万ドル)

	総額	輸出(FOB)	輸入(CIF)	収支
1994	101,947	63,285	38,661	24,624
1995	124,926	78,217	46,709	31,508
1996	131,647	85,189	46,458	38,732
1997	138,219	85,096	53,123	31,972
1998	114,893	71,314	43,580	27,734
1999	103,166	72,889	30,278	42,611
2000	136,973	103,093	33,880	69,213
2001	141,853	99,970	41,883	58,087
2002	152,889	106,712	46,177	60,535
2003	191,003	133,656	57,347	76,309
2004	257,170	181,600	75,569	106,031
2005	340,181	241,473	98,708	142,766
2006	439,051	301,244	137,807	163,437
2007	551,675	351,928	199,746	152,182
2008	734,681	467,581	267,101	200,480
2009	469,015	301,667	167,348	134,319
2010	625,979	397,068	228,912	168,156
2011	822,478	516,718	305,760	210,958
2012	841,999	524,735	317,263	207,472
2013	841,274	525,976	315,298	210,679
2014	784,421	497,359	287,063	210,296
2015	526,414	343,512	182,902	160,610
2016	468,100	285,652	182,448	103,204
2017	585,136	357,266	227,870	129,396
2018	688,988	450,277	238,710	211,567
2019	668,834	424,261	244,573	179,689
2020	569,433	337,295	232,138	105,157
2021	783,471	492,907	290,564	202,343
2022	847,283	591,791	255,491	336,300
2023	710,568	425,290	285,278	140,012
2024	716,927	433,924	283,003	150,921

(出所)ロシア連邦税関局『ロシア連邦外国貿易通関統計』(各年版)、2024年はロシア連邦税関局発表。

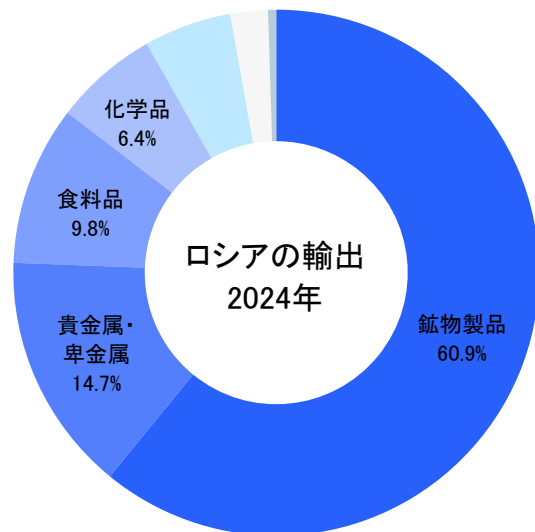
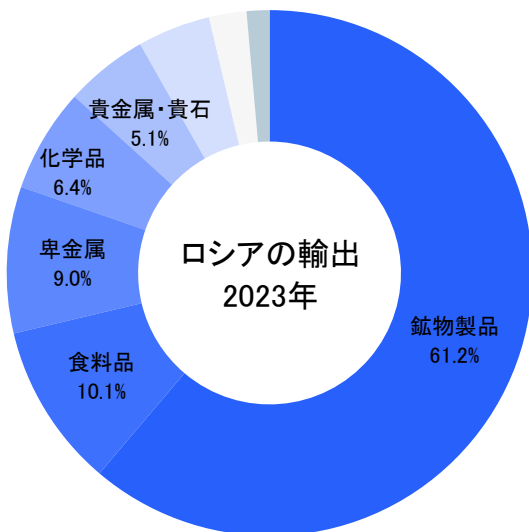


図表2 ロシアの輸出商品構成の推移

(単位 100万ドル)

商品分類 (かっこ内は対応する「類」)	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2024	
											前年 =100	シェア (%)
総額	343,512	285,652	357,262	450,278	424,261	337,295	492,907	591,791	425,290	433,924	102.0	100.0
食料品、農産品(01-24)	16,215	17,075	20,728	24,958	24,837	29,653	35,889	40,999	43,088	42,629	98.9	9.8
鉱物製品(25-27)	219,167	169,145	216,089	292,443	268,426	172,952	277,808	391,430	260,417	264,082	101.4	60.9
燃料・エネルギー(27)	216,098	166,165	211,974	287,636	263,147	167,700	269,264	384,724	255,293
化学品、ゴム(28-40)	25,405	20,819	23,948	27,485	27,143	23,911	37,795	41,973	27,240	27,593	101.3	6.4
皮革原料、同製品(41-43)	311	264	287	255	205	160	209	223	141	190	135.2	0.0
木材、紙パルプ製品(44-49)	9,845	9,807	11,780	13,917	12,797	12,356	16,987	13,973	9,857	10,115	102.6	2.3
繊維、繊維製品、履物(50-67)	873	918	1,110	1,224	1,393	1,487	1,747	1,873	1,747	2,300	131.6	0.5
貴金属、貴石、同製品(71)	7,908	8,907	11,049	10,133	15,311	30,369	31,601	18,457	21,720	63,652	106.0	14.7
卑金属、同製品(72-83)	32,852	28,651	36,488	43,481	37,576	34,894	51,021	52,188	38,309	23,363	102.6	5.4
機械、設備、輸送手段(84-90)	25,422	24,548	28,442	29,227	28,013	25,157	32,161	24,449	19,112	23,363	102.6	5.4
その他(68-70、91-97)	5,513	5,517	7,340	7,157	8,560	6,357	7,691	6,228	3,659	23,363	102.6	5.4

(出所)ロシア連邦税関局『ロシア連邦外国貿易通関統計』(各年版)、2024年はロシア連邦税関局発表。

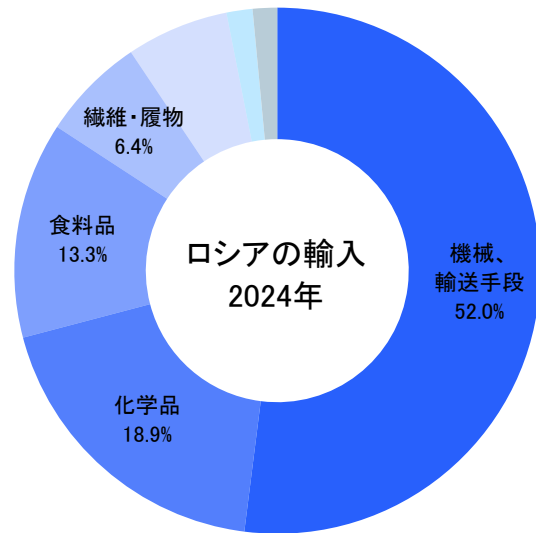
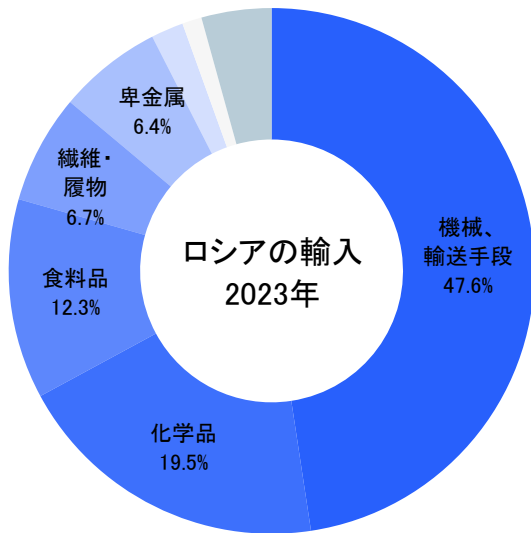


図表3 ロシアの輸入商品構成の推移

(単位 100万ドル)

商品分類 (かっこ内は対応する「類」)	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2024	
											前年 =100	シェア (%)
総額	182,902	182,448	227,870	238,710	244,573	232,138	290,564	255,491	285,278	283,003	99.2	100.0
食料品、農産品(01-24)	26,650	25,072	28,952	29,796	29,969	29,767	34,104	35,835	35,230	37,702	107.0	13.3
鉱物製品(25-27)	4,981	3,237	4,483	5,025	5,211	4,454	5,579	5,286	5,566	4,479	80.5	1.6
化学品、ゴム(28-40)	33,989	33,814	40,317	43,579	47,876	42,447	53,888	57,124	55,723	53,467	96.0	18.9
皮革原料、同製品(41-43)	822	819	1,132	1,270	1,276	986	1,309	981	1,200	1,021	85.1	0.4
木材、紙パルプ製品(44-49)	3,631	3,385	3,603	3,920	3,704	3,443	4,167	3,879	3,363	3,205	95.3	1.1
繊維、繊維製品、履物(50-67)	10,847	10,988	13,585	14,888	15,174	14,657	17,047	15,772	19,156	18,095	94.5	6.4
貴金属、貴石、同製品(71)	612	446	581	765	1,079	792	1,140	815	984	17,939	93.3	6.3
卑金属、同製品(72-83)	11,751	11,452	15,735	17,171	17,935	15,901	20,389	18,348	18,234			
機械、設備、輸送手段(84-90)	81,909	86,158	110,780	112,740	112,759	110,638	141,300	107,933	135,805	147,096	100.9	52.0
その他(68-70、91-97)	7,712	7,078	8,704	9,556	9,591	9,055	11,642	9,517	10,018			

(出所) ロシア連邦税関局『ロシア連邦外国貿易通関統計』(各年版)、2024年はロシア連邦税関局発表。



図表4 ロシアの大陸別貿易高

(単位 100万ドル)

		2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	構成比 %
全世界	総額	526,261	467,941	585,231	688,057	668,676	568,773	783,471	847,793	710,568	716,927	100.0
	輸出	343,543	285,674	357,767	449,564	424,393	337,105	492,907	592,487	425,290	433,924	100.0
	輸入	182,719	182,267	227,464	238,493	244,283	231,668	290,564	255,305	285,278	283,003	100.0
	収支	160,824	103,407	130,303	211,070	180,109	105,437	202,343	337,182	140,012	150,921	—
ヨーロッパ	総額	285,214	244,541	302,021	356,590	337,761	269,220	374,106	354,952	164,429	141,465	19.7
	輸出	196,395	156,921	193,226	244,284	225,807	165,657	249,468	265,629	85,897	68,394	15.8
	輸入	88,819	87,620	108,795	112,306	111,954	103,563	124,637	89,323	78,531	73,071	25.8
	収支	107,577	69,301	84,431	131,978	113,852	62,094	124,831	176,306	7,366	▲ 4,678	—
アジア	総額	192,934	175,119	225,051	266,694	269,092	245,692	332,606	435,588	493,667	520,380	72.6
	輸出	122,218	102,030	131,855	166,106	163,042	142,761	197,277	290,434	306,025	329,204	75.9
	輸入	70,716	73,090	93,196	100,588	106,050	102,930	135,329	145,154	187,643	191,177	67.6
	収支	51,502	28,940	38,658	65,518	56,992	39,831	61,948	145,280	118,382	138,027	—
アフリカ	総額	11,133	13,779	17,446	20,421	16,802	14,459	8,928	17,888	24,508	27,735	3.9
	輸出	8,791	11,419	14,802	17,482	13,935	11,878	6,653	14,802	21,153	24,264	5.6
	輸入	2,342	2,360	2,643	2,939	2,867	2,581	2,275	3,087	3,355	3,471	1.2
	収支	6,449	9,059	12,159	14,543	11,068	9,296	4,379	11,715	17,797	20,792	—
米州	総額	35,705	33,654	39,645	43,234	42,686	37,371	56,981	31,790	27,111	26,638	3.7
	輸出	15,564	15,079	17,569	21,400	20,416	15,983	30,803	18,662	12,080	11,881	2.7
	輸入	20,141	18,574	22,076	21,833	22,270	21,388	26,178	13,129	15,031	14,758	5.2
	収支	▲ 4,577	▲ 3,495	▲ 4,508	▲ 433	▲ 1,854	▲ 5,404	4,625	5,533	▲ 2,951	▲ 2,877	—
オセアニア	総額	1,239	801	938	991	1,275	1,330	1,266	679	173	128	0.0
	輸出	540	179	206	181	335	386	303	282	7	6	0.0
	輸入	699	621	732	810	939	944	963	397	166	123	0.0
	収支	▲ 158	▲ 442	▲ 526	▲ 629	▲ 604	▲ 557	▲ 660	▲ 114	▲ 159	▲ 117	—

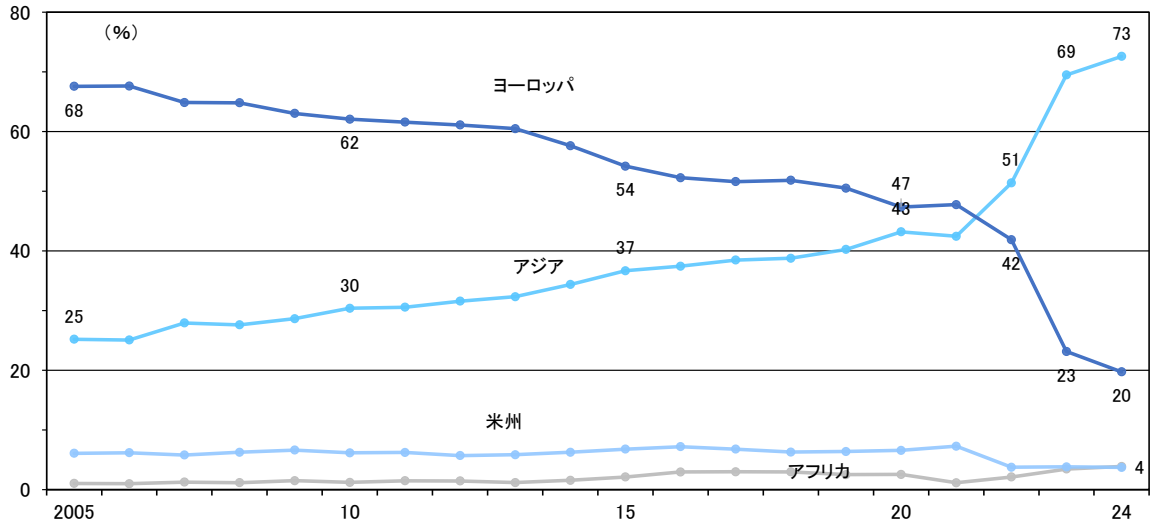
(構成比)

(単位 %)

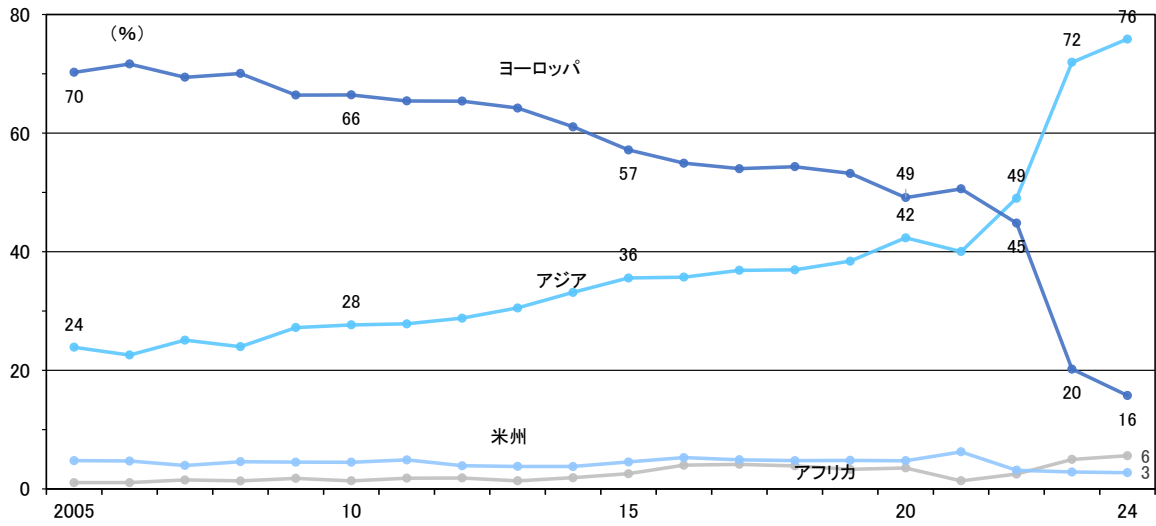
		2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
ヨーロッパ	総額	54.2	52.3	51.6	51.8	50.5	47.3	47.7	41.9	23.0	19.7
	輸出	57.2	54.9	54.0	54.3	53.2	49.1	50.6	44.8	20.0	15.8
	輸入	48.6	48.1	47.8	47.1	45.8	44.7	42.9	35.0	27.5	25.8
アジア	総額	36.7	37.4	38.5	38.8	40.2	43.2	42.5	51.4	69.6	72.6
	輸出	35.6	35.7	36.9	36.9	38.4	42.3	40.0	49.0	72.1	75.9
	輸入	38.7	40.1	41.0	42.2	43.4	44.4	46.6	56.9	65.8	67.6
アフリカ	総額	2.1	2.9	3.0	3.0	2.5	2.5	1.1	2.1	3.5	3.9
	輸出	2.6	4.0	4.1	3.9	3.3	3.5	1.3	2.5	5.0	5.6
	輸入	1.3	1.3	1.2	1.2	1.2	1.1	0.8	1.2	1.2	1.2
米州	総額	6.8	7.2	6.8	6.3	6.4	6.6	7.3	3.7	3.8	3.7
	輸出	4.5	5.3	4.9	4.8	4.8	4.7	6.2	3.1	2.9	2.7
	輸入	11.0	10.2	9.7	9.2	9.1	9.2	9.0	5.1	5.3	5.2
オセアニア	総額	0.2	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2	0.1	0.0	0.0
	輸出	0.2	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0
	輸入	0.4	0.3	0.3	0.3	0.4	0.4	0.3	0.2	0.1	0.0

(出所)ロシア連邦税関局『ロシア連邦外国貿易通関統計』(各年版)、2024年はロシア連邦税関局発表(図表5～7も同じ)。

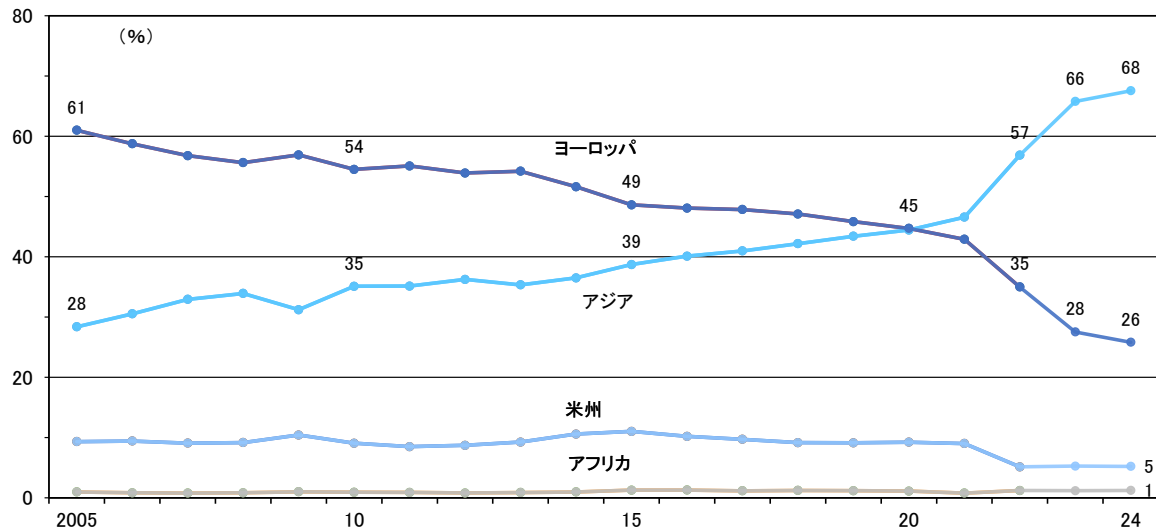
図表5 ロシアの大陸別貿易高構成 (輸出入合計)



図表6 ロシアの大陸別貿易高構成 (輸出)



図表7 ロシアの大陸別貿易高構成 (輸入)



図表8 ロシアの輸出相手国上位5カ国の顔ぶれの変遷

(数字はロシアの輸出総額に占めるシェア、%)

	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
1	中国 12.46	中国 13.51	中国 14.58	中国 13.97	中国 16.68	中国 25.12	中国 29.83
2	オランダ 9.66	オランダ 10.55	オランダ 7.36	オランダ 8.55	トルコ 9.13	インド 12.08	インド 15.14
3	ドイツ 7.60	ドイツ 6.61	英国 6.87	ドイツ 6.03	オランダ 7.59	トルコ 10.79	トルコ 9.87
4	ベラルーシ 4.89	トルコ 4.98	ドイツ 5.52	トルコ 5.49	インド 5.23	ベラルーシ 5.51	ベラルーシ 8.07
5	トルコ 4.74	ベラルーシ 4.89	ベラルーシ 4.74	ベラルーシ 4.69	イタリア 4.87	カザフ 4.01	カザフ 4.21

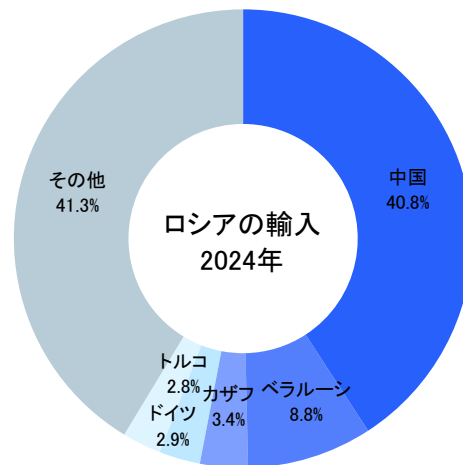
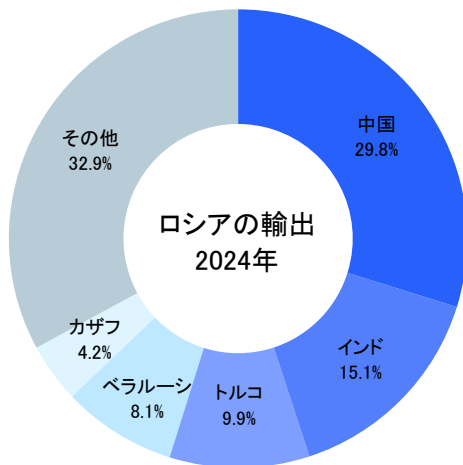
(注)2024年は各国税関または統計局の貿易統計の「ロシアからの輸入」を「ロシアの輸出」にひっくり返して掲載。
(出所)2018年から2023年まではロシア連邦税関局『ロシア連邦外国貿易通関統計』、2024年は各国税関または統計局の貿易統計(図表9も同じ)。

図表9 ロシアの輸入相手国上位5カ国の顔ぶれの変遷

(数字はロシアの輸入総額に占めるシェア、%)

	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
1	中国 21.90	中国 22.16	中国 23.70	中国 24.77	中国 33.65	中国 42.40	中国 40.80
2	ドイツ 10.70	ドイツ 10.28	ドイツ 10.09	ドイツ 9.32	ベラルーシ 8.70	ベラルーシ 8.42	ベラルーシ 8.83
3	米国 5.25	米国 5.40	米国 5.63	米国 5.75	ドイツ 6.47	ドイツ 4.68	カザフ 3.37
4	ベラルーシ 5.20	ベラルーシ 5.35	ベラルーシ 5.44	ベラルーシ 5.33	カザフ 3.76	カザフ 4.02	ドイツ 2.89
5	イタリア 4.44	イタリア 4.46	イタリア 4.40	韓国 4.42	イタリア 3.69	トルコ 3.53	トルコ 2.76

(注)2024年は各国税関または統計局の貿易統計の「ロシアへの輸出」を「ロシアの輸入」にひっくり返して掲載。



2. ロシアの石油ガス輸出の「脱米欧化」

本稿では、ロシアの調査会社Tebiz Group発行「ロシアの原油・LNG・ガス市場分析」から資料を用い、ロシアの原油、LNG（液化天然ガス）、ガスの輸出状況の変化、とくに輸出相手先の変化について整理・分析する。ご存知のとおり、ロシアは2022年2月のウクライナ侵攻以降、輸出データの公表を制限している。国際機関や各国税関当局が発表するデータとの間に多少の差はあるものの、侵攻の長期化と西側との関係対立がもたらした輸出先の変化など、資料を分析することは、ロシアのエネルギー部門の「脱米欧化」よりの確にとらえるヒントになるはずである。

本稿で使用する地域区分と友好国・非友好国の区分は以下のとおりである。

ロシアが定める非友好国

非友好国の国々
米国、EU加盟国、英国、日本、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、ノルウェー、スイス、シンガポール、台湾、韓国、アルバニア、アンドラ、アイスランド、リヒテンシュタイン、モナコ、サンマリノ、北マケドニア、ウクライナ、モンテネグロ、ミクロネシア

国の地域区分

地域	対象国
欧州	アイスランド、アイルランド、アルバニア、アンドラ、イタリア、英国、エストニア、オーストリア、オランダ、北マケドニア、キプロス、ギリシャ、クロアチア、コソボ、サンマリノ、スイス、スウェーデン、スペイン、スロバキア、スロベニア、セルビア、チェコ、デンマーク、ドイツ、ノルウェー、バチカン、ハンガリー、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ポルトガル、マルタ、モナコ、モンテネグロ、ラトビア、リヒテンシュタイン、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルク
アジア	インド、インドネシア、カンボジア、シンガポール、スリランカ、タイ、韓国、中国、ネパール、パキスタン、バングラデシュ、東ティモール、フィリピン、ブータン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、モルディブ、モンゴル、ラオス、日本
旧ソ連	アゼルバイジャン、アルメニア、ウクライナ、ウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、ジョージア、タジキスタン、トルクメニスタン、ベラルーシ、モルドバ、ロシア
中東	アフガニスタン、アラブ首長国連邦、イエメン、イスラエル、イラク、イラン、オマーン、カタール、クウェート、サウジアラビア、シリア、トルコ、バーレーン、ヨルダン、レバノン
アフリカ	アルジェリア、アンゴラ、ウガンダ、エジプト、エスワティニ、エチオピア、エリトリア、ガーナ、カーボベルデ、ガボン、カメルーン、ガンビア、ギニア、ギニアビサウ、ケニア、コートジボワール、コモロ、コンゴ共和国、コンゴ民主共和国、サントメ・プリンシペ、ザンビア、シエラレオネ、ジブチ、ジンバブエ、スーダン、セーシェル、赤道ギニア、セネガル、ソマリア、タンザニア、チャド、中央アフリカ、チュニジア、トーゴ、ナイジェリア、ナミビア、ニジェール、ブルキナファソ、ブルンジ、ベナン、ボツワナ、マダガスカル、マラウイ、マリ、南アフリカ、南スーダン、モザンビーク、モーリシャス、モーリタニア、モロッコ、リビア、リベリア、ルワンダ、レソト
北米	米国、カナダ
中南米	アルゼンチン、アンティグア・バーブーダ、ウルグアイ、エクアドル、エルサルバドル、ガイアナ、キューバ、グアテマラ、グレナダ、コスタリカ、コロンビア、ジャマイカ、スリナム、セントビンセントおよびグレナディーン諸島、セントクリストファー・ネイビス、セントルシア、チリ、ドミニカ国、ドミニカ共和国、トリニダード・トバゴ、ニカラグア、ハイチ、パナマ、バハマ、パラグアイ、バルバドス、ブラジル、ベネズエラ、ベリーズ、ペルー、ボリビア、ホンジュラス、メキシコ
大洋州	オーストラリア、キリバス、クック諸島、サモア、ソロモン諸島、ツバル、トンガ、ナウル、ニウエ、ニュージーランド、バヌアツ、パプアニューギニア、パラオ、フィジー、マーシャル、ミクロネシア

(1)原油

2022年2月のロシアによるウクライナ侵攻、その後の西側諸国のロシアに対する制裁、ロシアの対抗措置は、これまで考え方で相違・対立はあるものの、最後は関係を維持してきたロシアと西側諸国との対立を決定的なものとした。侵攻から4年以上がたった今、その対立は一段と深まり、ロシアの「脱米欧化」、「脱西側化」、そして西側諸国の「脱ロシア化」が進行している。この地政学的な分断は、ロシア経済の中心を占めるエネルギー輸出、とりわけ原油輸出の構造に大きな変化をもたらした。

ロシアの原油輸出先は、この4年間で劇的に変化した。侵攻後、西側制裁に参加しないアジア諸国やグローバル・サウス諸国への輸出が急増し、ロシアの「脱欧米」とアジア・新興国重視の傾向が一段と強まった。とりわけ中国とインドを中心とするアジア地域への輸出は急速に拡大し、2024年にはアジア向けが全体の70%以上を占めるまでになっている。一方で、侵攻前までロシアの主要市場であった欧州向け輸出は急減し、2024年にはわずか5.1%にまで縮小した。さらに、トルコを含む中東地域への輸出も増加し、同年には21.3%を占めるまでに拡大している。

侵攻前の2019年と比較すると、この変化はより鮮明である。アジア向け輸出は38.2%から68.5%へと大幅に増加し、中東向けも3.1%から21.3%へと急伸した。一方、欧州向け輸出は50.8%から5.1%へと急減し、北米向けは2.1%から0.0%となり完全に消滅した。ロシアの原油輸出は、わずか数年で欧米中心からアジア・中東中心へと大きく軸足を移したことがわかる。

また、輸出先を政治的な区分で見ると、変化はさらに劇的である。2024年の原油輸出のうち93.9%がロシアにとっての「友好国」向けとなり、「非友好国」向けは6.1%にとどまった。2019年時点では友好国向けが約4割、非友好国向けが約6割であったことを踏まえると、この5年間で輸出先の政治的偏りが極端に強まったことがわかる。非友好国向け輸出は、侵攻前の10分の1程度にまで縮小した。

輸出相手国別にみると、ロシアの最大の原油輸出先は中国であり、これにインド、アラブ首長国連邦(UAE)、トルコ、ベラルーシが続く。2024年のデータによれば、数量ベースでの輸出先は1位が中国、2位がインド、3位がUAEで、この3カ国だけで全体の81.6%を占めている。4位にはトルコ、5位にはベラルーシが入り、上位国への集中が顕著である。

この3年間で、オランダ、ドイツ、イタリアといった欧州の主要輸入国や、日本・韓国向けの輸出は大幅に減少した。一方で、中国やインドをはじめとする、いわゆるグローバル・サウスの新興国・途上国向けの輸出が大きく増加している。制裁に参加しない国々がロシア産原油の主要な受け皿となり、輸出構造の重心が明確に移動したことがわかる。

加えて、輸出相手国の寡占化も急速に進んでいる。前述のとおり、ロシアの原油輸出の80%以上を中国・インド・UAEの3カ国が占めており、これにトルコとベラルーシを加えると、上位5カ国で全

体の90%以上を占める状況となっている。輸出先の集中度が高まることで、ロシアはこれら少数の国々への依存を強めており、価格交渉力や外交的な影響力の面で新たなリスクを抱えるともいえる。

こうした輸出構造の変化の背景には、複数の要因が重層的に作用している。第1に、西側諸国による制裁がロシアの欧米市場へのアクセスを大幅に制限し、ロシアが代替市場の確保を迫られたことが挙げられる。第2に、中国やインドをはじめとするアジア諸国は、エネルギー需要の増大と価格面での優位性から、割引価格で供給されるロシア産原油の受け入れを積極的に進めた。第3に、ロシア自身が欧米依存からの脱却を戦略的に進め、アジア・中東とのエネルギー協力を強化してきたことも大きい。さらに、制裁回避のための「影の船団」の構築や決済ルートの多角化など、ロシア側の制度的・物流的対応も輸出先の再編を後押しした。

ロシアの原油輸出構造は短期的には現在のアジア・中東偏重の状態が続くとみられる。欧米市場の回復は制裁解除が前提となるが、現状ではその可能性は極めて低い。一方で、アジア諸国との関係は今後も強化されるであろう。ロシアは中国やインドへの依存度をさらに高める可能性がある。ただし、輸出先の集中はロシアにとって価格交渉力の低下を招き、長期的には経済的リスクとなり得る。また、アジア諸国側でもエネルギー供給源の多角化が進む可能性があり、ロシアが現在の市場シェアを維持できる保証はない。

以上のように、ロシアの原油輸出構造は、ウクライナ侵攻と制裁を契機として大きく変化した。欧米市場の喪失を背景に、ロシアはアジア・中東・グローバル・サウス諸国への依存を急速に高めており、輸出先の集中度も高まっている。この構造変化は、ロシア経済の持続性やエネルギー市場の地政学的バランスに長期的な影響を及ぼす可能性が高い。

さらに、国際エネルギー市場全体が脱炭素化の潮流に向かう中で、ロシアの化石燃料依存型経済は構造的な課題を抱えている。短期的には制裁下での輸出先再編に成功したものの、中長期的にはエネルギー需要の変化や技術革新がロシアの輸出収入に影響を与える可能性が高い。

図表10 ロシア産原油の輸出地域(数量)

(単位 1,000t)

	2019	2020	2021	2022	2023	2024
合計	267,337	231,762	225,296	250,928	231,188	269,263
欧州	138,023	115,209	109,370	101,953	24,002	14,502
アジア	96,571	95,066	91,011	123,289	182,521	180,192
旧ソ連	18,305	14,852	12,651	13,198	14,329	14,197
中東	8,155	3,101	4,191	11,763	9,274	58,720
アフリカ	0	140	0	0	800	1,653
北米	5,681	2,785	7,367	625	0	0
中南米	155	0	600	100	261	0
大洋州	351	608	108	0	0	0

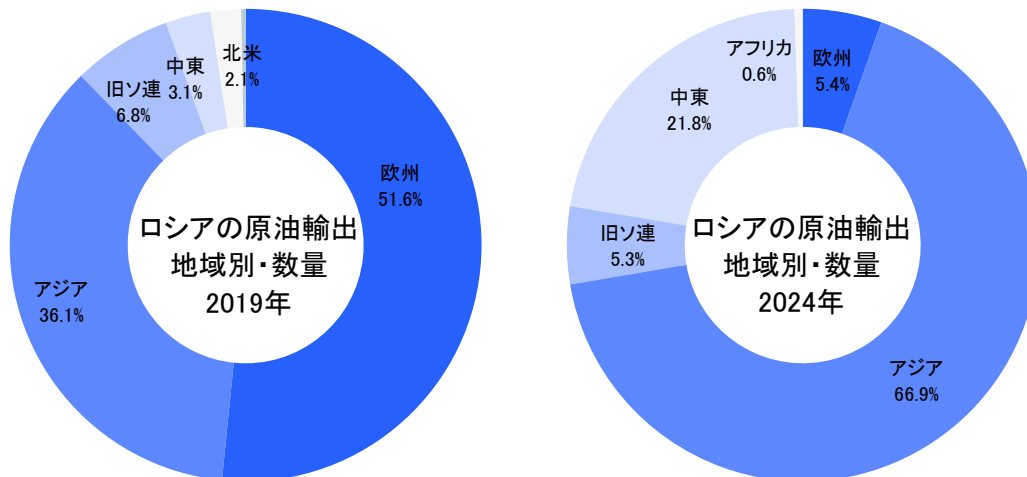
(出所)Tebiz「ロシアの原油市場分析」(2024、2025)(図表11~25も同じ)。

図表11 ロシア産原油の輸出地域(数量 全体=100)

(単位 %)

	2019	2020	2021	2022	2023	2024
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
欧州	51.6	49.7	48.5	40.6	10.4	5.4
アジア	36.1	41.0	40.4	49.1	78.9	66.9
旧ソ連	6.8	6.4	5.6	5.3	6.2	5.3
中東	3.1	1.3	1.9	4.7	4.0	21.8
アフリカ	0.0	0.1	0.0	0.0	0.3	0.6
北米	2.1	1.2	3.3	0.2	0.0	0.0
中南米	0.1	0.0	0.3	0.0	0.1	0.0
大洋州	0.1	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0

図表12 ロシア産原油の輸出地域(数量)



図表13 ロシア産原油の輸出地域(金額)

(単位 1,000ドル)

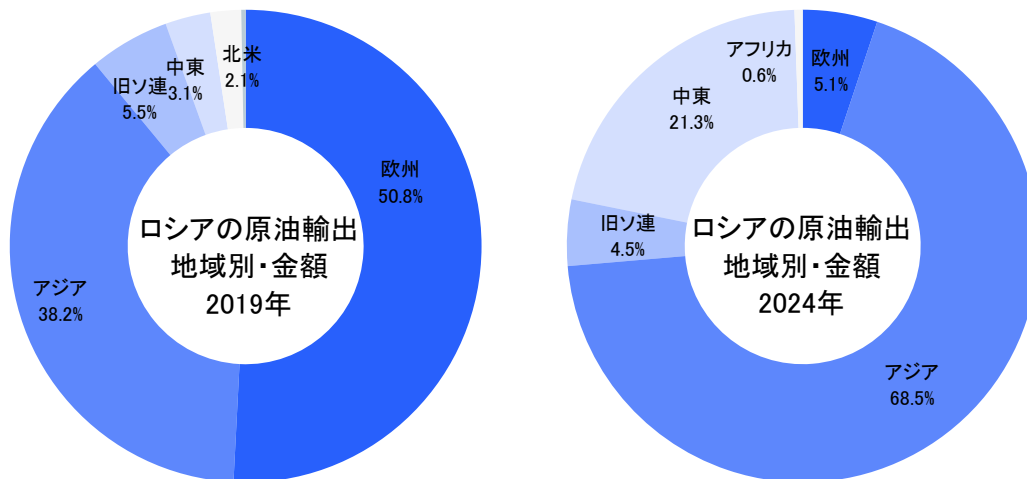
	2019	2020	2021	2022	2023	2024
合計	121,350,097	70,383,122	107,913,580	144,657,453	108,586,737	135,738,308
欧州	61,692,811	33,780,448	51,555,973	57,133,962	9,986,446	6,942,080
アジア	46,336,047	30,706,521	44,922,544	75,142,852	87,787,700	93,019,365
旧ソ連	6,674,251	3,604,751	5,303,689	5,570,001	6,145,971	6,141,714
中東	3,778,466	1,051,580	2,102,699	6,310,547	4,146,207	28,874,763
アフリカ	1,347	41,881	0	0	356,954	760,386
北米	2,586,677	949,708	3,702,950	446,672	0	0
中南米	67,470	0	284,757	53,418	163,460	0
大洋州	175,460	248,233	40,969	0	0	0

図表14 ロシア産原油の輸出地域(金額 全体=100)

(単位 %)

	2019	2020	2021	2022	2023	2024
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
欧州	50.8	48.0	47.8	39.5	9.2	5.1
アジア	38.2	43.6	41.6	51.9	80.8	68.5
旧ソ連	5.5	5.1	4.9	3.9	5.7	4.5
中東	3.1	1.5	1.9	4.4	3.8	21.3
アフリカ	0.0	0.1	0.0	0.0	0.3	0.6
北米	2.1	1.3	3.4	0.3	0.0	0.0
中南米	0.1	0.0	0.3	0.0	0.2	0.0
大洋州	0.1	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0

図表15 ロシア産原油の輸出地域(金額)



図表16 ロシア産原油の非友好国向け輸出(数量)

(単位 1,000t)

	2019	2020	2021	2022	2023	2024
合計	267,337	231,762	225,296	250,928	231,188	269,263
非友好国	166,327	138,999	135,202	112,247	30,088	17,346

図表17 ロシア産原油の非友好国向け輸出(数量 全体=100)

(単位 %)

	2019	2020	2021	2022	2023	2024
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
非友好国	62.2	60.0	60.0	44.7	13.0	6.4

図表18 ロシア産原油の非友好国向け輸出(金額)

(単位 1,000ドル)

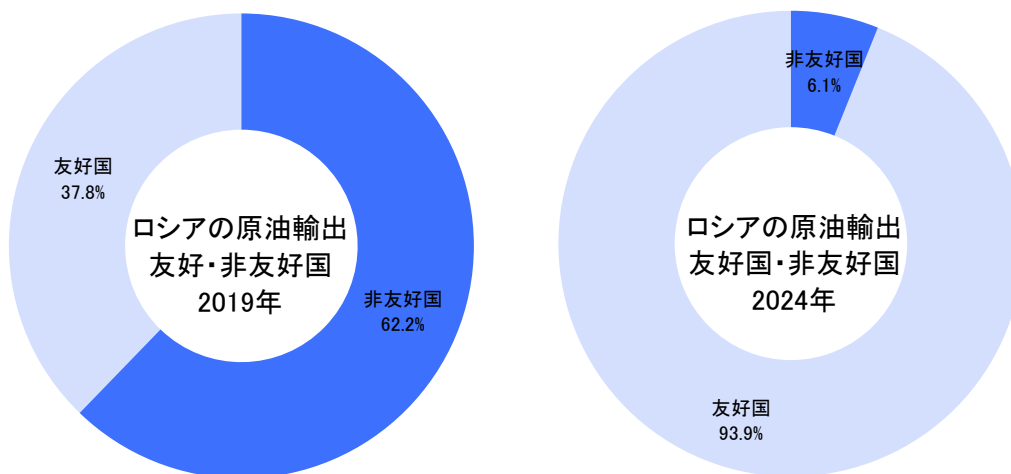
	2019	2020	2021	2022	2023	2024
合計	121,350,097	70,383,122	107,913,580	144,657,453	108,586,737	135,738,308
非友好国	75,530,162	42,065,123	64,093,132	64,219,203	12,736,100	8,212,993

図表19 ロシア産原油の非友好国向け輸出(金額 全体=100)

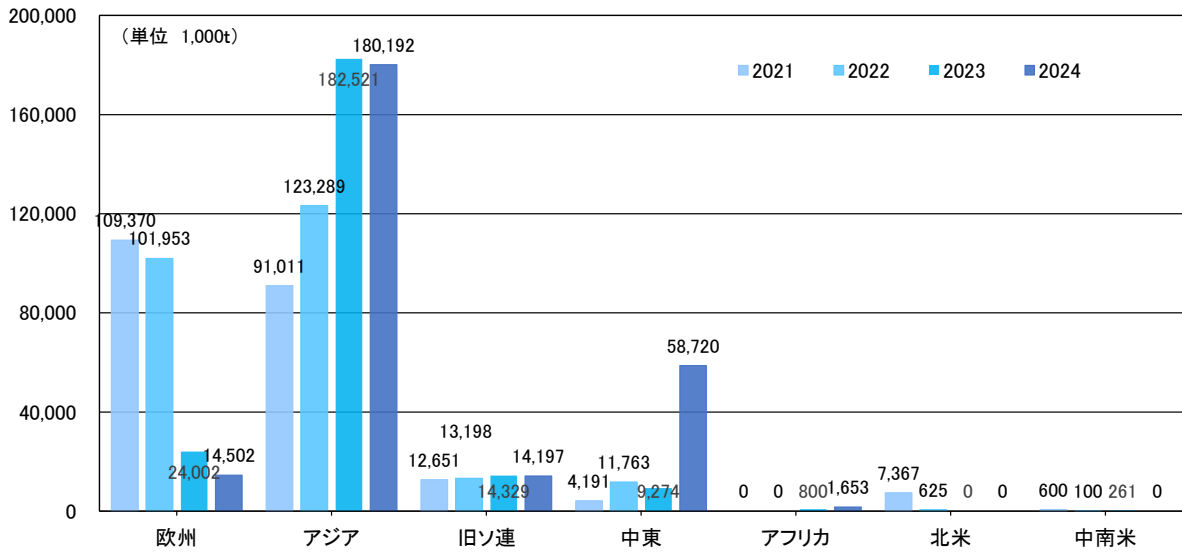
(単位 %)

	2019	2020	2021	2022	2023	2024
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
非友好国	62.2	59.8	59.4	44.4	11.7	6.1

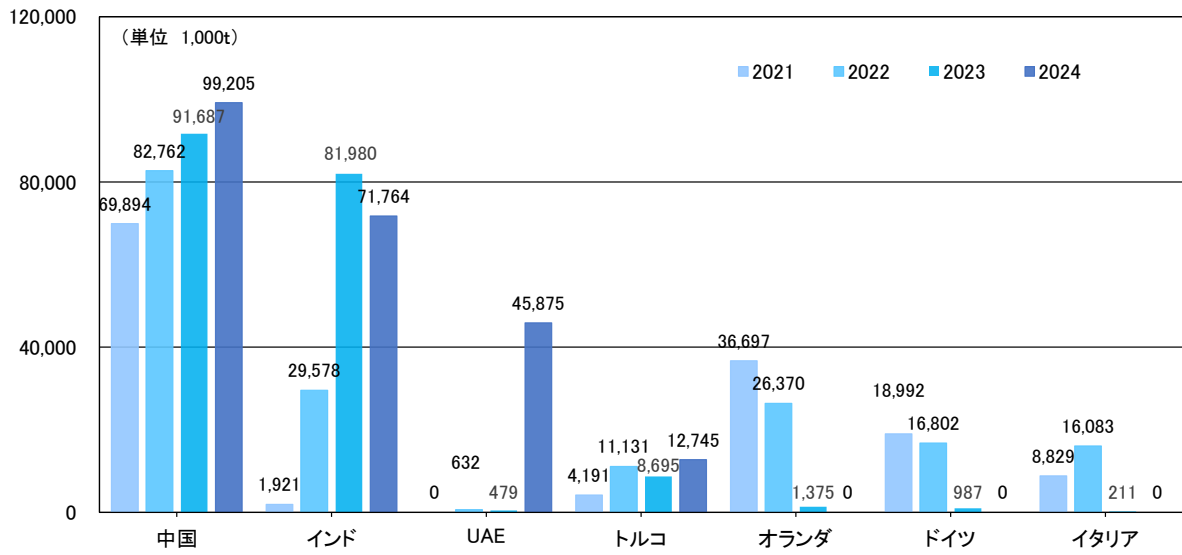
図表20 ロシア産原油の友好・非友好国のシェア(数量)



図表21 ロシア産原油の輸出地域（数量）



図表22 ロシア産原油の主要輸出相手国（数量）



図表23 ロシアの原油輸出相手国(数量)

(単位 1,000t)

	国名	2019	2020	2021	2022	2023	2024
	合計	267,337.0	231,762.4	225,296.0	250,928.3	231,187.6	269,263.3
1	中国	70,624.4	72,482.1	69,894.1	82,762.1	91,687.4	99,204.8
2	インド	2,465.3	937.2	1,921.5	29,577.8	81,979.8	71,764.3
3	アラブ首長国連邦	0.0	0.0	0.0	631.7	478.9	45,874.8
4	トルコ	8,155.1	2,645.6	4,190.9	11,130.8	8,695.0	12,745.4
5	ベラルーシ	18,035.5	14,762.8	12,650.6	13,079.1	12,958.3	12,460.1
6	スロバキア	5,025.4	5,433.3	5,199.3	5,116.1	4,589.0	6,552.0
7	ハンガリー	4,321.5	3,805.0	3,369.1	5,092.8	4,527.3	4,508.7
8	チェコ	3,822.2	3,024.8	3,370.5	4,093.7	4,353.9	3,202.7
9	ミャンマー	139.9	0.0	0.0	0.0	1,846.4	3,185.8
10	香港	0.0	187.0	5.0	183.1	42.1	2,484.9
11	韓国	15,295.0	14,475.0	13,477.2	7,363.2	4,612.3	1,797.3
12	アゼルバイジャン	243.7	64.6	0.0	112.2	1,272.9	1,506.0
13	シンガポール	539.5	0.0	450.3	500.3	1,381.4	1,047.2
14	エジプト	0.0	0.0	0.0	0.0	467.1	723.4
15	ブルネイ	0.0	238.4	0.0	0.0	100.0	567.7
16	セーシェル	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	637.4
17	モロッコ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	291.9
18	ブルガリア	3,516.2	2,432.3	1,665.6	5,300.0	5,490.9	238.4
19	ウズベキスタン	0.0	0.0	0.0	7.0	94.7	225.2
20	マレーシア	568.7	400.2	735.8	700.3	240.0	139.7
21	オマーン	0.0	0.0	0.0	0.0	100.1	99.9
22	ジョージア	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.5
23	北朝鮮	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
	オランダ	45,211.6	31,239.4	36,696.6	26,369.5	1,375.0	0.0
	ポーランド	14,036.1	13,260.2	11,207.5	10,999.6	1,152.7	0.0
	ドイツ	18,904.0	20,583.3	18,991.9	16,801.9	987.5	0.0
	イタリア	14,232.4	12,398.8	8,829.2	16,082.6	211.1	0.0
	ブラジル	0.0	0.0	0.0	0.0	261.3	0.0
	パキスタン	0.0	0.0	0.0	0.0	300.0	0.0
	日本	6,437.9	5,921.3	4,430.3	1,903.0	92.3	0.0
	米国	4,733.9	2,784.7	7,366.7	625.4	0.0	0.0

(注)2024年の輸出金額の多い順とオランダ、ポーランド、ドイツ、イタリア、ブラジル、パキスタン、日本、米国を掲載。

図表24 ロシアの原油輸出相手国（金額）

（単位 100万ドル）

	国名	2019	2020	2021	2022	2023	2024
	合計	121,350.1	70,383.1	107,913.6	144,657.5	108,586.7	135,738.3
1	中国	33,668.7	22,944.3	34,764.5	52,234.9	48,057.6	53,464.5
2	インド	1,101.2	327.0	935.4	15,560.3	35,624.6	34,919.3
3	アラブ首長国連邦	0.0	0.0	0.0	343.9	205.0	22,447.1
4	トルコ	3,681.7	896.9	2,102.7	5,966.6	3,904.4	6,378.2
5	ベラルーシ	6,551.7	3,566.9	5,303.7	5,510.7	5,500.8	5,364.9
6	スロバキア	2,174.9	1,463.8	2,465.4	2,690.3	1,793.7	2,976.8
7	ハンガリー	1,861.2	1,020.6	1,619.9	2,700.6	1,840.6	2,139.6
8	チェコ	1,689.4	911.2	1,657.7	2,235.9	1,973.0	1,712.9
9	ミャンマー	55.9	0.0	0.0	0.0	896.6	1,563.8
10	香港	0.0	99.8	3.0	118.5	14.8	1,405.9
11	韓国	7,595.1	5,001.2	6,383.8	5,070.8	2,262.0	878.0
12	アゼルバイジャン	114.5	30.7	0.0	55.0	604.1	672.7
13	シンガポール	262.0	0.0	224.5	214.3	436.1	392.9
14	エジプト	0.0	0.0	0.0	0.0	141.5	357.7
15	ブルネイ	0.0	69.9	0.0	0.0	59.8	315.1
16	セーシェル	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	255.0
17	モロッコ	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	147.8
18	ブルガリア	1,548.7	681.2	732.3	2,790.3	2,391.8	112.7
19	ウズベキスタン	0.0	0.0	0.0	4.3	39.7	101.2
20	マレーシア	280.4	115.0	372.0	391.5	131.9	79.7
21	オマーン	0.0	0.0	0.0	0.0	36.9	49.5
22	ジョージア	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9
23	北朝鮮	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
	オランダ	20,456.8	9,238.1	17,014.8	15,416.6	741.6	0.0
	ポーランド	6,190.2	3,715.7	5,410.7	5,969.9	379.7	0.0
	ドイツ	8,310.6	5,918.2	9,179.2	9,382.6	335.6	0.0
	イタリア	6,339.3	3,669.5	4,193.2	8,904.0	132.9	0.0
	ブラジル	0.0	0.0	0.0	0.0	163.5	0.0
	パキスタン	0.0	0.0	0.0	0.0	162.4	0.0
	日本	3,218.1	2,085.5	2,184.9	1,385.6	51.6	0.0
	米国	2,164.1	949.7	3,702.9	446.7	0.0	0.0

（注）2024年の輸出金額の多い順とオランダ、ポーランド、ドイツ、イタリア、ブラジル、パキスタン、日本、米国を掲載。

図表25 ロシアの原油輸出相手国（1t当たりの価格）

（単位：ドル/t）

	国名	2019	2020	2021	2022	2023	2024
	合計	453.9	303.7	479.0	576.5	469.7	504.1
1	中国	476.7	316.6	497.4	631.1	524.1	538.9
2	インド	446.7	348.9	486.8	526.1	434.6	486.6
3	アラブ首長国連邦	-	-	-	544.4	428.1	489.3
4	トルコ	451.5	339.0	501.7	536.0	449.0	500.4
5	ベラルーシ	363.3	241.6	419.2	421.3	424.5	430.6
6	スロバキア	432.8	269.4	474.2	525.8	390.9	454.3
7	ハンガリー	430.7	268.2	480.8	530.3	406.6	474.5
8	チェコ	442.0	301.2	491.8	546.2	453.2	534.8
9	ミャンマー	399.6	-	-	-	485.6	490.9
10	香港	-	533.7	600.0	647.2	351.5	565.8
11	韓国	496.6	345.5	473.7	688.7	490.4	488.5
12	アゼルバイジャン	469.8	475.2	-	490.2	474.6	446.7
13	シンガポール	485.6	-	498.6	428.3	315.7	375.2
14	エジプト	-	-	-	-	302.9	494.5
15	ブルネイ	-	293.2	-	-	598.0	555.0
16	セーシェル	-	-	-	-	-	400.1
17	モロッコ	-	-	-	-	-	506.3
18	ブルガリア	440.4	280.1	439.7	526.5	435.6	472.7
19	ウズベキスタン	-	-	-	614.3	419.2	449.4
20	マレーシア	493.1	287.4	505.6	559.0	549.6	570.5
21	オマーン	-	-	-	-	368.6	495.5
22	ジョージア	-	-	-	-	-	527.3
23	北朝鮮	-	-	-	-	-	1,000.0
	オランダ	452.5	295.7	463.7	584.6	539.3	-
	ポーランド	441.0	280.2	482.8	542.7	329.4	-
	ドイツ	439.6	287.5	483.3	558.4	339.8	-
	イタリア	445.4	296.0	474.9	553.6	629.6	-
	ブラジル	-	-	-	-	625.7	-
	パキスタン	-	-	-	-	541.3	-
	日本	499.9	352.2	493.2	728.1	559.0	-
	米国	457.1	341.0	502.7	714.3	-	-

（注）2024年の輸出金額の多い順とオランダ、ポーランド、ドイツ、イタリア、ブラジル、パキスタン、日本、米国を掲載。

(2)LNG

2022年2月のロシアによるウクライナ侵攻と、それに続く西側諸国による対ロシア制裁、さらにロシアの対抗措置は、ロシアと西側諸国の対立を決定的なものとした。この対立の深刻化に伴い、ロシア経済においては「脱米欧化」「脱西側化」が急速に進み、西側諸国側でも「脱ロシア化」が加速している。

エネルギー分野では、この4年間でロシアの輸出先構造が大きく変化した。侵攻後、西側制裁に参加しないアジア諸国やグローバル・サウス諸国への石油・天然ガス輸出が急増し、ロシアの「アジア・新興国重視」の傾向は一段と強まった。

しかし、その中で侵攻前と同様に西側との取引が維持されている資源がある。それがLNGである。

G7各国はロシアの侵攻を非難し、厳しい経済制裁を相次いで導入してきたが、LNGについては制裁対象から外している。日本、韓国、台湾はロシアからのLNG輸入を継続しており、欧州諸国もLNGを例外扱いとし、むしろロシアからの輸入量を増加させてきた。

日本・韓国・台湾がロシア産LNGの輸入継続を決めた背景には、エネルギー安全保障上の要請がある。とくに日本はサハリン2プロジェクトへの関与が深く、電力供給の安定性の観点から輸入継続が不可欠とされている。また、パイプライン供給が途絶した欧州は、短期的な代替手段としてLNGの確保を優先し、ロシア産LNGを排除しなかった。

このように、ロシアと西側諸国の経済的分断が深まる中で、エネルギー分野では石油・パイプラインガスの貿易構造が大きく変化した一方、LNGのみが例外的に西側との取引を維持している。これは、エネルギー安全保障という現実的要請と、LNG市場の特性が重なった結果であり、ロシアにとっても西側にとっても戦略的に重要な資源として位置づけられている。

ロシアのLNG輸出先は、この4年間で一定の変化がみられるものの、その規模は原油や石炭ほど大きくはない。侵攻後、原油や石炭は西側制裁に参加しないアジア諸国やグローバル・サウス向けの輸出が急増した。一方で、LNGは長期契約の比率が高いことや、欧州がパイプライン供給の代替としてLNG調達を維持していることから、主要な輸出先の構図は大きく変わっていない。

依然として、フランスなどの欧州諸国、日本・韓国・中国といったアジア諸国が主要な輸出先である。ただし、変化があるとすれば、これまで輸出量の3～4割を占めていた日本と韓国向けが減少し、その一方で中国向けが増加している点が挙げられる。また、フランスやスペインなど西欧諸国向けの輸出も増加傾向にある。これは、欧州がロシア産パイプラインガスの供給減少を補うため、制裁対象外であるLNGの輸入を拡大していることが背景にある。

地域別にみると、欧州向けは56.9%と全体の約6割を占め、2019年とほぼ同じ水準である。アジア

向けも40%以上を維持しており、こちらも2019年から大きな変化はみられない。これらの数字から、ロシアのLNG輸出は侵攻前後で地域構成に大きな変化が生じていないことがわかる。

一方、輸出先を政治的な区分で見ると、2024年のLNG輸出のうち82.0%がロシアにとっての「非友好国」向けであり、「友好国」向けは12.0%にとどまった。2019年時点では友好国向けが6.2%、非友好国向けが93.8%であった。政治的な区分で変化は生じていないことがわかる。非友好国向けが大きな割合を占めている点は他のエネルギー資源にはない特徴である。

最大の輸出先は日本で、これに中国、フランス、ベルギーが続く。2024年のデータでは、輸出額の上位は1位が日本、2位が中国で、3位がフランス、4位がベルギー、5位がスペインとなり、韓国が6位に入った。一方、輸出量（数量ベース）ではフランスが1位となっており、金額ベースとは順位が異なる。これは、契約条件や価格差、輸送距離などにより、数量と金額のランキングが一致しないためと考えられる。

G7各国は、ロシアによるウクライナ侵攻を非難し、厳しい経済制裁を次々と科しているが、LNGについては制裁を科していない。ヨーロッパ諸国は、LNGを例外扱いとして、ロシアからの輸入を増やしてきた。とくにこれまでパイプライン経由でガスを輸入していたドイツ、ギリシャ、イタリアなどが、この4年間でロシア産LNGの輸入を開始している。

ヨーロッパ諸国の中で、最大の輸出先はフランスで、2024年の輸出量は584万t（全体の19.9%）に達した。続くベルギーは570万t、スペインは414万tで、これら3カ国だけでロシアのLNG輸出の50%以上を占めている。

米トランプ政権は、欧州などの同志国に対し、ロシア産エネルギーの購入停止を求めてきた。こうした流れを受け、EUは2025年10月にロシア産LNGの禁輸の1年前倒しすることを決定した。当初、ロシア産LNG禁輸は「2027年末までの段階的に停止する」方針だったが、前倒しにより、短期契約は2026年4月25日から、長期契約は2027年1月1日からの全面禁輸を目指している。

EUがLNG禁輸を1年前倒しした背景には、米トランプ政権からの強い要請があるが、EUのエネルギー安全保障戦略（REPowerEU）の存在もあった。それにより、ロシア依存を恒久的に断ち切る動きが加速。侵攻を継続するロシアに対する制裁を強化すべきとの意見がEU内で強まり、LNG禁輸は制裁パッケージの中核に位置づけられた。

図表26 ロシア産LNGの輸出地域 (数量)

(単位 1,000t)

	2019	2020	2021	2022	2023	2024
合計	28,979.4	30,202.7	29,077.0	33,014.5	31,085.0	30,342.3
欧州	17,228.0	16,128.1	14,875.2	15,728.1	17,200.5	17,264.1
アジア	11,742.9	14,070.7	14,190.0	17,234.3	13,322.4	12,711.0
旧ソ連	8.5	3.9	11.8	10.4	9.1	8.9
中東	0.0	0.0	0.0	41.7	506.1	358.4
アフリカ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
北米	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
中南米	0.0	0.0	0.0	0.0	46.9	0.0
大洋州	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

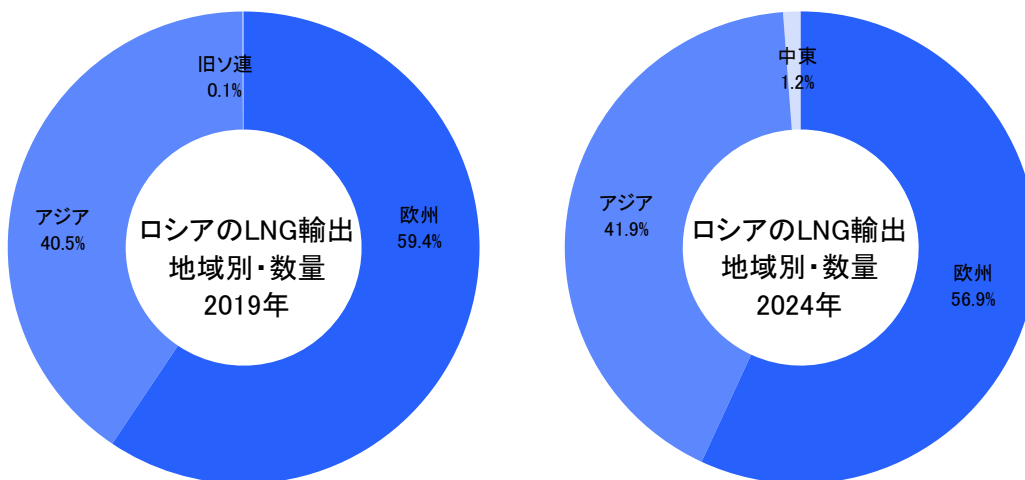
(出所) Tebiz「ロシアのLNG市場分析」(2024、2025)(図表27～41も同じ)。

図表27 ロシア産LNGの輸出地域 (数量 全体=100)

(単位 %)

	2019	2020	2021	2022	2023	2024
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
欧州	59.4	53.4	51.2	47.6	55.3	56.9
アジア	40.5	46.6	48.8	52.2	42.9	41.9
旧ソ連	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
中東	0.0	0.0	0.0	0.1	1.6	1.2
アフリカ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
北米	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
中南米	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0
大洋州	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

図表28 ロシア産LNGの輸出地域 (数量)



図表29 ロシア産LNGの輸出地域(金額)

(単位 1,000ドル)

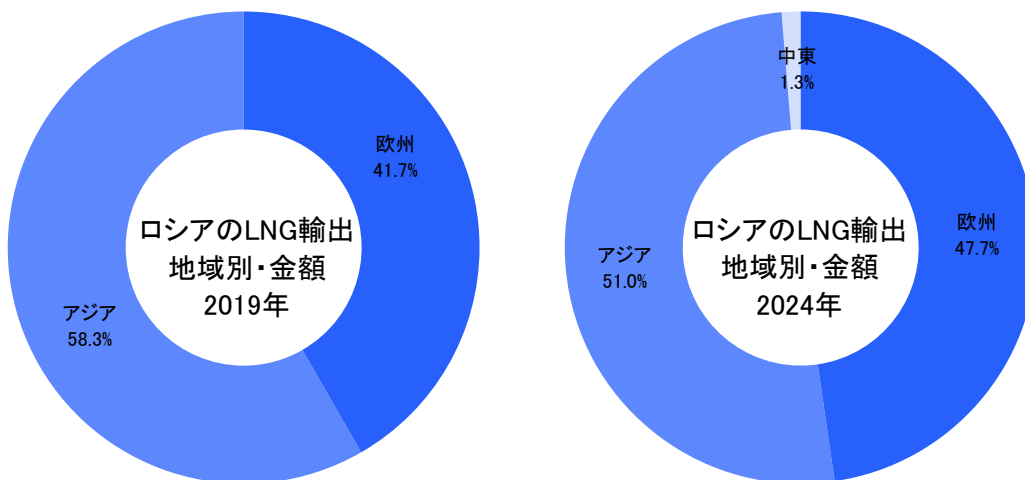
	2019	2020	2021	2022	2023	2024
合計	7,920,048	6,725,321	7,320,221	21,526,208	18,339,471	13,480,773
欧州	3,303,585	2,639,660	3,253,676	11,103,464	9,454,739	6,426,939
アジア	4,614,462	4,084,950	4,064,293	10,368,090	8,465,915	6,873,472
旧ソ連	2,002	711	2,252	2,490	1,983	2,053
中東	0	0	0	52,164	396,314	178,310
アフリカ	0	0	0	0	0	0
北米	0	0	0	0	0	0
中南米	0	0	0	0	20,520	0
大洋州	0	0	0	0	0	0

図表30 ロシア産LNGの輸出地域(金額 全体=100)

(単位 %)

	2019	2020	2021	2022	2023	2024
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
欧州	41.7	39.2	44.4	51.6	51.6	47.7
アジア	58.3	60.7	55.5	48.2	46.2	51.0
旧ソ連	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
中東	0.0	0.0	0.0	0.2	2.2	1.3
アフリカ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
北米	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
中南米	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
大洋州	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

図表31 ロシア産LNGの輸出地域(金額)



図表32 ロシア産LNGの非友好国向け輸出(数量)

(単位 1,000t)

	2019	2020	2021	2022	2023	2024
合計	28,979.4	30,202.7	29,077.0	33,014.5	31,085.0	30,342.3
非友好国	27,183.1	27,018.2	23,916.9	27,925.7	23,982.7	24,883.5

図表33 ロシア産LNGの非友好国向け輸出(数量 全体=100)

(単位 %)

	2019	2020	2021	2022	2023	2024
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
非友好国	93.8	89.5	82.3	84.6	77.2	82.0

図表34 ロシア産LNGの非友好国向け輸出(金額)

(単位 1,000ドル)

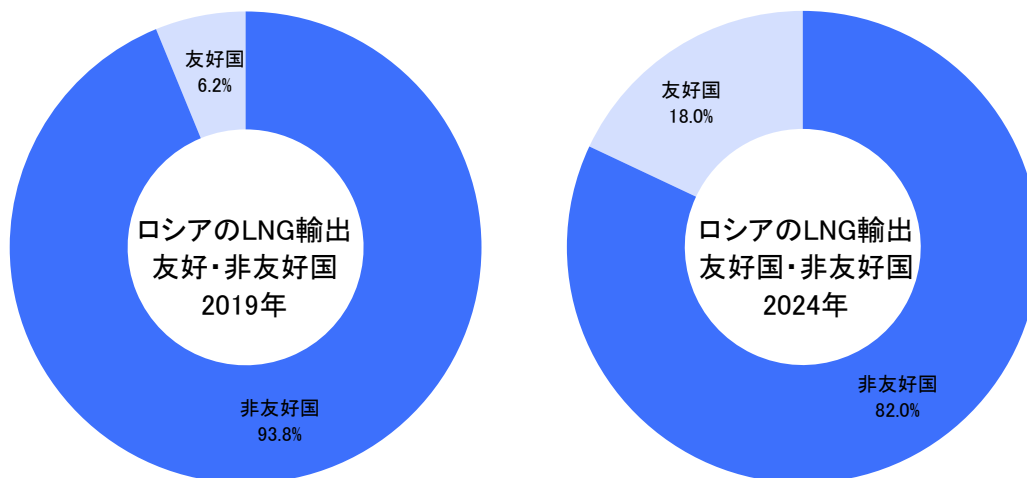
	2019	2020	2021	2022	2023	2024
合計	7,920,048	6,725,321	7,320,221	21,526,208	18,339,471	13,480,773
非友好国	7,450,430	6,054,086	5,904,918	18,120,855	13,969,700	10,926,219

図表35 ロシア産LNGの非友好国向け輸出(金額 全体=100)

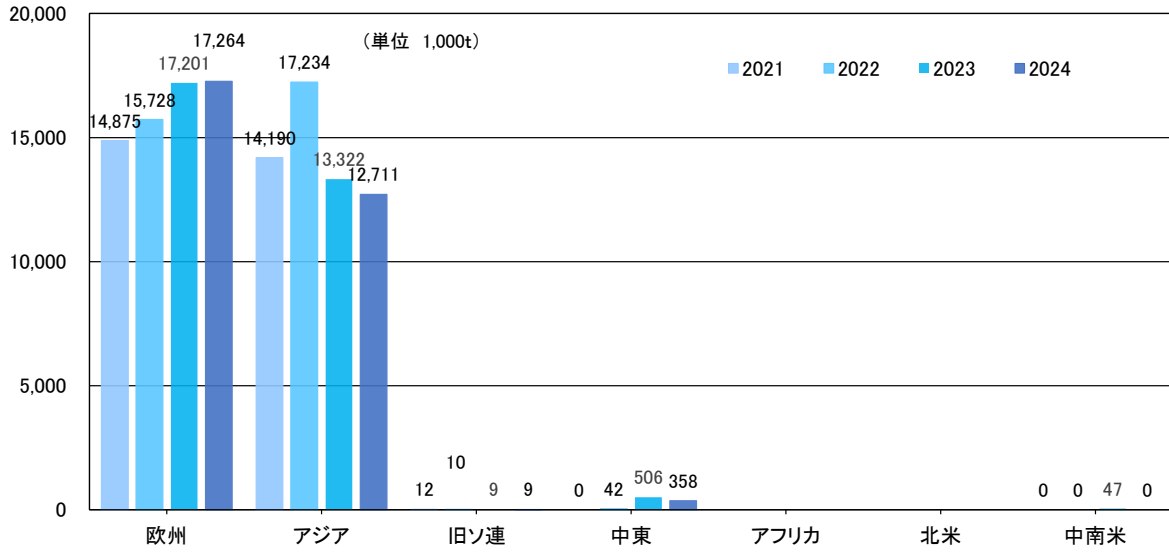
(単位 %)

	2019	2020	2021	2022	2023	2024
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
非友好国	94.1	90.0	80.7	84.2	76.2	81.1

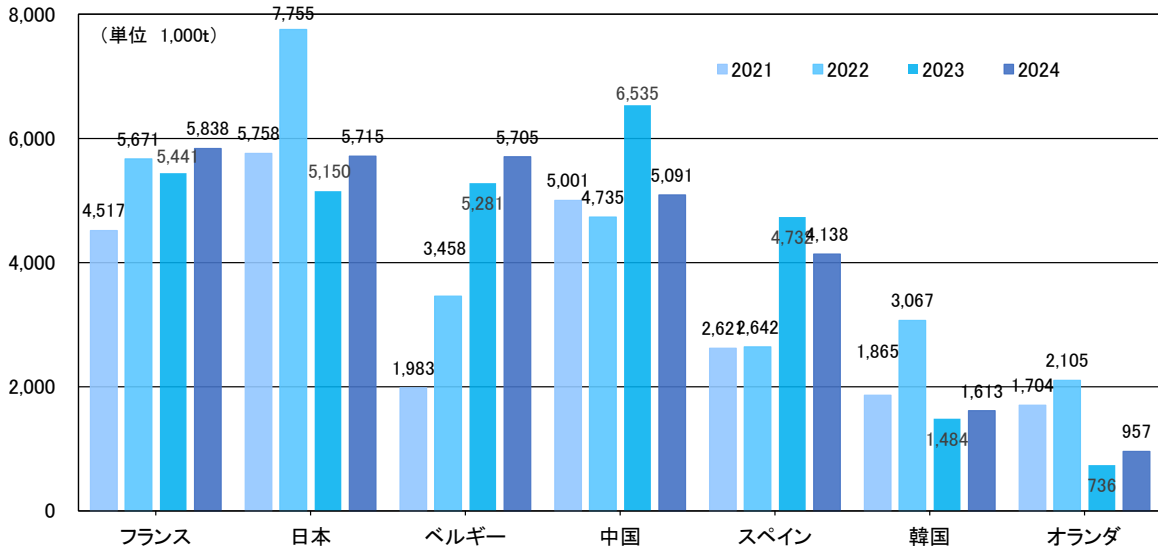
図表36 ロシア産LNGの友好・非友好国のシェア(数量)



図表37 ロシア産LNGの輸出地域 (数量)



図表38 ロシア産LNGの主要輸出相手国 (数量)



図表39 ロシアのLNG輸出相手国(数量)

(単位 1,000t)

	国名	2019	2020	2021	2022	2023	2024
	合計	28,979.4	30,202.7	29,077.0	33,014.5	31,085.0	30,342.3
1	フランス	2,488.0	4,767.3	4,516.9	5,670.9	5,440.7	5,837.7
2	日本	6,154.5	6,513.3	5,758.1	7,755.2	5,150.0	5,715.5
3	ベルギー	1,396.8	3,924.7	1,982.9	3,458.4	5,280.9	5,705.0
4	中国	1,787.8	3,180.2	5,000.7	4,734.8	6,535.3	5,090.8
5	スペイン	1,249.5	2,050.0	2,620.9	2,642.1	4,732.4	4,137.7
6	韓国	2,156.9	2,200.5	1,865.0	3,067.3	1,483.8	1,613.0
7	オランダ	1,729.1	1,999.6	1,703.8	2,104.7	736.0	957.3
8	トルコ	0.0	0.0	0.0	41.2	506.1	358.4
9	台湾	1,643.7	2,111.0	1,345.4	1,375.2	148.4	290.9
10	ギリシャ	0.0	0.0	0.0	89.8	431.0	274.5
11	フィンランド	97.5	145.0	181.7	185.3	182.0	173.8
12	ポルトガル	0.0	437.8	662.4	266.4	222.1	148.1
13	ドイツ	0.0	0.0	0.0	0.1	13.8	14.0
14	カザフスタン	8.5	3.9	11.8	10.3	9.0	8.9
15	リトアニア	127.3	213.7	315.9	59.3	3.4	6.6
16	スウェーデン	70.6	118.9	157.3	78.7	53.8	5.3
17	エストニア	18.7	26.8	30.2	7.2	3.0	4.1
18	モンゴル	0.0	0.4	1.0	0.9	0.8	0.7
19	ベラルーシ	0.0	0.0	0.1	0.2	0.0	0.0
20	イタリア	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0
21	ブラジル	0.0	0.0	0.0	0.0	46.9	0.0
22	ノルウェー	9,435.2	515.8	77.6	24.1	28.2	0.0
23	ポーランド	21.8	47.1	51.6	43.7	6.6	0.0
24	インド	0.0	0.0	73.4	145.1	4.1	0.0
25	英国	591.1	1,880.4	2,574.2	1,097.5	0.0	0.0
26	インドネシア	0.0	0.0	0.0	155.9	0.0	0.0
27	UAE	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0
28	バングラデシュ	0.0	0.0	73.2	0.0	0.0	0.0
29	シンガポール	0.0	65.3	73.2	0.0	0.0	0.0
30	ラトビア	2.2	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0
31	チェコ	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(注)2024年の輸出量の多い順に掲載。

図表40 ロシアのLNG輸出相手国(金額)

(単位 100万ドル)

	国名	2019	2020	2021	2022	2023	2024
	合計	7,920.0	6,725.3	7,320.2	21,526.2	18,339.5	13,480.8
1	日本	2,792.5	2,216.7	1,747.2	4,670.2	3,463.1	3,434.1
2	中国	467.6	670.3	1,368.8	3,167.1	3,947.8	2,373.9
3	フランス	564.0	668.8	893.2	3,704.1	3,251.3	2,313.8
4	ベルギー	358.2	871.4	391.0	2,260.3	2,660.8	1,979.1
5	スペイン	225.8	248.2	589.7	2,221.9	2,557.7	1,477.6
6	韓国	906.7	727.7	545.9	1,849.6	966.7	930.8
7	オランダ	315.0	276.1	402.0	1,499.9	516.8	382.7
8	トルコ	0.0	0.0	0.0	51.8	396.3	178.3
9	台湾	447.6	463.8	335.8	497.6	85.2	134.4
10	ギリシャ	0.0	0.0	0.0	155.0	208.3	134.1
11	フィンランド	29.9	41.1	76.6	95.3	75.0	69.4
12	ポルトガル	0.0	79.2	166.5	183.1	107.8	60.0
13	ドイツ	0.0	0.0	0.0	0.1	7.2	5.0
14	スウェーデン	19.0	32.6	66.3	38.0	22.2	2.1
15	リトアニア	15.2	16.7	128.0	69.6	1.4	2.0
16	カザフスタン	2.0	0.7	2.2	2.3	2.0	2.0
17	エストニア	6.1	5.3	16.8	9.0	1.8	1.2
18	モンゴル	0.0	0.3	0.6	0.6	0.4	0.3
19	ベラルーシ	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0
20	イタリア	0.0	0.0	0.0	0.0	29.9	0.0
21	ブラジル	0.0	0.0	0.0	0.0	20.5	0.0
22	ノルウェー	1,597.6	53.9	12.4	13.7	11.9	0.0
23	インド	0.0	0.0	23.3	53.1	2.7	0.0
24	ポーランド	7.0	10.8	33.8	57.6	2.5	0.0
25	英国	164.9	335.5	477.5	795.9	0.0	0.0
26	インドネシア	0.0	0.0	0.0	129.9	0.0	0.0
27	UAE	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0
28	シンガポール	0.0	6.2	22.3	0.0	0.0	0.0
29	バングラデシュ	0.0	0.0	20.4	0.0	0.0	0.0
30	ラトビア	0.7	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
31	チェコ	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(注)2024年の輸出金額の多い順に掲載。

図表41 ロシアのLNG輸出相手国（1t当たりの価格）

（単位：ドル/t）

	国名	2019	2020	2021	2022	2023	2024
	合計	273.3	222.7	251.8	652.0	590.0	444.3
1	日本	453.7	340.3	303.4	602.2	672.4	600.8
2	中国	261.5	210.8	273.7	668.9	604.1	466.3
3	フランス	226.7	140.3	197.7	653.2	597.6	396.4
4	ベルギー	256.4	222.0	197.2	653.6	503.9	346.9
5	スペイン	180.7	121.1	225.0	841.0	540.5	357.1
6	韓国	420.4	330.7	292.7	603.0	651.5	577.1
7	オランダ	182.2	138.1	235.9	712.7	702.2	399.8
8	トルコ	-	-	-	1,255.6	783.0	497.6
9	台湾	272.3	219.7	249.6	361.8	574.0	461.9
10	ギリシャ	-	-	-	1,725.4	483.3	488.5
11	フィンランド	306.9	283.7	421.3	514.5	412.3	399.2
12	ポルトガル	-	180.9	251.4	687.3	485.2	404.9
13	ドイツ	-	-	-	489.2	523.2	353.8
14	スウェーデン	269.3	273.8	421.4	482.8	413.9	387.1
15	リトアニア	119.0	77.9	405.1	1,173.8	415.7	309.8
16	カザフスタン	235.2	181.2	187.7	224.2	217.0	228.8
17	エストニア	324.9	197.7	556.7	1,255.5	601.4	298.4
18	モンゴル	663.0	571.3	554.2	674.9	515.2	446.0
19	ベラルーシ	398.9	408.7	873.1	1,077.9	592.8	665.5
20	イタリア	-	-	-	-	447.8	-
21	ブラジル	-	-	-	-	437.3	-
22	ノルウェー	169.3	104.5	159.2	567.5	423.0	-
23	インド	-	-	317.0	366.1	654.7	-
24	ポーランド	319.9	228.1	654.5	1,318.2	374.5	-
25	英国	279.1	178.4	185.5	725.3	-	-
26	インドネシア	-	-	-	833.3	-	-
27	UAE	-	-	-	859.8	-	-
28	シンガポール	-	95.2	304.5	-	-	-
29	バングラデシュ	-	-	279.1	-	-	-
30	ラトビア	334.8	252.9	-	-	-	-
31	チェコ	321.7	246.4	-	-	-	-

（注）2024年の輸出金額の多い順に掲載。

(3)ガス

西側諸国による制裁の中でも、パイプラインによる天然ガス輸出は最も大きな影響を受けた品目の1つである。

パイプラインガスは欧州市場への依存度が極めて高く、代替となる輸出先を確保できなかった。パイプラインという輸送手段の特性上、既存の供給先以外へ柔軟に輸出先を切り替えることが困難である。この結果、欧州向け輸出停止後、輸出量は急速に減少し、過去4年間で約半減するに至った。

ロシアでは、侵攻から4年以上が経過した現在、西側諸国との対立が一段と深まり、ロシアの「脱米欧化」「脱西側化」、そして西側諸国の「脱ロシア化」が進行している。こうした地政学的な分断は、ロシア経済の中心を占めるエネルギー輸出に大きな変化をもたらしており、とりわけガス輸出の構造は大きく転換を迫られている。

ロシアのガス輸出先は、この4年間で劇的な変化を遂げた。侵攻後、主要輸出先であった欧州向け供給が急減した一方で、中国やトルコ、さらにはベラルーシなど周辺国への供給を拡大し、欧州市場の縮小分を補おうとした。しかし、欧州市場の喪失による影響は大きく、こうした新たな輸出先の拡大だけでは十分に補完できなかった。その結果、ロシアのガス輸出量は年間2,000億m³から1,000億m³へと半減し、輸出構造の大幅な見直しを余儀なくされている。

2019年におけるガス輸出先を地域別にみると、欧州向けが全体の8割以上を占め、最大の輸出先となっていた。一方、中国などを含むアジア向けについては、同年に中国向けパイプラインが完成したものの、輸出量はごくわずかにとどまり、全体に占める割合は0%であった。

また、ベラルーシなど旧ソ連諸国向けが11.2%を占め、一定の需要が維持されていた。さらに、主にトルコ向けとなる中東地域向けが7.4%を構成しており、欧州に次ぐ輸出先として位置づけられていた。

ロシアによる侵攻以降、ガス輸出先の構成は大きく変化した。2024年のデータによれば、欧州向けは23.9%へと大幅に減少している。一方で、アジア向け（中国向け）は24.1%へと急増し、欧州向けを上回る水準となった。

さらに、旧ソ連諸国向けは34.7%へと大きく増加しており、地域別では最大の輸出先となっている。また、中東地域向けも17.3%を占めるなど、全体として輸出先の多様化が進んでいる。

中国向けの輸出が増加した背景には、中国向けガスパイプライン「シベリアの力」による供給2020年以降に本格化したことが大きく影響している。同パイプラインの稼働により、中国へのガス輸出量は着実に拡大した。

旧ソ連諸国向けの輸出増加については、従来のベラルーシ向けに加え、ウズベキスタン、カザフスタン、キルギスといった中央アジア諸国が経済成長に伴うエネルギー需要の急増を背景に、ロシア産

ガスの輸入を本格的に拡大したことが要因となっている。

以上のとおり、ロシアのガス輸出先の構造は侵攻以降、大きく変化した。欧州諸国が「脱ロシア化」を進めた結果、ロシアは中国や中央アジア向けの輸出拡大によって減少分の補填を試みたものの、欧州市場の縮小を完全に埋め合わせるには至っていない。

欧州向け輸出の減少を補うため、プーチン政権は国内のガス化率向上（地方都市・農村部への供給網整備）を積極的に推進しており、国内需要は緩やかな増加傾向にある。

しかし、ロシアにとってガス輸出がもたらす外貨収入の重要性は、侵攻前と比較して明らかに低下している。プーチン政権はこれまで、ガスを「外交上の武器」あるいは「欧州を牽制するための手段」として活用してきた。しかし、欧州向け輸出が大幅に縮小したことで、こうした戦略的価値は大きく損なわれた。結果として、政権内におけるガスの位置づけは、従来よりも明確に低下していると評価できる。

また、輸出先を政治的な区分で見ると、その変化はさらに顕著である。2024年のガス輸出のうち、69.4%がロシアにとっての「友好国」向けとなり、「非友好国」向けは30.6%にとどまった。2019年時点では、友好国向けが約2割、非友好国向けが80%以上を占めていたことを踏まえると、この5年間で輸出先の政治的偏りが極端に強まったことがわかる。2024年時点での非友好国向け輸出は、代替調達先を確保できないために例外的にロシア産ガスの輸入を継続しているオーストリア、ハンガリー、スロバキア、ブルガリアなど、欧州の一部の国々に限定されている。

輸出相手国別にみると、ロシアの最大の原油輸出先は中国であり、これにトルコ、ベラルーシ、カザフスタンが続く。2024年のデータによれば、数量ベースでの輸出先は1位が中国、2位がトルコ、3位がベラルーシ、4位がカザフスタンであり、これら4カ国だけで全体の約3分の2を占めている。5位にはハンガリー、6位にはオーストリアが入り、欧州諸国の存在感が大きく後退していることがわかる。

5年前の2019年の主要輸出先をみると、1位がドイツ、2位がオーストリア、3位がトルコ、4位がイタリア、5位がフランスであった。これらの比較から、輸出先が欧州中心から中国、トルコ、旧ソ連諸国へと大きくシフトしたことが明らかである。

この3年間で、ドイツやイタリアといった主要欧州諸国向けの輸出は大幅に減少する一方、中国向けの輸出が顕著に増加し、中国の存在感が急速に高まっている。ガスピロムは中国を「欧州に代わる戦略的市場」と位置づけており、中国向けガス供給の拡大に積極姿勢を示している。さらに、中ロ両国はガス取引の拡大で合意しており、新たなパイプライン建設にも着手するなど、エネルギー協力の深化が進んでいる。

図表42 ロシア産ガスの輸出地域(数量)

(単位 100万m³)

	2019	2020	2021	2022	2023	2024
合計	210,326.1	203,252.8	213,250.1	142,185.4	99,625.0	102,635.9
欧州	171,309.9	151,264.7	139,683.2	70,181.4	25,368.3	24,506.8
アジア	5.1	2,636.5	8,219.3	17,800.4	22,007.0	24,725.5
旧ソ連	23,467.6	35,801.3	35,279.1	32,433.3	31,827.0	35,662.7
中東	15,543.5	13,550.3	30,068.5	21,770.4	20,422.7	17,740.9
アフリカ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
北米	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
中南米	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
大洋州	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

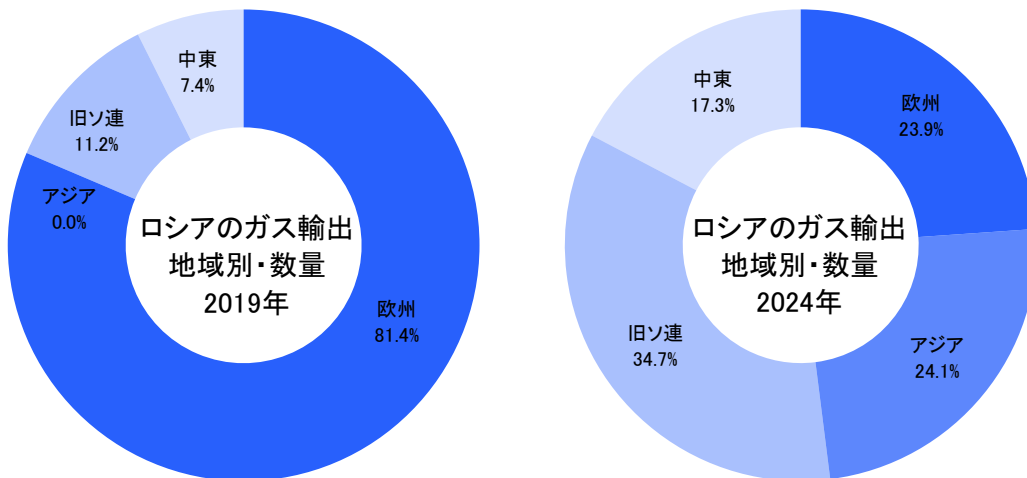
(出所)Tebiz「ロシアのガス市場分析」(2024、2025)(図表43～57も同じ)。

図表43 ロシア産ガスの輸出地域(数量 全体=100)

(単位 %)

	2019	2020	2021	2022	2023	2024
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
欧州	81.4	74.4	65.5	49.4	25.5	23.9
アジア	0.0	1.3	3.9	12.5	22.1	24.1
旧ソ連	11.2	17.6	16.5	22.8	31.9	34.7
中東	7.4	6.7	14.1	15.3	20.5	17.3
アフリカ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
北米	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
中南米	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
大洋州	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

図表44 ロシア産ガスの輸出地域(数量)



図表45 ロシア産ガスの輸出地域 (金額)

(単位 1,000ドル)

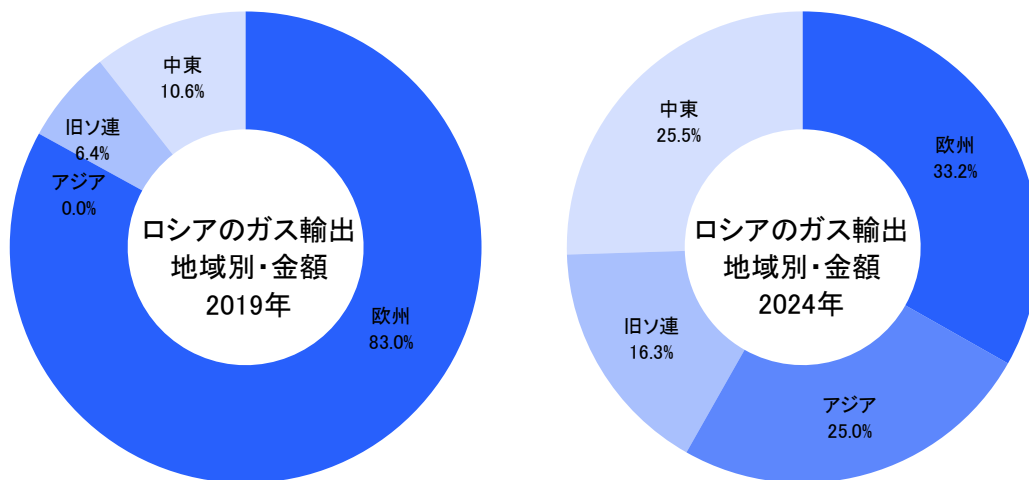
	2019	2020	2021	2022	2023	2024
合計	42,537,718	26,626,462	50,887,917	95,961,988	34,868,935	26,635,596
欧州	35,302,969	19,445,317	39,615,001	63,485,575	13,747,107	8,848,216
アジア	1,074	482,268	1,158,395	4,515,268	6,435,585	6,667,834
旧ソ連	2,741,688	3,813,333	4,226,309	5,521,686	4,913,732	4,332,887
中東	4,491,987	2,885,544	5,888,212	22,439,460	9,772,511	6,786,659
アフリカ	0	0	0	0	0	0
北米	0	0	0	0	0	0
中南米	0	0	0	0	0	0
大洋州	0	0	0	0	0	0

図表46 ロシア産ガスの輸出地域 (金額 全体=100)

(単位 %)

	2019	2020	2021	2022	2023	2024
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
欧州	83.0	73.0	77.8	66.2	39.4	33.2
アジア	0.0	1.8	2.3	4.7	18.5	25.0
旧ソ連	6.4	14.3	8.3	5.8	14.1	16.3
中東	10.6	10.8	11.6	23.4	28.0	25.5
アフリカ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
北米	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
中南米	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
大洋州	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

図表47 ロシア産ガスの輸出地域 (金額)



図表48 ロシア産ガスの非友好国向け輸出(数量)

(単位 100万m³)

	2019	2020	2021	2022	2023	2024
合計	210,326.1	203,252.8	213,250.1	142,185.4	99,625.0	102,635.9
非友好国	169,120.3	149,786.3	137,119.1	67,647.5	22,608.5	22,562.7

図表49 ロシア産ガスの非友好国向け輸出(数量 全体=100)

(単位 %)

	2019	2020	2021	2022	2023	2024
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
非友好国	80.4	73.7	64.3	47.6	22.7	22.0

図表50 ロシア産ガスの非友好国向け輸出(金額)

(単位 1,000ドル)

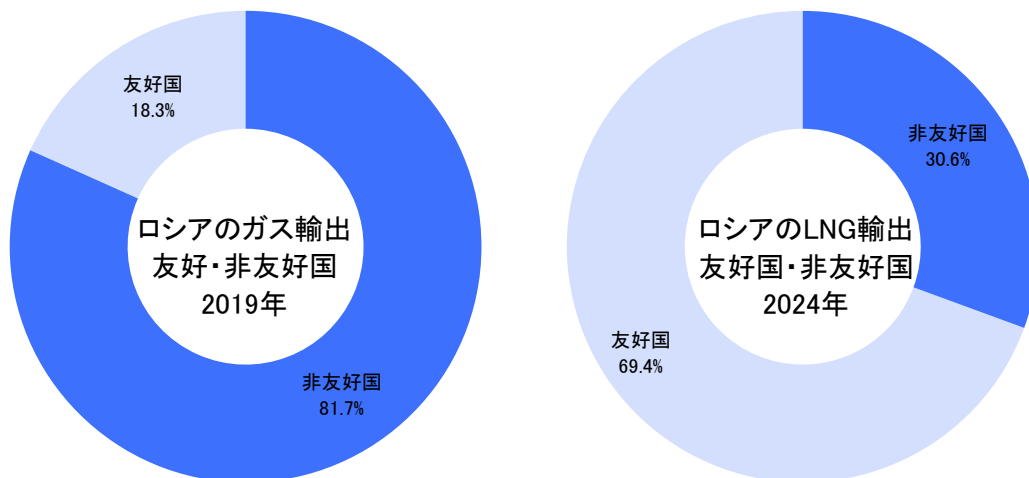
	2019	2020	2021	2022	2023	2024
合計	42,537,718	26,626,462	50,887,917	95,961,988	34,868,935	26,635,596
非友好国	34,735,772	19,149,077	39,119,760	62,472,989	12,508,149	8,159,453

図表51 ロシア産ガスの非友好国向け輸出(金額 全体=100)

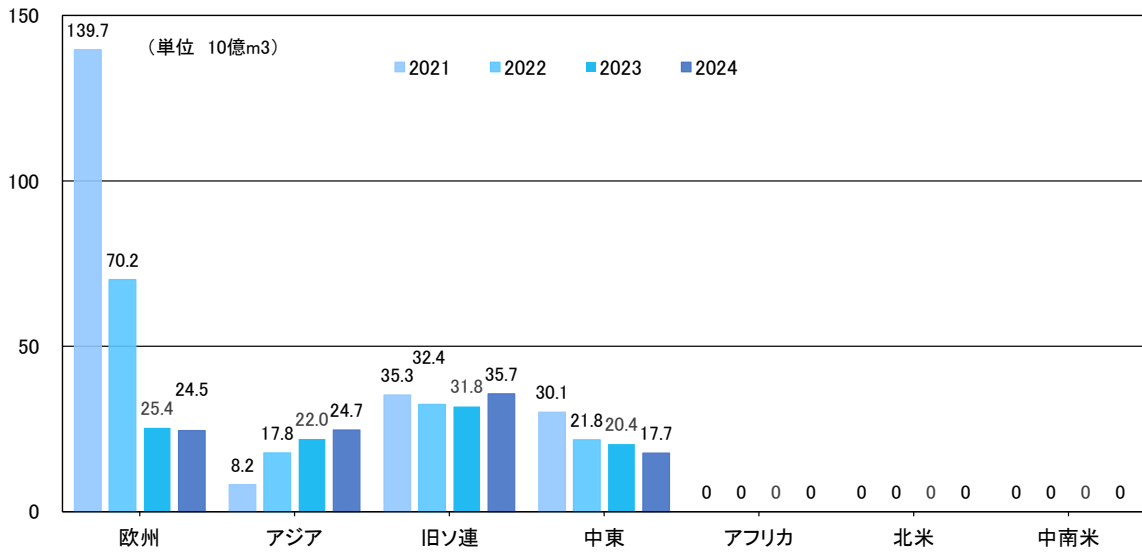
(単位 %)

	2019	2020	2021	2022	2023	2024
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
非友好国	81.7	71.9	76.9	65.1	35.9	30.6

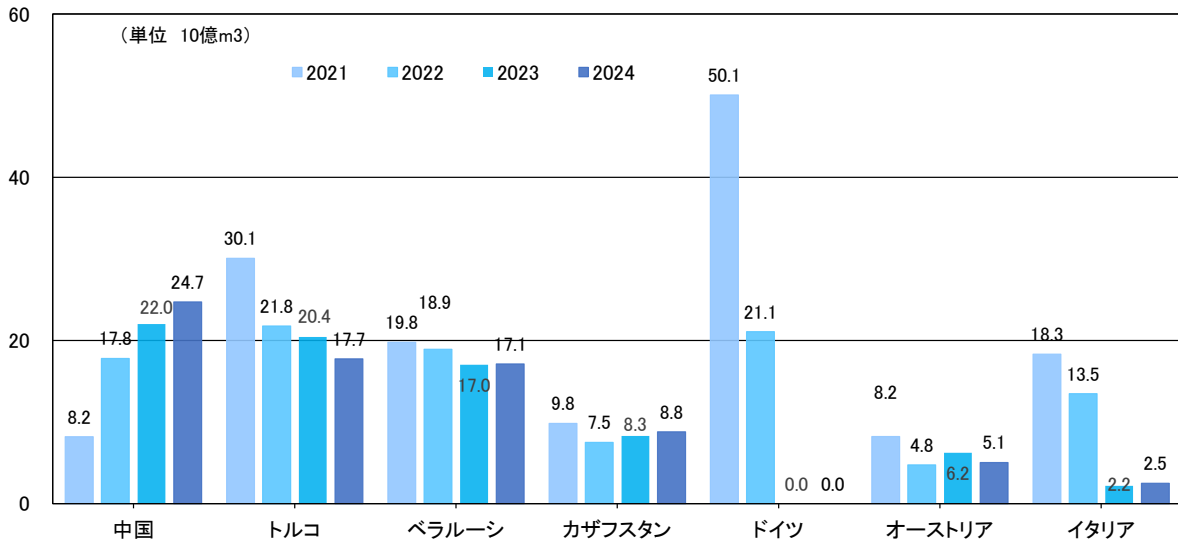
図表52 ロシア産ガスの友好・非友好国のシェア(数量)



図表53 ロシア産ガスの輸出地域(数量)



図表54 ロシア産ガスの主要輸出相手国(数量)



図表55 ロシアのガス輸出相手国(数量)

(単位 100万m3)

	国名	2019	2020	2021	2022	2023	2024
	合計	210,326.1	203,252.8	213,250.1	142,185.4	99,625.0	102,635.9
1	中国	5.1	2,636.5	8,219.3	17,800.4	22,007.0	24,725.5
2	トルコ	15,543.5	13,550.3	30,068.5	21,770.4	20,422.7	17,740.9
3	ベラルーシ	12,169.8	18,688.2	19,792.0	18,922.0	17,030.7	17,136.7
4	カザフスタン	7,138.7	11,785.3	9,848.8	7,502.2	8,309.5	8,812.8
5	ハンガリー	7,587.0	8,915.4	5,663.5	3,659.8	6,156.6	6,901.7
6	オーストリア	17,748.2	13,483.6	8,239.1	4,758.4	6,246.3	5,055.9
7	ウズベキスタン	0.0	0.0	0.0	0.0	696.9	4,604.7
8	スロバキア	7,457.7	9,302.7	4,417.9	2,793.9	2,863.3	2,923.7
9	ブルガリア	901.9	1,320.5	3,120.0	2,139.5	3,005.6	2,812.3
10	イタリア	14,954.1	19,332.7	18,323.2	13,488.8	2,182.1	2,508.1
11	アルメニア	1,212.7	2,274.4	2,426.8	2,590.5	2,106.7	2,258.5
12	ギリシャ	2,420.2	2,717.6	2,860.1	2,641.1	1,801.3	2,195.1
13	セルビア	2,100.9	1,442.4	2,320.7	2,223.4	2,438.1	1,747.5
14	モルドバ	2,907.8	3,013.0	3,169.3	2,854.3	1,890.7	1,595.2
15	ジョージア	0.0	0.0	0.0	121.4	664.0	593.2
16	キルギス	0.0	0.0	0.0	306.5	387.2	476.8
17	ボスニア・ヘルツェゴヴィナ	90.4	36.0	243.5	310.4	321.7	196.6
18	マケドニア	19.4	0.0	107.0	148.5	264.8	165.8
19	アゼルバイジャン	0.0	0.0	0.0	93.3	699.3	141.6
20	南オセチア	37.0	40.3	42.2	43.2	41.8	43.1
21	ラトビア	1,654.4	1,783.3	1,932.7	572.3	88.3	0.0
22	エストニア	306.3	260.6	100.6	38.4	0.0	0.0
23	ドイツ	56,365.8	38,964.5	50,091.8	21,084.1	0.0	0.0
24	フランス	13,526.5	12,266.5	11,588.7	5,632.5	0.0	0.0
25	ポーランド	5,891.1	9,829.3	10,338.4	4,009.6	0.0	0.0
26	オランダ	10,062.2	10,671.9	7,518.5	2,160.2	0.0	0.0
27	クロアチア	2,558.6	1,851.6	345.4	1,108.6	0.0	0.0
28	デンマーク	1,542.8	1,840.1	1,965.5	855.6	0.0	0.0
29	フィンランド	2,509.2	1,661.2	1,739.3	681.0	0.0	0.0
30	ルーマニア	568.3	913.8	2,679.8	663.9	0.0	0.0
31	チェコ	8,567.1	5,606.3	1,621.1	611.0	0.0	0.0
32	リトアニア	1,103.2	903.3	538.0	256.7	0.0	0.0
33	スイス	245.1	121.5	394.0	236.2	0.0	0.0
34	スロベニア	216.4	401.9	439.0	107.6	0.0	0.0
35	英国	10,504.3	5,137.8	2,238.8	0.0	0.0	0.0
36	ベルギー	2,409.0	2,500.2	856.6	0.0	0.0	0.0
37	ウクライナ	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(注) 2024年の輸出量の多い順に掲載。

図表56 ロシアのガス輸出相手国(金額)

(単位 100万ドル)

	国名	2019	2020	2021	2022	2023	2024
	合計	42,537.7	26,626.5	50,887.9	95,962.0	34,868.9	26,635.6
1	トルコ	4,492.0	2,885.5	5,888.2	22,439.5	9,772.5	6,786.7
2	中国	1.1	482.3	1,158.4	4,515.3	6,435.6	6,667.8
3	ハンガリー	1,480.1	1,101.3	1,591.0	5,815.0	3,496.5	2,488.2
4	ベラルーシ	1,586.9	2,442.6	2,606.5	2,363.0	2,326.7	1,945.2
5	オーストリア	3,621.4	1,671.3	2,510.4	5,095.2	3,480.8	1,943.4
6	スロバキア	1,457.6	1,113.7	1,502.6	2,635.9	1,492.5	1,127.1
7	イタリア	3,365.0	2,386.2	7,846.0	15,692.6	1,591.7	946.2
8	ブルガリア	237.8	206.5	1,060.8	2,234.0	1,208.5	827.3
9	ギリシャ	650.6	315.6	824.9	3,122.8	999.0	758.4
10	ウズベキスタン	0.0	0.0	0.0	0.0	111.6	737.1
11	モルドバ	688.7	488.5	906.9	2,392.9	1,484.6	665.1
12	セルビア	543.8	290.9	444.4	897.4	1,108.1	612.8
13	アルメニア	197.1	375.3	400.4	439.0	364.7	392.5
14	カザフスタン	265.9	504.0	309.9	237.4	314.8	381.6
15	ジョージア	0.0	0.0	0.0	22.4	122.8	109.7
16	ボスニア・ヘルツェゴヴィナ	23.8	5.4	50.8	115.2	130.9	76.0
17	キルギス	0.0	0.0	0.0	46.0	58.1	71.5
18	マケドニア	5.8	0.0	54.2	184.3	158.5	69.0
19	アゼルバイジャン	0.0	0.0	0.0	17.3	126.0	26.2
20	南オセチア	2.7	2.9	2.7	3.8	4.5	3.8
21	ラトビア	269.8	158.2	676.9	643.0	80.5	0.0
22	エストニア	70.3	27.3	29.2	36.6	0.0	0.0
23	ドイツ	11,619.1	5,491.7	10,397.9	10,850.3	0.0	0.0
24	フランス	2,469.9	1,368.0	4,009.7	6,008.9	0.0	0.0
25	ポーランド	1,139.8	1,419.6	3,672.8	3,755.6	0.0	0.0
26	オランダ	2,124.8	1,323.8	2,018.0	2,346.8	0.0	0.0
27	クロアチア	495.6	217.0	109.1	1,554.0	0.0	0.0
28	デンマーク	280.8	290.1	623.9	853.6	0.0	0.0
29	フィンランド	611.5	268.6	625.3	730.5	0.0	0.0
30	リトアニア	278.4	81.0	190.6	255.1	0.0	0.0
31	スロベニア	39.3	42.8	146.0	207.9	0.0	0.0
32	チェコ	1,594.2	622.0	285.8	204.2	0.0	0.0
33	ルーマニア	164.6	158.0	459.0	176.4	0.0	0.0
34	スイス	51.2	26.4	72.0	70.3	0.0	0.0
35	英国	2,293.2	554.0	292.1	0.0	0.0	0.0
36	ベルギー	414.6	305.8	121.4	0.0	0.0	0.0
37	ウクライナ	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(注) 2024年の輸出額の多い順に掲載。

図表57 ロシアのガス輸出相手国 (1,000m³当たりの価格)

(単位 ドル/1,000m³)

	国名	2020	2021	2022	2023	2024
	合計	131.0	238.6	674.9	350.0	259.5
1	トルコ	212.9	195.8	1,030.7	478.5	382.5
2	中国	182.9	140.9	253.7	292.4	269.7
3	ハンガリー	123.5	280.9	1,588.9	567.9	360.5
4	ベラルーシ	130.7	131.7	124.9	136.6	113.5
5	オーストリア	123.9	304.7	1,070.8	557.3	384.4
6	スロバキア	119.7	340.1	943.5	521.2	385.5
7	イタリア	123.4	428.2	1,163.4	729.4	377.3
8	ブルガリア	156.4	340.0	1,044.2	402.1	294.2
9	ギリシャ	116.1	288.4	1,182.4	554.6	345.5
10	ウズベキスタン	-	-	-	160.1	160.1
11	モルドバ	162.1	286.1	838.3	785.2	416.9
12	セルビア	201.7	191.5	403.6	454.5	350.7
13	アルメニア	165.0	165.0	169.5	173.1	173.8
14	カザフスタン	42.8	31.5	31.6	37.9	43.3
15	ジョージア	-	-	184.1	185.0	185.0
16	ボスニア・ヘルツェゴビナ	149.5	208.8	371.1	406.9	386.4
17	キルギス	-	-	150.0	150.0	150.0
18	マケドニア	-	507.0	1,240.9	598.7	415.9
19	アゼルバイジャン	-	-	185.0	180.2	185.0
20	南オセチア	71.1	64.6	88.8	106.5	89.2
21	ラトビア	88.7	350.2	1,123.5	911.2	-
22	エストニア	104.7	289.9	952.4	1,306.3	-
23	ドイツ	140.9	207.6	514.6	-	-
24	フランス	111.5	346.0	1,066.8	-	-
25	ポーランド	144.4	355.3	936.7	-	-
26	オランダ	124.0	268.4	1,086.4	-	-
27	クロアチア	117.2	315.9	1,401.8	-	-
28	デンマーク	157.7	317.4	997.7	-	-
29	フィンランド	161.7	359.5	1,072.6	-	-
30	リトアニア	89.6	354.2	993.9	-	-
31	スロベニア	106.5	332.5	1,932.1	-	-
32	チェコ	110.9	176.3	334.2	-	-
33	ルーマニア	172.9	171.3	265.7	-	-
34	スイス	217.3	182.8	297.8	-	-
35	英国	107.8	130.5	-	-	-
36	ベルギー	122.3	141.8	-	-	-
37	ウクライナ	196.5	-	-	-	-

Ⅱ．ロシアの中国へのエネルギー供給強化

※本章では、ロシアの主要貿易相手国の輸出入データ、いわゆる「ミラーデータ」を用いて分析する方法を用いる。つまりロシアの主要貿易相手国の対ロシア輸出入データを入手し、ロシアの対外経済関係の変化を分析する。本章での「輸入」は「ロシアの輸出」、「輸出」は「ロシアからの輸入」であることに注意願いたい。

1. ロシアの中国への石油ガス輸出

(1) 中ロ貿易の概況

2022年2月のロシアによるウクライナ侵攻と、それに続く西側諸国による対ロ制裁、さらにロシアの対抗措置は、ロシアと西側諸国の対立を決定的なものとした。同時に、ロシアの「脱米欧化」「脱西側化」を一段と加速させる結果となった。この地政学的な分断は、ロシアの最大の政治・経済パートナーとの関係にも大きな変化をもたらしている。侵攻から4年以上が経過した現在、中ロ関係は一層緊密化し、「事実上の同盟」と評される段階にまで深化している。

ロシアのエネルギー輸出は、この4年間で劇的な構造転換を遂げた。侵攻後、西側制裁に参加しないアジア諸国やグローバル・サウス諸国への輸出が急増し、ロシアの「脱欧米」路線とアジア・新興国重視の姿勢が一段と強まった。とりわけ中国向け輸出は大幅に拡大し、ロシアのエネルギー貿易における中国の存在感は飛躍的に高まっている。

欧州市場を事実上失ったロシアにとって、アジア市場は代替先として不可欠な存在となり、その中でも中国向け輸出は量・価値ともに大幅に増加した。中国は現在、ロシア産原油・天然ガスの最大の買い手であり、ロシア側の対中依存度はかつてない水準に達している。こうした依存の深まりは、ロシアの外貨収入構造やエネルギー政策の柔軟性にも影響を及ぼし、対中関係の重要性を一段と高めている。加えて、ロシア国内では中国企業の存在感が増し、エネルギー関連インフラや金融取引における人民元の利用拡大など、経済構造の変化も進行している。

この変化は単なる貿易量の増加にとどまらず、エネルギー安全保障や地政学的な戦略計算にも大きな影響を与えている。ロシアは制裁下で中国市場への依存を深めざるを得ない一方、中国はロシア産エネルギーを割安かつ安定的な供給源として活用しつつ、過度な依存を避ける慎重な姿勢を維持している。このため、中ロのエネルギー関係は「相互依存でありながら非対称」という特徴を帯びており、両国の戦略的利益が必ずしも対等ではない点が注目される。とくに、中国が価格交渉や長期契約の条件設定で優位に立つ構造は、ロシアの交渉力低下を象徴している。

本章では、こうした侵攻後の新たな国際環境の中で、中ロのエネルギー関係がどのように変化しているのかを整理する。具体的には、エネルギー分野における両国の協力の現状と特徴を明らかにするとともに、中ロ貿易全体の動向も踏まえながら分析を行い、ロシアの「脱欧米」戦略が中ロ関係に与えた影響を検討する。

ロシアによるウクライナ侵攻の長期化と米欧との対立激化の中で、ロシアと中国は連携を強めてきた。それは、ロシアは制裁下で生き抜くために、中国は米欧との対立の影響を回避するために、自ら望んだことでもあった。そしていま、両国は「史上最高の時代」を迎えている。

習近平国家主席は2025年5月、対独戦勝80年の記念式典に出席するため訪問したモスクワで、プーチン大統領と会談し、ウクライナ情勢や米国のトランプ政権を念頭に、両国の一層の連携強化を確認するとともに、世界の多極化と経済のグローバル化を推進していくことで一致した。2024年の両国の貿易額は2,450億ドルと過去最高を更新した。そこで、2024年のロシアと中国の貿易を振り返ってみたい。

中国税関が発表した貿易統計によると、2024年のロシアと中国の貿易額は2,449億1,512万ドルとなった。これは、前年を2.0%上回り、4年連続で過去最大を更新した。伸び率は、西側諸国による対ロ制裁強化と中国への制裁遵守圧力、資源価格の低迷、さらには中国の景気低迷の影響もあり、過去5年間で最も緩やかな伸びとなった。ロシアの景気後退やトランプ政権の高関税政策、米中対立の激化の影響も加わり、先行きへの不透明感が強まっている。米欧との対立が激しさを増す中、増加を続けてきた中ロ貿易は、伸びを維持できるかの正念場を迎えている。

米欧との対立を背景とした中ロの連携強化は、2024年も際立った。1月にミシュスチン首相が中国を訪れた後、5月にはプーチン大統領が中国を訪問。8月に李首相がロシアを訪れた後、10月には習近平国家主席がBRICS首脳会議に出席するため、ロシアを訪問した。両国は、首脳相互訪問で蜜月ぶりを誇示した。

中国からロシアへの輸出は機械や自動車、精密機器などが伸び、全体では前年と比べ4.1%増え1,154億6,486万ドルに、ロシアから中国への輸入は、原油やガスなどエネルギー、鉱石、アルミニウムが増え前年を0.2%上回り1,294億5,026万ドルだった。輸出、輸入ともに過去最高を更新した。

この結果、輸出額から輸入額を差し引いた貿易収支は、139億8,540万ドルの赤字だった。7年連続の赤字（ロシアの黒字）となったものの、機械や自動車などの輸出が増え、エネルギー資源の価格が下落したことで、赤字額は2023年と比べて約43億ドル縮小した。

中ロ貿易は2015年には680億1,554万ドルだったが、両国関係が拡大する中で、コロナ禍の2020年を除いて、2016年以降、一貫して増え続け、9年間で3.6倍に拡大した。

中国は日本と同様、海外から必要な燃料資源・原料を輸入し、機械や自動車を海外に輸出するというスタイルである。ロシアとの貿易もほぼ同じで、中国の対ロ輸出の主力品目は、機械、輸送機器、電気機器、化学品、繊維製品などである。一方、中国の対ロ輸入の主要品目は、原油、石炭、液化天然ガス（LNG）、天然ガス、卑金属、石油製品、食料品などである。

2024年のデータをみると、機械、輸送機器、電気機器は、輸出全体の59.5%を占めた。これら3品目に化学品と繊維製品の2品目を加えた、5品目の割合は輸出全体の79.5%にのぼった。輸入は原油が48.3%のほか、石炭、LNG、天然ガス、石油製品を加えた燃料・エネルギーが輸入額の72.7%を占めた。

国別にみると、中国の貿易額に占めるロシアのシェアは4.0%となった。中国の貿易相手国としてのロシアの順位は米国、韓国、香港、日本、台湾、ベトナムに次いで7位となった。貿易額は増えたものの、2023年の4位から3つランクを下げた。中国の輸出相手国としてのロシアは7位、3.2%、中国の輸入相手国としてのロシアは6位、5.0%となった。輸出入ともに順位は2023年と変わらなかったが、シェアはそれぞれ0.1ポイント低下した。

2,449億ドルという数字は、中国の最大貿易相手国である米国（6,883億ドル）の2.8分の1、4位の日本（3,083億ドル）の8割の水準であるが、2022年以降、その差は縮小している。

ロシアは2022年2月のウクライナ侵攻後、貿易データの発表を停止した。2024年1～12月の数字について、2025年1月に大陸別の輸出入額を公表しただけである。それによると、輸出入総額は7,169億ドルで、うちロシアの輸出総額は4,339億ドル、ロシアの輸入総額は2,830億ドルとなった。

出所が異なるため単純に比較することはできないが、ロシアの貿易額に占める中国のシェアは34.2%となった。2021年の18.0%、2022年の21.8%、2023年の32.1%（※ロシア税関局発表の数字）を上回り過去最高を記録した。中国がロシアにとって最大の貿易相手国の座に躍り出たのはリーマン・ショック後の2010年であった。中国はその後、1位の座を不動のものとしている。

ロシアの輸出額に占める中国のシェアは29.8%（2021年は14.0%、2022年は16.7%、2023年は25.1%）、ロシアの輸入額に占める中国のシェアは40.8%（2021年は24.8%、2022年は33.7%、2023年は42.4%）だった。

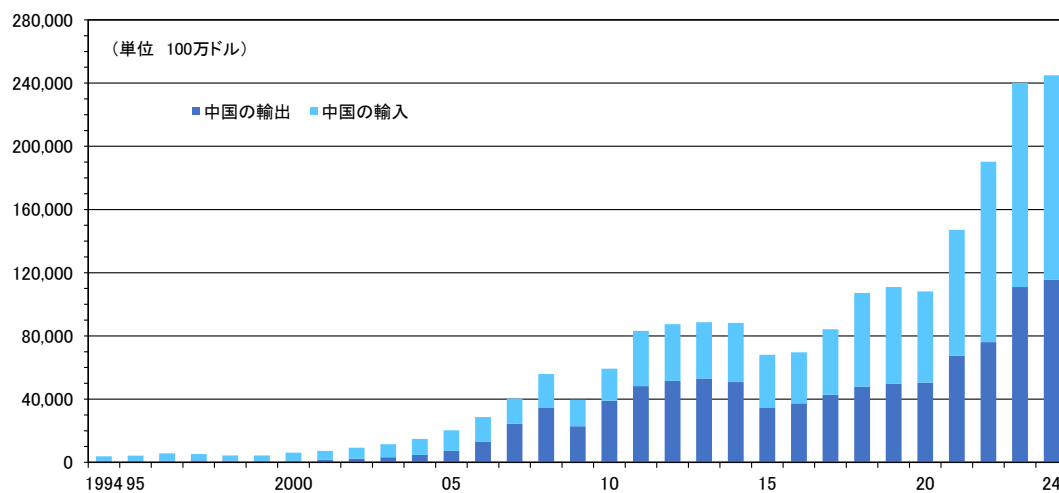
決済は主にルーブルまたは人民元で行われている。「相互の貿易や投資は第3国の影響から確実に守られている。銀行分野の連携を強化し、決済サービスを提供する」。2024年5月に訪中したプーチン大統領はこう述べ、米欧の圧力は中ロ貿易には影響ないと強調した。両国間の商取引におけるルーブルと人民元の割合はすでに90%を超えているという。ロシア中銀のデータでも、ルーブルと人民元の決済比率が高まっている。西側諸国が強力な金融制裁を科し、ドルを武器化したことで、中ロ以外の取引でもドル離れが急速に進んでいる。2024年はその流れが一段と加速し、中ロ間ではどちらかの通貨で決済を行うのが基本になっている。

図表1 中国とロシアの貿易高の推移

(単位 100万ドル)

	総額	中国の輸出	中国の輸入	収支
1994	3,785.8	952.0	2,833.8	▲1,881.8
1995	4,236.8	865.4	3,371.4	▲2,506.0
1996	5,724.4	1,002.6	4,721.8	▲3,719.2
1997	5,242.8	1,261.4	3,981.4	▲2,720.0
1998	4,331.1	1,162.2	3,168.9	▲2,006.7
1999	4,365.1	889.2	3,475.9	▲2,586.7
2000	6,180.6	948.0	5,232.6	▲4,284.6
2001	7,242.5	1,646.5	5,596.0	▲3,949.5
2002	9,214.2	2,395.2	6,819.0	▲4,423.8
2003	11,546.3	3,294.8	8,251.5	▲4,956.7
2004	14,855.1	4,748.2	10,106.9	▲5,358.7
2005	20,307.9	7,259.4	13,048.5	▲5,789.1
2006	28,658.6	12,906.3	15,752.3	▲2,846.0
2007	40,297.2	24,405.3	15,891.9	8,513.4
2008	55,915.1	34,762.9	21,152.2	13,610.7
2009	39,533.3	22,864.1	16,669.2	6,194.9
2010	59,290.9	38,964.4	20,326.4	18,638.0
2011	83,232.0	48,201.8	35,030.1	13,171.7
2012	87,393.8	51,628.0	35,765.8	15,862.2
2013	88,684.2	53,065.4	35,618.9	17,446.5
2014	88,265.7	50,773.4	37,492.3	13,281.1
2015	68,015.5	34,756.9	33,258.7	1,498.2
2016	69,612.1	37,355.8	32,256.3	5,099.5
2017	84,220.4	42,830.1	41,390.3	1,439.8
2018	107,107.4	47,965.3	59,142.2	▲11,176.9
2019	110,940.2	49,748.5	61,191.7	▲11,443.2
2020	108,189.1	50,504.5	57,684.7	▲7,180.2
2021	147,115.8	67,506.7	79,609.1	▲12,102.3
2022	190,271.6	76,122.7	114,149.0	▲38,026.3
2023	240,141.0	110,935.4	129,205.6	▲18,270.2
2024	244,915.1	115,464.9	129,450.3	▲13,985.4

(注)1994年から2014年までの「中国の輸出」はロシア側発表の「ロシアの輸入」、「中国の輸入」は同「ロシアの輸出」。
 (出所)2014年まではロシア連邦税関局『ロシア連邦外国貿易通関統計』(各年版)、2015年以降は中国税関の貿易統計。

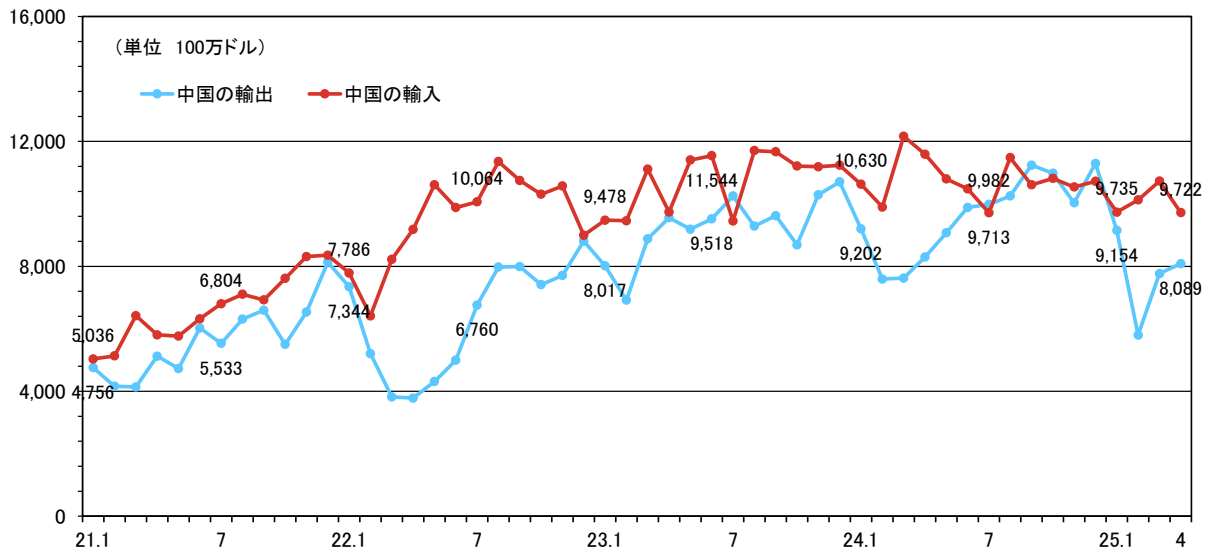


図表2 中国とロシアの貿易高の推移(月別)

(単位 100万ドル)

年月	総額	中国の輸出	中国の輸入	年月	総額	中国の輸出	中国の輸入
2021年				2023年			
1月	9,791.6	4,756.1	5,035.6	1月	17,494.4	8,016.6	9,477.7
2月	9,297.2	4,162.8	5,134.4	2月	16,377.5	6,917.8	9,459.7
3月	10,561.6	4,139.4	6,422.2	3月	19,997.5	8,884.8	11,112.7
4月	10,930.2	5,124.1	5,806.1	4月	19,298.0	9,558.8	9,739.2
5月	10,495.7	4,728.3	5,767.4	5月	20,594.5	9,190.0	11,404.5
6月	12,348.6	6,026.6	6,322.0	6月	21,062.4	9,518.3	11,544.1
7月	12,337.2	5,532.9	6,804.2	7月	19,707.7	10,254.0	9,453.7
8月	13,418.8	6,311.6	7,107.2	8月	20,995.4	9,287.6	11,707.8
9月	13,521.7	6,597.2	6,924.5	9月	21,290.0	9,621.5	11,668.6
10月	13,117.0	5,501.6	7,615.4	10月	19,901.5	8,689.0	11,212.5
11月	14,848.9	6,535.7	8,313.3	11月	21,482.8	10,293.8	11,189.0
12月	16,491.7	8,134.8	8,356.9	12月	21,939.4	10,703.3	11,236.1
2022年				2024年			
1月	15,129.6	7,343.9	7,785.7	1月	19,831.6	9,201.5	10,630.0
2月	11,619.9	5,206.7	6,413.2	2月	17,491.3	7,592.3	9,899.0
3月	12,041.3	3,819.0	8,222.3	3月	19,788.9	7,625.3	12,163.7
4月	12,969.0	3,784.2	9,184.8	4月	19,888.8	8,297.1	11,591.7
5月	14,922.9	4,311.3	10,611.6	5月	19,875.1	9,075.7	10,799.4
6月	14,878.4	4,996.0	9,882.3	6月	20,365.9	9,885.5	10,480.4
7月	16,823.7	6,759.7	10,064.0	7月	19,694.3	9,981.8	9,712.5
8月	19,335.7	7,978.7	11,357.0	8月	21,734.4	10,252.4	11,482.0
9月	18,744.1	7,993.6	10,750.6	9月	21,847.9	11,238.3	10,609.6
10月	17,721.9	7,413.7	10,308.2	10月	21,801.9	10,984.0	10,817.8
11月	18,280.1	7,707.2	10,572.9	11月	20,575.3	10,033.9	10,541.4
12月	17,805.1	8,808.5	8,996.6	12月	22,019.7	11,296.9	10,722.8

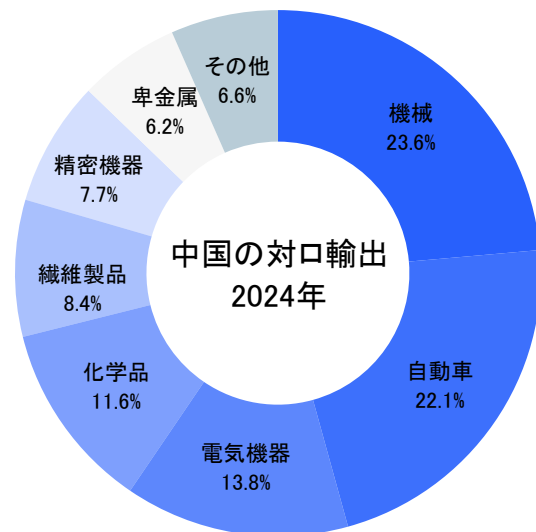
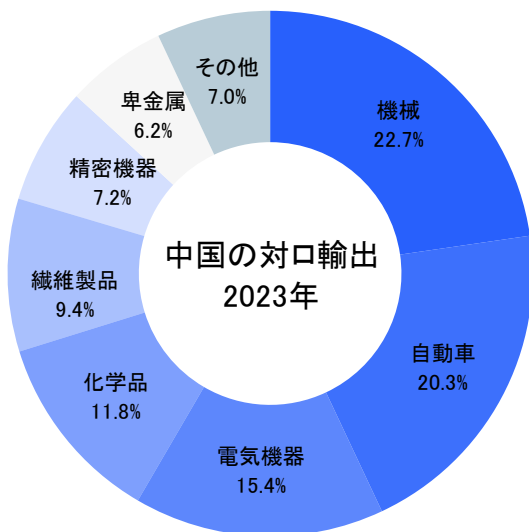
(出所) 中国税関の貿易統計(<http://stats.customs.gov.cn/indexEn>) (特に断りがない限り、以下、同じ)。



図表3 中国のロシアへの輸出商品構成

(単位 100万ドル)

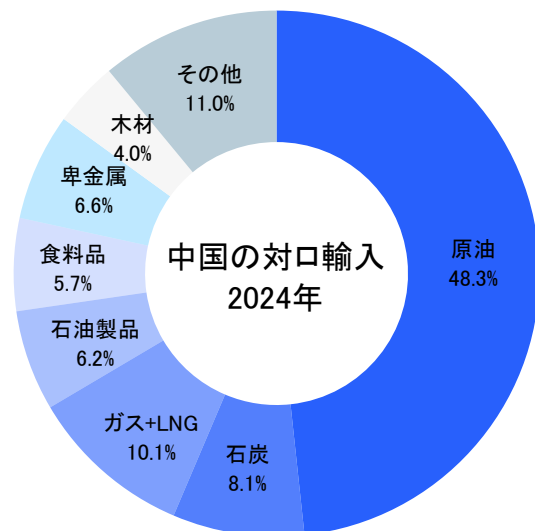
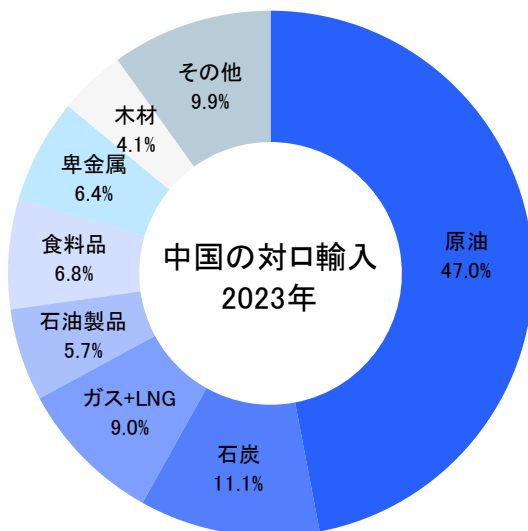
	2022		2023		2024	
	金額	%	金額	%	金額	%
食料品(01-24)	2,202.2	2.9	2,328.4	2.1	2,921.9	2.5
鉱物製品(25-27)	358.6	0.5	370.6	0.3	344.2	0.3
化学品(28-40)	11,996.2	15.8	13,064.7	11.8	13,436.0	11.6
有機化学品(29)	3,250.5	4.3	2,617.8	2.4	2,797.1	2.4
プラスチック及びその製品(39)	3,744.9	4.9	4,448.4	4.0	4,420.4	3.8
ゴム及びその製品(40)	1,554.1	2.0	2,259.4	2.0	2,073.9	1.8
皮革原料、同製品(41-43)	1,616.1	2.1	1,506.4	1.4	921.3	0.8
木材、紙パルプ製品(44-49)	1,105.6	1.5	1,219.8	1.1	1,183.2	1.0
繊維、繊維製品、履物(50-67)	8,246.6	10.8	10,391.3	9.4	9,643.9	8.4
衣類(61-62)	2,814.1	3.7	3,514.8	3.2	3,462.1	3.0
履物(64)	2,485.8	3.3	3,404.9	3.1	2,959.6	2.6
ガラス、貴石、貴金属(68-71)	1,189.9	1.6	1,486.4	1.3	1,444.0	1.3
卑金属、同製品(72-83)	5,566.2	7.3	6,930.2	6.2	7,194.0	6.2
鉄鋼(72)	1,024.4	1.3	1,148.4	1.0	1,281.4	1.1
鉄鋼製品(73)	1,908.4	2.5	2,648.4	2.4	2,732.5	2.4
卑金属製の工具、道具(82)	878.2	1.2	1,253.6	1.1	1,301.3	1.1
機械、電気機器、輸送機器(84-89)	37,630.7	49.4	65,635.4	59.2	69,537.4	60.2
機械(84)	16,880.4	22.2	25,222.7	22.7	27,302.2	23.6
電気機器(85)	13,331.2	17.5	17,070.0	15.4	15,953.9	13.8
自動車(87)	6,296.3	8.3	22,518.2	20.3	25,484.1	22.1
精密機器、その他(90-99)	6,210.5	8.2	8,002.2	7.2	8,838.9	7.7
精密機器(90)	1,925.5	2.5	2,889.1	2.6	3,206.7	2.8
家具、寝具(94)	1,297.3	1.7	1,531.9	1.4	1,625.2	1.4
がん具、遊戯用具(95)	1,443.9	1.9	1,688.8	1.5	1,639.5	1.4
合計	76,122.6	100.0	110,935.4	100.0	115,464.9	100.0



図表4 中国のロシアからの輸入商品構成

(単位 100万ドル)

	2022		2023		2024	
	金額	%	金額	金額	%	金額
食料品(01-24)	6,095.8	5.3	8,779.3	6.8	7,344.3	5.7
魚・水産加工品(03)	2,753.9	2.4	2,886.4	2.2	2,734.1	2.1
採油用の種及び果実(12)	729.7	0.6	1,314.9	1.0	678.8	0.5
動物性又は植物性油脂(15)	1,294.0	1.1	2,595.2	2.0	1,907.9	1.5
鉱物製品(25-27)	89,208.5	78.2	99,299.4	76.9	100,786.8	77.9
鉱石、スラグ及び灰(26)	3,640.3	3.2	4,380.8	3.4	5,540.7	4.3
燃料・エネルギー(27)	85,378.1	74.8	94,772.8	73.4	95,106.8	73.5
石炭(2701)	11,747.2	10.3	14,355.9	11.1	10,478.1	8.1
原油(2709)	58,377.5	51.1	60,679.2	47.0	62,525.8	48.3
石油製品(2710)	3,232.9	2.8	7,321.8	5.7	7,979.2	6.2
液化天然ガス(27111100)	6,746.3	5.9	5,182.8	4.0	4,988.9	3.9
ガス(27112100)	3,980.9	3.5	6,435.6	5.0	8,039.9	6.2
化学品(28-40)	3,286.2	2.9	3,975.7	3.1	4,944.2	3.8
肥料(31)	1,040.4	0.9	1,309.6	1.0	1,435.6	1.1
皮革原料、同製品(41-43)	14.4	0.0	10.0	0.0	9.0	0.0
木材、紙パルプ製品(44-49)	5,727.2	5.0	5,334.3	4.1	5,133.2	4.0
繊維、繊維製品、履物(50-67)	16.1	0.0	19.1	0.0	28.4	0.0
ガラス、貴石、貴金属(68-71)	1,618.5	1.4	2,318.9	1.8	1,184.6	0.9
貴石、半貴石、貴金属(71)	1,610.1	1.4	2,309.0	1.8	1,172.9	0.9
卑金属、同製品(72-83)	7,559.0	6.6	8,296.4	6.4	8,484.9	6.6
銅及びその製品(74)	2,944.4	2.6	3,217.3	2.5	3,016.1	2.3
ニッケル及びその製品(75)	1,155.6	1.0	1,079.7	0.8	1,000.3	0.8
アルミニウム及びその製品(76)	1,374.9	1.2	2,866.3	2.2	3,579.9	2.8
機械、電気機器、輸送機器(84-89)	486.3	0.4	874.7	0.7	1,104.7	0.9
精密機器、その他(90-99)	136.9	0.1	297.7	0.2	430.3	0.3
合計	114,149.0	100.0	129,205.6	100.0	129,450.3	100.0



図表5 中国の輸出相手国上位20カ国の顔ぶれの変遷

(数字は中国の輸出総額に占めるシェア、%)

	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
1	米国 19.2	米国 16.8	米国 17.4	米国 17.1	米国 16.2	米国 14.8	米国 14.7
2	香港 12.1	香港 11.2	香港 10.5	香港 10.4	香港 8.3	香港 8.1	香港 8.1
3	日本 5.9	日本 5.7	日本 5.5	日本 5.0	日本 4.9	日本 4.7	ベトナム 4.5
4	韓国 4.4	韓国 4.4	ベトナム 4.4	韓国 4.4	韓国 4.5	韓国 4.4	日本 4.3
5	ベトナム 3.4	ベトナム 3.9	韓国 4.3	ベトナム 4.1	ベトナム 4.0	ベトナム 4.1	韓国 4.1
6	ドイツ 3.1	ドイツ 3.2	ドイツ 3.4	ドイツ 3.4	オランダ 3.3	インド 3.5	インド 3.4
7	インド 3.1	インド 3.0	オランダ 3.1	オランダ 3.1	インド 3.3	ロシア 3.3	ロシア 3.2
8	オランダ 2.9	オランダ 3.0	英国 2.8	インド 2.9	ドイツ 3.3	ドイツ 3.0	ドイツ 3.0
9	英国 2.3	英国 2.5	インド 2.6	英国 2.6	マレーシア 2.6	オランダ 3.0	マレーシア 2.8
10	新嘉坡 2.0	台湾 2.2	台湾 2.3	台湾 2.3	台湾 2.3	マレーシア 2.6	オランダ 2.5
11	台湾 2.0	新嘉坡 2.2	新嘉坡 2.2	マレーシア 2.3	英国 2.3	メキシコ 2.4	メキシコ 2.5
12	ロシア 1.9	マレーシア 2.1	マレーシア 2.2	タイ 2.1	豪州 2.2	英国 2.3	タイ 2.4
13	豪州 1.9	ロシア 2.0	豪州 2.1	ロシア 2.0	新嘉坡 2.2	新嘉坡 2.3	新嘉坡 2.2
14	マレーシア 1.8	豪州 1.9	タイ 2.0	メキシコ 2.0	メキシコ 2.2	タイ 2.2	英国 2.2
15	メキシコ 1.8	メキシコ 1.9	ロシア 2.0	豪州 2.0	タイ 2.2	豪州 2.2	インドネシア 2.1
16	インドネシア 1.7	インドネシア 1.8	メキシコ 1.7	インドネシア 1.8	ロシア 2.1	台湾 2.0	台湾 2.1
17	タイ 1.7	タイ 1.8	カナダ 1.6	フィリピン 1.7	インドネシア 2.0	インドネシア 1.9	ブラジル 2.0
18	カナダ 1.4	フィリピン 1.6	フィリピン 1.6	新嘉坡 1.6	フィリピン 1.8	ブラジル 1.7	豪州 2.0
19	フィリピン 1.4	カナダ 1.5	インドネシア 1.6	ブラジル 1.6	ブラジル 1.7	UAE 1.6	UAE 1.8
20	ブラジル 1.4	ブラジル 1.4	フランス 1.4	カナダ 1.5	UAE 1.5	フィリピン 1.6	フィリピン 1.5

(注)UAEはアラブ首長国連邦、新嘉坡はシンガポール。

図表6 中国の輸入相手国上位20カ国の顔ぶれの変遷

(数字は中国の輸入総額に占めるシェア、%)

	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
1	韓国 9.6	韓国 8.4	台湾 9.7	台湾 9.3	台湾 8.7	台湾 7.8	台湾 8.4
2	日本 8.5	台湾 8.3	日本 8.5	韓国 8.0	韓国 7.3	米国 6.4	韓国 7.0
3	台湾 8.3	日本 8.3	韓国 8.4	日本 7.6	日本 6.8	韓国 6.3	米国 6.3
4	米国 7.3	米国 5.9	米国 6.5	米国 6.7	米国 6.5	日本 6.3	日本 6.0
5	ドイツ 5.0	豪州 5.8	豪州 5.7	豪州 6.1	豪州 5.3	豪州 6.1	豪州 5.4
6	豪州 5.0	ドイツ 5.1	ドイツ 5.1	ドイツ 4.5	ロシア 4.2	ロシア 5.1	ロシア 5.0
7	ブラジル 3.6	ブラジル 3.8	ブラジル 4.1	ブラジル 4.1	ドイツ 4.1	ブラジル 4.8	ブラジル 4.5
8	ベトナム 3.0	マレーシア 3.5	ベトナム 3.8	マレーシア 3.7	マレーシア 4.1	ドイツ 4.2	マレーシア 4.3
9	マレーシア 3.0	ベトナム 3.1	マレーシア 3.6	ベトナム 3.4	ブラジル 4.0	マレーシア 4.0	ベトナム 3.8
10	ロシア 2.8	ロシア 2.9	ロシア 2.8	ロシア 3.0	ベトナム 3.2	ベトナム 3.6	ドイツ 3.7
11	サウジ 2.1	サウジ 2.6	タイ 2.3	インドネシア 2.4	サウジ 2.9	インドネシア 2.9	インドネシア 2.7
12	タイ 2.1	タイ 2.2	サウジ 1.9	タイ 2.3	インドネシア 2.9	サウジ 2.5	サウジ 2.2
13	スイス 1.8	新嘉坡 1.7	インドネシア 1.8	サウジ 2.1	タイ 2.1	スイス 2.1	スイス 2.1
14	インドネシア 1.6	インドネシア 1.6	新嘉坡 1.5	チリ 1.5	スイス 1.8	タイ 2.0	タイ 1.9
15	新嘉坡 1.6	フランス 1.6	チリ 1.4	新嘉坡 1.4	UAE 1.7	カナダ 1.7	カナダ 1.8
16	フランス 1.5	カナダ 1.4	フランス 1.4	フランス 1.4	チリ 1.6	チリ 1.7	チリ 1.6
17	カナダ 1.3	スイス 1.3	イタリア 1.1	スイス 1.4	カナダ 1.6	UAE 1.5	イラク 1.5
18	南アフリカ 1.3	チリ 1.3	カナダ 1.1	南アフリカ 1.2	イラク 1.5	フランス 1.5	UAE 1.4
19	チリ 1.3	南アフリカ 1.2	インド 1.0	カナダ 1.1	オマーン 1.3	イラク 1.4	フランス 1.4
20	アンゴラ 1.2	英国 1.2	南アフリカ 1.0	イタリア 1.1	フランス 1.3	南アフリカ 1.3	新嘉坡 1.2

(注)UAEはアラブ首長国連邦、新嘉坡はシンガポール。

(2) 中国のロシアからの石油ガス輸入

①原油

2024年の中国の対ロシア輸入額は、原油や天然ガスなどエネルギー関連の増加により1,294億5,026万ドルと過去最高を更新した。ただし伸び率は0.2%にとどまり、2022年の43.4%、2023年の13.2%と比べて大幅に鈍化した。2023年と同様、原油・ガス価格の下落が主因であり、数量の増加が価格下落分をかるうじて相殺した形となった。

ロシアは欧州市場を事実上失ったことでアジア市場への販売攻勢を強め、米欧との対立激化も相まって、中国は2022年以降ロシア産エネルギーの調達を拡大してきた。しかし2024年は、中国国内の景気減速の影響もあり、これまでの「爆買い」の勢いにはやや陰りが見られた。

2024年のデータによると、原油（HSコード27090000）の輸入量は1億847万トンで、前年比1.4%増となった。一方、輸入額は3.0%増の625億2,578万ドルで、いずれも過去最高を更新した。ただし輸入量の増加幅は145万トンと小幅にとどまり、数量ベースでは伸びが鈍化している。

2024年の中国全体の原油輸入量は5億5,324万トンであり、ロシアはその19.6%を占めた。2023年にサウジアラビアを抜いて最大の輸入先となったロシアは、2024年もその地位をさらに強化した。輸入額ベースでもロシアが首位、サウジアラビアが2位で、この2カ国が突出している。続いてマレーシア、イラク、オマーン、UAE、ブラジルが上位を占める。特に注目されるのは、マレーシアからの輸入量が7,016万トンと、2年前の3,565万トンからほぼ倍増した点である。

2023年の中国の原油輸入量は5億6,397万トンで、ロシアはその19.0%を占めた。輸入額ベースでもロシアが首位、サウジアラビアが2位であり、以下イラク、マレーシア、UAE、オマーン、ブラジルが続いた。

ロシアのノヴァク副首相によれば、2024年のロシアの原油輸出量は2億4,000万tに達した。統計の出所が異なるため単純比較はできないものの、中国向けのシェアは45.2%に上った計算となり、ロシアの対中依存の高さが際立つ。中国は最大の買い手として価格交渉力を強めつつあるが、実際の取引価格は国際市況に連動しており、必ずしも大幅な割引を享受しているわけではない。

数量や金額以上に重要なのは輸入価格である。2024年のロシア産原油の中国向け輸入価格は1バレル当たり78.0ドル（1t≒7.33バレル換算）であった。これに対し、中国の全世界からの原油輸入価格は平均81.7ドルであり、ロシア産は4.3ドルほど安いにすぎない。想定よりも価格差が小さい点は注目される。

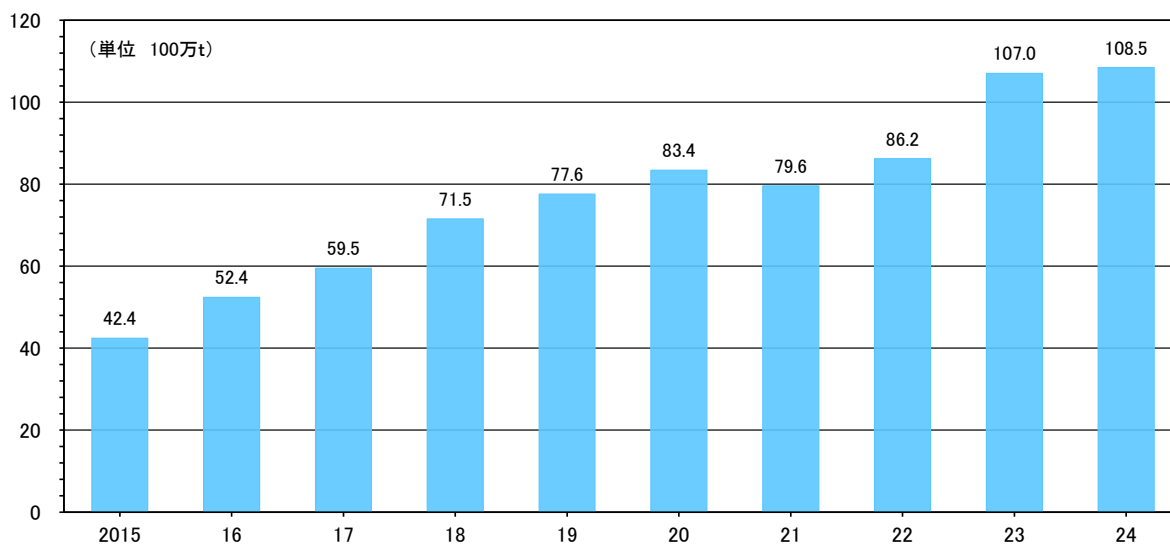
G7、オーストラリア、EUは2022年12月以降、ロシア産海上輸送原油に対し1バレル60ドルの上限価格を設定している。米欧は、制裁を回避してロシア産の石油を運ぶ「影の船団」とも呼ばれるタンカ

一などに、制裁を科し、石油取引に対する締めつけを強化している。しかし中国の輸入価格はこれを大きく上回っており、制裁枠組みを意に介さない取引が継続していることになる。

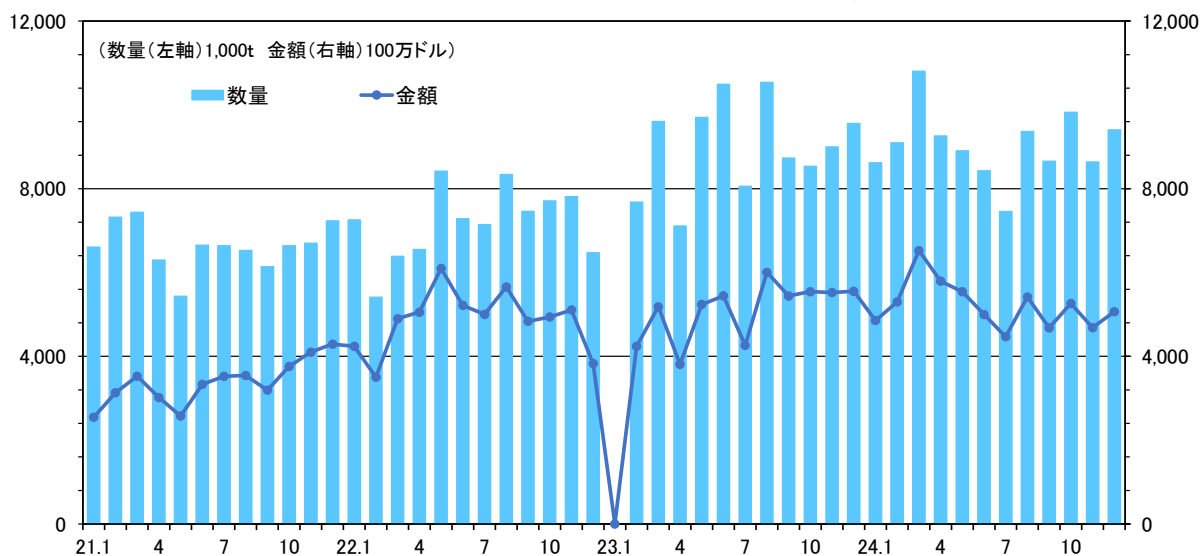
月別に見ても、ロシア産原油の中国向け価格は国際価格の動きに連動して変動している。2023年は72.6ドルから84.6ドルの範囲で推移した。ロシアが新たな輸出先を確保するため国際価格より大幅に割り引いているように見えるが、実際には国際価格に準じた水準で取引されている。

中国が輸入するロシア産原油は、国際価格より20～30ドル安いウラル原油よりも、むしろ高値のESPO原油やサハリン産原油の比率が高い。このことも、ロシア産原油の輸入価格が国際価格に近い水準にとどまる一因となっている。

図表7 中国のロシアからの原油輸入（年別）



図表8 中国のロシアからの原油輸入（月別）



図表9 中国のロシアからの原油輸入(年別 トンベース)

	数量 (1,000t)		金額 (100万ドル)		価格 (ドル/t)	
		前年 増減率(%)		前年 増減率(%)		前年 増減率(%)
2015年	42,434.1		17,242.4		406.3	
2016年	52,478.4	23.7	16,889.5	-2.0	321.8	-20.8
2017年	59,538.2	13.5	23,884.2	41.4	401.2	24.6
2018年	71,491.6	20.1	38,118.6	59.6	533.2	32.9
2019年	77,642.4	8.6	37,424.1	-1.8	482.0	-9.6
2020年	83,444.4	7.5	27,688.0	-26.0	331.8	-31.2
2021年	79,641.0	-4.6	40,544.4	46.4	509.1	53.4
2022年	86,242.0	8.3	58,584.2	44.5	679.3	33.4
2023年	107,014.9	24.1	60,700.1	3.6	567.2	-16.5
2024年	108,469.3	1.4	62,589.8	3.1	577.0	1.7

図表10 中国のロシアからの原油輸入(年別 バレルベース)

	数量 (100万 バレル)		金額 (100万ドル)		価格 (ドル/バレル)	
		前年 増減率(%)		前年 増減率(%)		前年 増減率(%)
2015年	314.1		17,242.4		54.9	
2016年	388.5	23.7	16,889.5	-2.0	43.5	-20.8
2017年	440.7	13.5	23,884.2	41.4	54.2	24.6
2018年	529.2	20.1	38,118.6	59.6	72.0	32.9
2019年	574.7	8.6	37,424.1	-1.8	65.1	-9.6
2020年	617.7	7.5	27,688.0	-26.0	44.8	-31.2
2021年	589.5	-4.6	40,544.4	46.4	68.8	53.4
2022年	638.4	8.3	58,584.2	44.5	91.8	33.4
2023年	792.2	24.1	60,700.1	3.6	76.6	-16.5
2024年	802.9	1.4	62,589.8	3.1	78.0	1.7

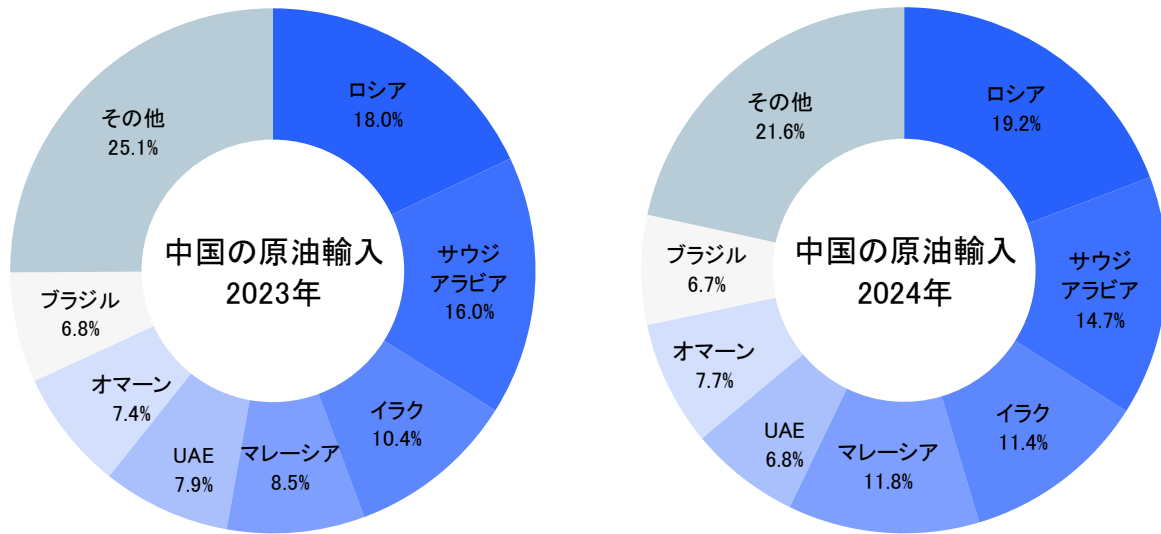
図表11 中国のロシアからの原油輸入(月別 トンベース)

	数量 (1,000t)		金額 (100万ドル)		価格 (ドル/t)	
		前年同月 増減率(%)		前年同月 増減率(%)		前年同月 増減率(%)
2022年 1月	7,256.4	9.8	4,238.2	0.0	584.1	0.0
2月	5,410.5	-26.1	3,504.1	11.9	647.7	51.4
3月	6,387.0	-14.1	4,899.4	38.9	767.1	61.7
4月	6,549.9	4.0	5,053.7	67.5	771.6	61.1
5月	8,417.7	54.8	6,096.9	136.8	724.3	52.9
6月	7,284.2	9.5	5,215.5	56.5	716.0	43.0
7月	7,143.3	7.6	5,001.6	41.9	700.2	31.9
8月	8,340.4	27.7	5,655.2	59.5	678.0	24.9
9月	7,462.0	21.5	4,837.0	51.6	648.2	24.7
10月	7,712.1	16.1	4,939.7	31.5	640.5	13.2
11月	7,813.0	16.6	5,107.9	24.5	653.8	6.8
12月	6,471.5	-10.6	3,828.3	-10.8	591.6	-0.3
2023年 1月	0.0	-100.0	0.0	-100.0	#DIV/0!	#DIV/0!
2月	7,682.6	42.0	4,238.0	20.9	551.6	-14.8
3月	9,606.1	50.4	5,185.4	5.8	539.8	-29.6
4月	7,113.3	8.6	3,808.6	-24.6	535.4	-30.6
5月	9,703.8	15.3	5,237.7	-14.1	539.8	-25.5
6月	10,494.0	44.1	5,444.0	4.4	518.8	-27.5
7月	8,060.8	12.8	4,261.5	-14.8	528.7	-24.5
8月	10,541.6	26.4	6,005.4	6.2	569.7	-16.0
9月	8,734.6	17.1	5,442.0	12.5	623.0	-3.9
10月	8,534.3	10.7	5,543.4	12.2	649.5	1.4
11月	8,996.5	15.1	5,523.4	8.1	614.0	-6.1
12月	9,559.1	47.7	5,554.6	45.1	581.1	-1.8
2024年 1月	8,618.4	-	4,856.3	-	563.5	-
2月	9,095.5	18.4	5,300.9	25.1	582.8	5.6
3月	10,804.8	12.5	6,524.9	25.8	603.9	11.9
4月	9,259.4	30.2	5,793.0	52.1	625.6	16.8
5月	8,907.6	-8.2	5,541.5	5.8	622.1	15.3
6月	8,430.2	-19.7	4,997.9	-8.2	592.9	14.3
7月	7,456.7	-7.5	4,468.0	4.8	599.2	13.3
8月	9,368.8	-11.1	5,416.9	-9.8	578.2	1.5
9月	8,657.2	-0.9	4,679.4	-14.0	540.5	-13.2
10月	9,825.5	15.1	5,260.7	-5.1	535.4	-17.6
11月	8,640.4	-4.0	4,684.6	-15.2	542.2	-11.7
12月	9,404.8	-1.6	5,065.8	-8.8	538.6	-7.3

図表12 中国のロシアからの原油輸入(月別 バレルベース)

	数量 (1,000バレル)		金額 (100万ドル)		価格 (ドル/バレル)	
		前年同月 増減率(%)		前年同月 増減率(%)		前年同月 増減率(%)
2022年 1月	53,714.4	9.8	4,238.2	0.0	78.9	0.0
2月	40,050.0	-26.1	3,504.1	11.9	87.5	51.4
3月	47,278.9	-14.1	4,899.4	38.9	103.6	61.7
4月	48,484.4	4.0	5,053.7	67.5	104.2	61.1
5月	62,310.7	54.8	6,096.9	136.8	97.8	52.9
6月	53,919.8	9.5	5,215.5	56.5	96.7	43.0
7月	52,876.9	7.6	5,001.6	41.9	94.6	31.9
8月	61,738.3	27.7	5,655.2	59.5	91.6	24.9
9月	55,236.1	21.5	4,837.0	51.6	87.6	24.7
10月	57,087.8	16.1	4,939.7	31.5	86.5	13.2
11月	57,834.8	16.6	5,107.9	24.5	88.3	6.8
12月	47,904.5	-10.6	3,828.3	-10.8	79.9	-0.3
2023年 1月	0.0	-100.0	0.0	-100.0	0.0	
2月	56,868.8	42.0	4,238.0	20.9	74.5	-14.8
3月	71,107.2	50.4	5,185.4	5.8	72.9	-29.6
4月	52,654.9	8.6	3,808.6	-24.6	72.3	-30.6
5月	71,831.0	15.3	5,237.7	-14.1	72.9	-25.5
6月	77,680.0	44.1	5,444.0	4.4	70.1	-27.5
7月	59,668.4	12.8	4,261.5	-14.8	71.4	-24.5
8月	78,032.4	26.4	6,005.4	6.2	77.0	-16.0
9月	64,656.0	17.1	5,442.0	12.5	84.2	-3.9
10月	63,173.6	10.7	5,543.4	12.2	87.7	1.4
11月	66,595.0	15.1	5,523.4	8.1	82.9	-6.1
12月	70,759.5	47.7	5,554.6	45.1	78.5	-1.8
2024年 1月	63,796.2	-	4,856.3	-	76.1	-
2月	67,356.2	18.4	5,300.9	25.1	78.7	5.6
3月	80,370.6	13.0	6,524.9	25.8	81.2	11.3
4月	68,476.1	30.0	5,793.0	52.1	84.6	17.0
5月	65,931.3	-8.2	5,541.5	5.8	84.0	15.3
6月	62,348.8	-19.7	4,997.9	-8.2	80.2	14.4
7月	55,429.0	-7.1	4,468.0	4.8	80.6	12.9
8月	69,189.2	-11.3	5,416.9	-9.8	78.3	1.7
9月	63,814.1	-1.3	4,679.4	-14.0	73.3	-12.9
10月	72,473.1	14.7	5,260.7	-5.1	72.6	-17.3
11月	64,122.1	-3.7	4,684.6	-15.2	73.1	-11.9
12月	69,608.8	-1.6	5,065.8	-8.8	72.8	-7.3

図表13 中国の原油輸入先



②LNG

ロシアからのLNG（27111100）の輸入量は828万3,578 tで、前年と比べて3.0%増加した。一方、金額は49億8.893万ドルと、3.7%減少した。輸入量は過去最高となったが、金額は2年連続で前年を下回った。LNGのロシアからの輸入はこの6年で11.3倍増えた。

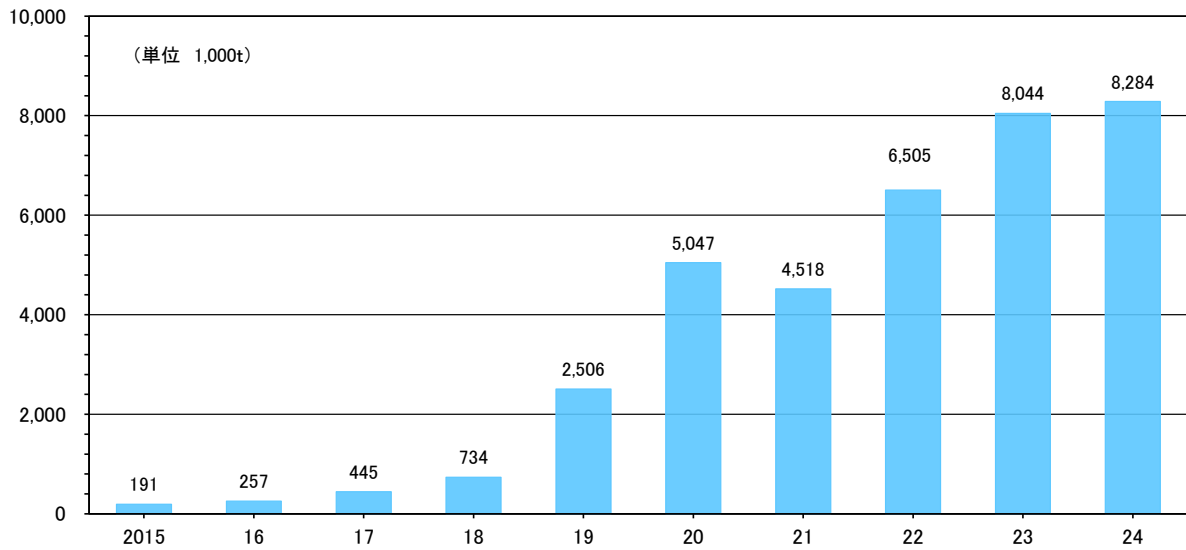
中国最大のLNG輸入先はオーストラリアで、そのほかカタール、ロシア、マレーシア、米国などが上位を占める。2024年のデータによると、額面レベルでの輸入先は1位がオーストラリア（34.0%）、2位がカタール（24.0%）で、この2カ国が抜きん出ている。ロシアは11.3%と3位にランクインしている。

ロシア連邦統計局が発表した2024年のロシアのLNG生産量は3,470万 tだった。中国税関発表のロシアからのLNG輸入量は828万 tだったので、ロシアのLNGの4分の1が中国向けだったことになる。米欧や日本はLNGを制裁対象とせず、ロシアはこれら国々への輸出を続けているが、供給先でも、中国がそのシェアを着実に拡大している。

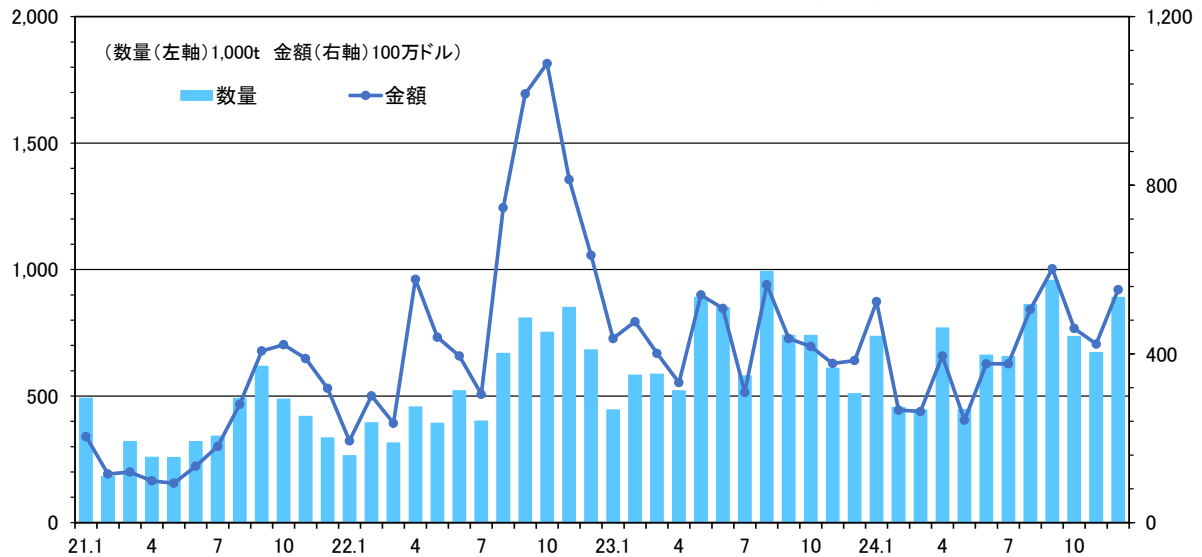
ロシア産LNGの1 t当たりの輸入価格は602.3ドルだった。一方、中国が全世界からLNGを輸入する際の価格は575.3ドルで、ロシア産は28.0ドル割高となっている。ロシアからの輸入価格はオーストラリア、カタール、マレーシアからの価格よりも高くなっており、中国が割高なロシア産LNGを意図的に調達していることがわかる。

この割高な価格の背景には、中国企業が出資するロシアの北極圏でのLNG開発プロジェクト「ヤマルLNG」や「アークティックLNG-2」からの供給が影響していると考えられる。

図表14 中国のロシアからのLNGの輸入(年別)



図表15 中国のロシアからのLNGの輸入(月別)



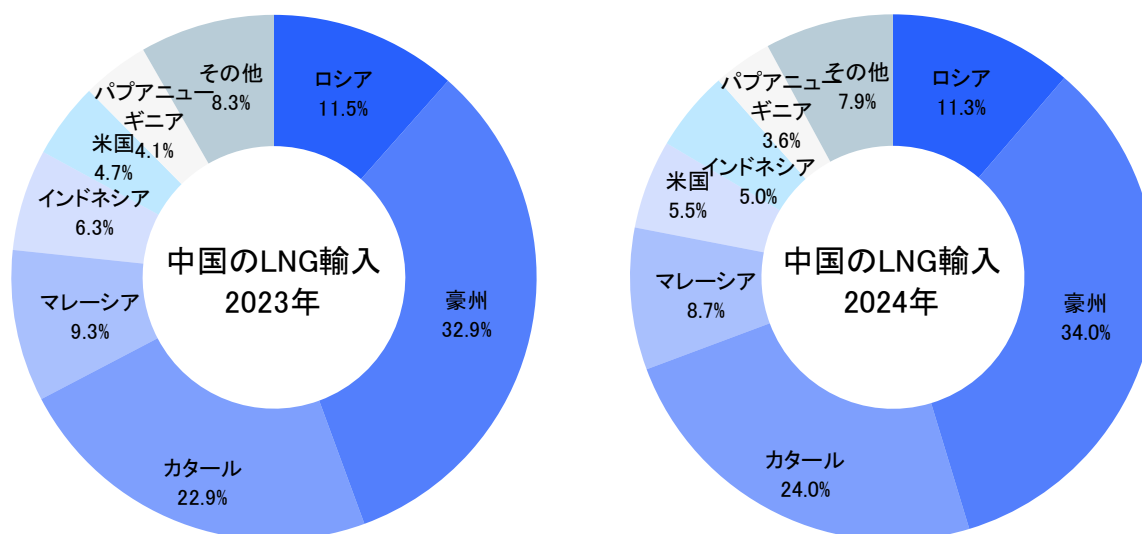
図表16 中国のロシアからのLNGの輸入(年別)

	数量 (1,000t)		金額 (100万ドル)		価格 (ドル/t)	
	前年 増減率(%)		前年 増減率(%)		前年 増減率(%)	
2015年		191.1		107.9		564.5
2016年	34.2	256.5	-21.9	84.2		328.3
2017年	73.4	444.9	108.9	175.9		395.4
2018年	65.0	734.3	128.6	402.2		547.7
2019年	241.3	2,505.8	181.7	1,132.8		452.1
2020年	101.4	5,047.1	51.7	1,718.7		340.5
2021年	-10.5	4,518.1	60.8	2,763.0		611.5
2022年	45.1	6,555.1	149.1	6,884.0		1,050.2
2023年	22.7	8,044.0	-24.7	5,182.8		644.3
2024年	3.0	8,283.6	-3.7	4,988.9		602.3

図表17 中国のロシアからのLNGの輸入(月別)

	数量 (1,000t)		金額 (100万ドル)		価格 (ドル/t)	
		前年同月 増減率(%)		前年同月 増減率(%)		前年同月 増減率(%)
2022年 1月	263.9	-46.3	193.8	0.0	734.5	76.9
2月	393.7	116.4	300.6	160.9	763.5	20.6
3月	314.3	-1.7	235.7	96.6	749.9	99.9
4月	456.8	77.2	577.0	0.0	1,263.3	229.1
5月	392.4	52.7	439.7	371.0	1,120.6	208.4
6月	520.5	62.7	395.0	195.5	758.8	81.6
7月	401.1	17.6	304.3	0.0	758.6	43.1
8月	668.7	36.2	746.6	166.2	1,116.6	95.4
9月	808.3	30.9	1,016.8	149.7	1,257.9	90.7
10月	752.1	54.4	1,089.0	0.0	1,447.9	67.3
11月	850.4	102.7	813.7	109.0	956.8	3.1
12月	682.6	104.1	634.1	99.1	928.9	-2.5
2023年 1月	444.9	68.6	436.5	0.0	981.0	33.6
2月	582.3	47.9	476.5	58.5	818.3	7.2
3月	586.4	86.6	401.2	70.2	684.2	-8.8
4月	520.5	14.0	331.8	0.0	637.4	-49.5
5月	889.1	126.6	539.7	22.7	607.1	-45.8
6月	849.8	63.3	508.0	28.6	597.8	-21.2
7月	579.9	44.6	308.8	0.0	532.5	-29.8
8月	992.8	48.5	564.2	-24.4	568.2	-49.1
9月	739.5	-8.5	436.5	-57.1	590.3	-53.1
10月	739.6	-1.7	417.8	0.0	564.9	-61.0
11月	609.6	-28.3	377.3	-53.6	618.9	-35.3
12月	509.5	-25.4	384.4	-39.4	754.5	-18.8
2024年 1月	735.7	65.4	523.9	0.0	712.2	-27.4
2月	455.3	-21.8	266.8	-44.0	586.0	-28.4
3月	445.4	-24.0	263.5	-34.3	591.6	-13.5
4月	769.2	47.8	395.3	0.0	513.9	-19.4
5月	446.3	-49.8	242.7	-55.0	543.8	-10.4
6月	661.2	-22.2	376.8	-25.8	569.8	-4.7
7月	656.1	13.1	376.5	0.0	573.9	7.8
8月	861.4	-13.2	505.4	-10.4	586.7	3.3
9月	957.3	29.4	601.9	37.9	628.8	6.5
10月	734.9	-0.6	460.4	0.0	626.5	10.9
11月	671.4	10.1	423.5	12.3	630.8	1.9
12月	889.5	74.6	552.2	43.7	620.9	-17.7

図表18 中国のLNG輸入先



③ガス

パイプラインによるガス（27112100）の輸入は、プーチン大統領の発表によると310億m³で、前年より36.6%増加した。金額は中国税関の発表で80億3,994万ドルとなり、前年の64億3,559万ドルから24.9%増加した。

パイプラインによるガスのロシアからの輸入ははこの4年で9.1倍増えた。

ガス輸入先はトルクメニスタンとロシアの2カ国で8割以上を占める。そのほか、ミャンマー、カザフスタン、ウズベキスタンからも輸入している。2024年のデータによると、額面レベルでの輸入先は1位がトルクメニスタン（45.4%）、2位がロシア（38.1%）、3位がミャンマー（6.6%）、4位がカザフスタン（6.5%）、5位がウズベキスタン（3.4%）だった。

ヨーロッパ向けのガス輸出が激減する中で、ロシアは、中国へのガス輸出を拡大している。ロシアから中国へ直接ガスを送るパイプライン「シベリアの力」が稼働を開始した2019年以降、ロシアは想定を上回るペースでガスの輸出を増やし続けている。2024年の供給量は侵攻前の2021年の3.5倍に達した。両国は2025年までに年間380億m³のガスを供給することで合意している。ガスプロムは昨年12月、中国側の要請を受け、「シベリアの力」ガスパイプラインの中国へのガス供給量を契約上の最大レベルに引き上げた。2025年5月末、開業からの供給量が累計で1,000億m³に達した。

「シベリアの力」とは別に、両国は、北極圏のヤマル半島からモンゴルを経由して中国にガスを送る「シベリアの力-2」の建設計画も進めている。完成すれば、年間500億m³のガスを供給する計画で、2023年10月、ガスプロムは、設計に着手したと発表した。

このほか、両国間では、サハリンからハバロフスクを經由してウラジオストクを結ぶパイプラインを沿海地方北部（ダリネレチェンスク・黒竜江省虎林）で中国へ分岐させ、年間100億 m^3 のガスを送るプロジェクト、いわゆる、極東パイプライン計画が進行中である。2022年2月、ガスパロムと中国のCNPC（中国石油天然ガス集団）は、ガスの長期売買契約に署名した。2023年2月には、両国政府がパイプラインの建設で合意し、政府間協定を締結した。さらに2025年6月には、ガスパロムと中国のCNPC、Pipe Chinaが、国境地帯のパイプラインを中国側が建設することで合意した。2024年9月、ロシア当局は、環境影響評価の結果を発表し、肯定的な結論を下した。ガスパロムのミレル社長は、遅くとも2027年に輸送が開始されるとの見通しを示している。

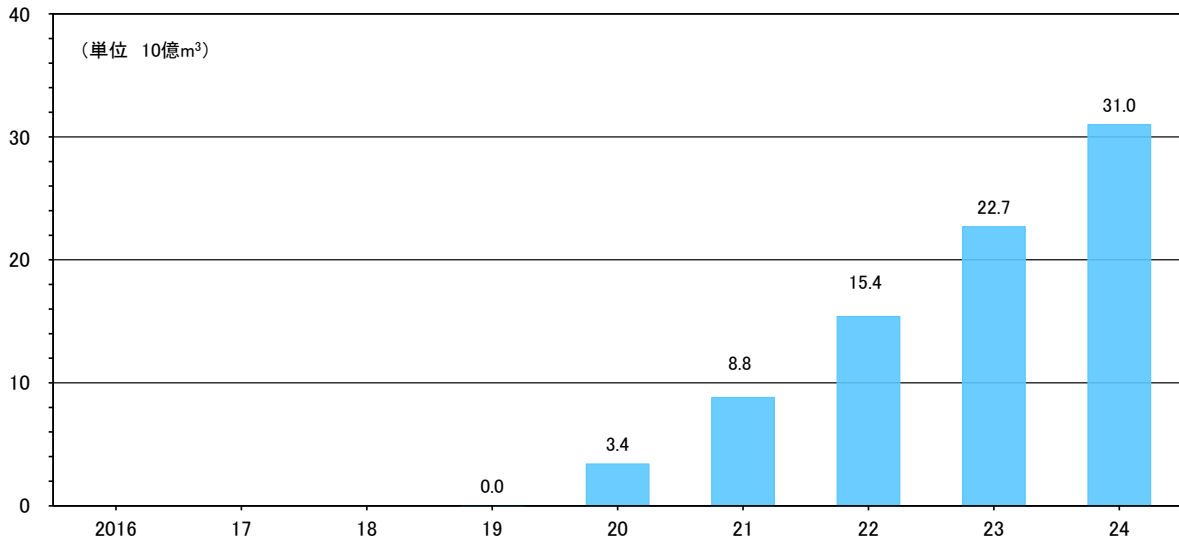
2024年のロシアのガス輸出は、各種報道を基に数量レベルで約1,000億～1,100億 m^3 と推定される。出所が異なるため単純に比較することはできないが、ロシアのガス輸出に占める中国の割合は28～31%になったとみられる。

ロシア産ガスの主な供給先だったヨーロッパは一部の国を除き、侵攻後、輸入を停止する。これに対し、ロシアは、中国やトルコ、CIS諸国など新しい市場への輸出を強化することで対抗する。2024年も、中国が減少したヨーロッパ分の一部を補い、ロシアの収入を支えた。中国向けの供給拡大は、輸出先を失いピンチに陥ったロシアを救い、プーチン政権の戦争継続を助けることにつながった。中国の「支援」の影響は極めて大きいと言える。

ガスパロムは2019年の供給開始以来、中国向けのガス価格を発表していない。しかし、中国側発表の金額（80億3,994万ドル）とロシア側発表の数量（310億 m^3 ）をもとに算出すると、2024年の供給価格は1,000 m^3 当たり259.4ドルだった。これは前年の283.5ドルと比べると、24ドル以上の下落となった。一方、ヨーロッパやトルコ向けのガス輸出価格は400～500ドル台であり、その差は1,000 m^3 当たり100ドルから200ドルにもなる。この価格差から、中国がロシア産ガスを引き続き割安な価格で購入し続けていることがわかる。

最大の供給先だったヨーロッパ向けの供給回復が見込めない状況で、ロシアは、代替輸出先として中国への供給を拡大する必要に迫られている。長期の供給契約があるものの、中国はその状況を利用して、ロシア産ガスを安価に買い叩いているとみられる。

図表19 中国のロシアからのガスの輸入（年別）



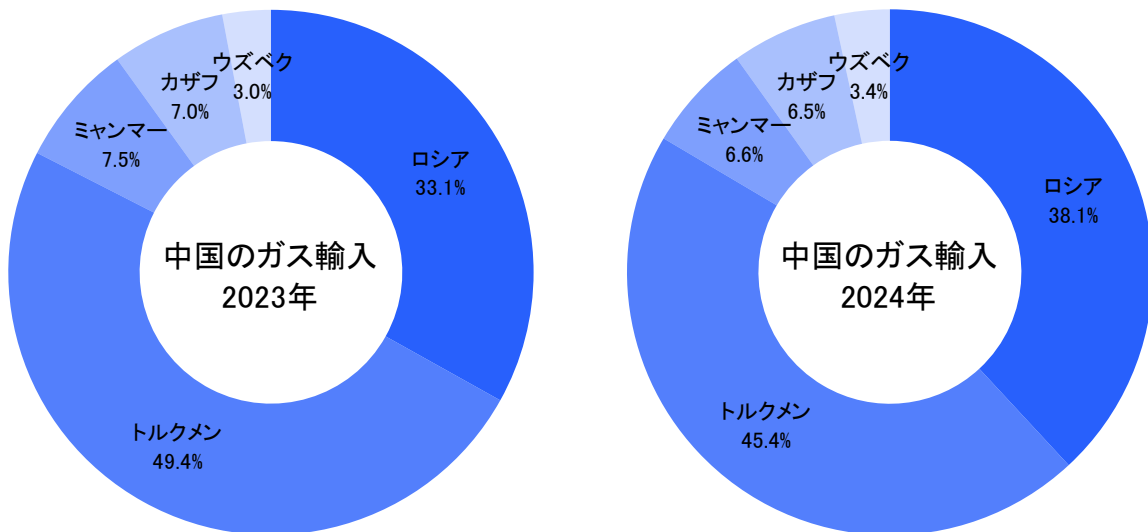
(出所) ガスプロムのプレスリリースおよびロシアのノヴァク副首相などの発言。

図表20 中国のロシアからのガスの輸入（年別）

	数量 (10億m³)		金額 (100万ドル)		価格 (ドル /1,000m³)	
		前年 増減率 (%)		前年 増減率 (%)		前年同月 増減率 (%)
2019年	0.0		1.1		268.6	
2020年	3.4		636.3		187.2	-30.3
2021年	8.8	158.8	1,510.6	137.4	171.7	-8.3
2022年	15.4	75.0	3,980.9	163.5	258.5	50.6
2023年	22.7	47.4	6,435.6	61.7	283.5	9.7
2024年	31.0	36.6	8,039.9	24.9	259.4	-8.5

(出所) 数量はガスプロムのプレスリリースおよびロシアのノヴァク副首相などの発言。金額は中国税関の貿易統計。

図表21 中国のガス輸入先



2. 石油ガス分野での中ロ協力

中ロのエネルギー協力は、両国関係の中でも最も戦略的かつ構造的に重要な分野で、近年は「量的拡大」から「長期固定化」へ、「資金を投じる投資」の段階から「利益である果実」を獲得する段階へと進んでいる。以下では、最新動向を踏まえながら、エネルギー分野における中ロ間のプロジェクトの現況、将来展望を体系的に整理する。

(1) ヤマルLNGプロジェクト

ヤマルLNGプロジェクトは、ロシアのヤマロ・ネネツ自治管区サベッタに建設された大規模液化天然ガス (LNG) 生産プロジェクトであり、北極圏に位置する極寒環境下で推進された点に特徴がある。

プロジェクトは南タンベイスコエガス田を主たる供給源とし、年間1,650万 t (550万 t×3系列) の生産能力を備える。建設はTechnipFMC、日揮、千代田化工建設のコンソーシアムが担当し、2017年末に1系列目が稼働を開始し、2021年までに全系列の稼働を開始した。

2021年には、第4系列 (トレイン) が新たに稼働した。この第4系列は、ノヴァテクが開発した独自の液化技術「アルクチック・カスケード」を基盤として建設され、設備機器の国産化率は95%を超える。設計能力は90万 t と中規模であるが、2022年には設計能力に達したとされる。これにより、ヤマルLNGは生産量の拡大に加え、液化技術の国産化・高度化という面でも前進した。ただし、第4系列は他の系列 (550万 t) に比べて小規模であり、国産技術の実証・拡張を目的とした設備であるため、全体の生産量に占める割合は限定的である。

事業主体はJSC Yamal LNGである。株主構成はロシアのノヴァテク50.1%、仏トタル20%、CNPC20%、シルクロード基金9.9%となっている。

ヤマルLNGプロジェクトの生産量・出荷量は、近年大きく伸びている。サベッタ港の港湾統計によれば、2024年のLNG出荷量は2,128万2,900 t に達し、過去最高を記録した。サベッタ港からLNGを出荷しているのはヤマルLNGのみであるため、この数値はそのままヤマルLNGの生産量を示している。2018年の出荷量は829万3,500 t であり、この6年間で生産量は約2.6倍に増加したことになる。また、報道によれば、ヤマルLNGからのLNG船の年間出荷量は270～300カーゴとされている。1カーゴを約7万～7.5万 t で換算すると、これは年間2,000万 t 超の出荷量に相当する。

ヤマル半島はロシア国内でも天然ガス埋蔵量が集中する地域であり、世界の天然ガス埋蔵量の約20%が賦存するとされる。ロシアは既存の西シベリアガス田の減退を見据え、2000年代以降に同地域の開発を戦略的に進めてきた。しかし、2014年のクリミア危機以降、西側諸国による対ロシア制裁が強化され、ロシア側は国際金融市場での資金調達が困難となった。この状況下で、中国企業と中国政

府系金融機関の参画がプロジェクト継続の重要な要因となった。

中国企業の関与は出資、資金調達、設備供給、輸送の各段階に及んだ。まず、CNPCが20%、シルクロード基金が9.9%を出資し、欧米制裁下での資金調達難を補った。また、関連設備の7割以上が中国製とされ、とくにモジュール工法で使用された大型モジュールの多くが中国国内で製造された。さらに、北極海航路を利用したLNG輸送においても、中国企業が砕氷LNG船の建造や運航に関与し、輸送体制の構築に寄与した。生産されたLNGの多くは北極海航路を通じて、中国や欧州に輸送されている。

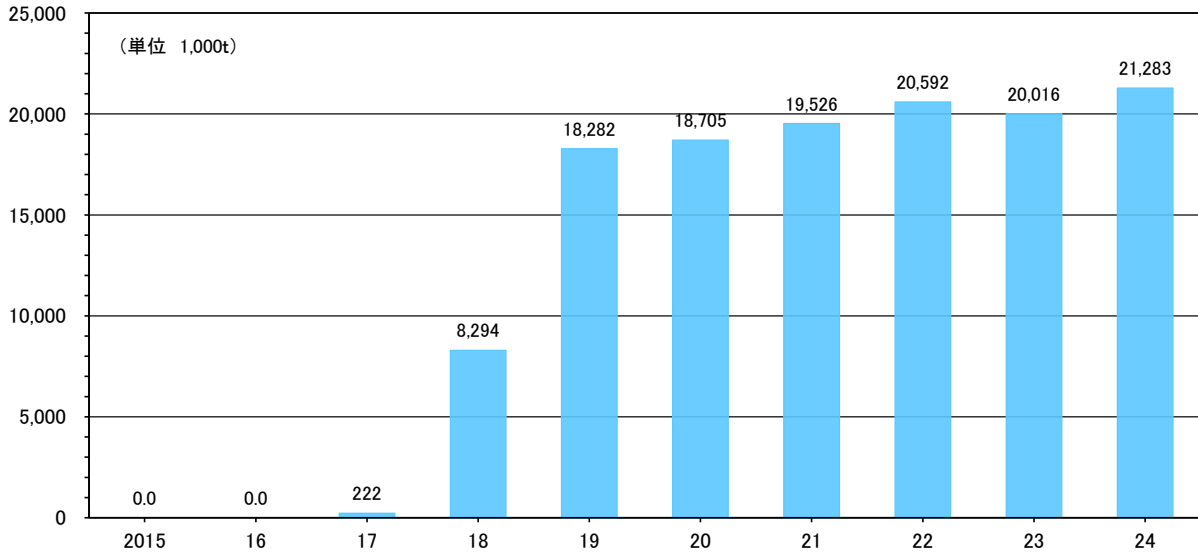
ヤマルLNGプロジェクトは、極寒地での建設、モジュール工法の大規模活用、北極海航路の商業利用など、技術的・物流的に多くの特徴を有する。プラントに加えて港湾、空港、発電所などのインフラも整備され、北極圏での大規模開発として位置づけられる。これらの要素により、同プロジェクトはロシアのエネルギー輸出戦略において重要な役割を果たすとともに、中国とのエネルギー協力関係を強化する契機となった。

図表22 ヤマルLNGプロジェクトの概要

所在地	ヤマロ・ネnetz自治管区サベッタ
オペレーター	JSC Yamal LNG
出資比率	ノヴァテク 50.1%、トタル 20%、CNPC 20%、シルクロード基金 9.9%
生産能力	年産1,650万t(550万t×3系列)
出荷量(2024年)	2,128万t(サベッタ港のLNG出荷量)
稼働開始	2017年12月より稼働開始 第2トレインは2018年8月に、第3トレインは同年11月にそれぞれ稼働開始。 同年12月にフル稼働に
主な供給源	南タンベイスコエガス田
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・冬季はマイナス50度以下に達する環境下で稼働 ・モジュール工法: 建設期間短縮のため、大型モジュールを外部で製作 ・厚さ2.5mの氷を砕く砕氷能力を持つLNG船15隻を使用 ・北極海経由で欧州・アジアに輸出
日本企業の関与	日揮と千代田化工がLNGプラントの建設に参画 商船三井がLNGの輸送に関与
日本への出荷	2019年6月開始

(出所)各種資料より作成。

図表23 サベッタ港のLNG出荷量



(出所)モスクワ海洋商業港協会代表部『ロシア、バルト諸国、ウクライナの港湾を通じた貨物輸送』(各年版)。

図表24 サベッタ港のLNG出荷量

(単位 1,000t)

2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
221.6	8,293.5	18,282.1	18,705.3	19,526	20,592.3	20,016.4	21,282.9

(出所)モスクワ海洋商業港協会代表部『ロシア、バルト諸国、ウクライナの港湾を通じた貨物輸送』(各年版)。

(2) アークティックLNG-2プロジェクト

アークティックLNG-2 (Arctic LNG-2) は、ロシア北極圏のギダン半島で進められている巨大LNG (液化天然ガス) 開発プロジェクトで、年間1,980万 t のLNG生産を目指す世界最大規模の計画である。プロジェクトはヤマロ・ネネツ自治管区ギダン半島に位置し、既存のヤマルLNGの東側にあたる。

事業会社は Arctic LNG-2LLC で、出資比率はロシアのノヴァテックが60%、仏トタルが10%、中国のCNPCが10%、CNOOC (中国海洋石油集団) が10%、日本のJapan Arctic LNG (三井物産とJOGMEC) が10%となっている。

本プロジェクトでは、ウトレニエガス・コンデンセート田を開発し、年間1,980万 t (3系列合計) のLNGを輸出する計画である。また、ガスコンデンセートについても年間最大160万 tを生産する。開発費は200~250億ドルと見積もられている。

稼働スケジュールは、第1系列が2023年に稼働を開始したが、2024年に予定されていた第2系列、2025~2026年に予定されていた第3系列は、制裁の影響によりスケジュールには遅延が生じている。

米国とEUがアークティックLNG-2を制裁対象に指定したことで、日本や欧州諸国は同プロジェクト産LNGの購入を停止し、生産能力は計画を大きく下回る状況が続いている。また、北極海を航行可能な

LNGタンカーの不足も深刻化している。一方で、ロシアはプロジェクトの継続を強調しており、中国など一部の国は引き続きLNGの受け入れを続けている。

アークティックLNG-2からのLNG出荷は、実際には2025年に入ってから始まった。サベッタ港の港湾統計によれば、2025年に荷役会社「アークティックLNG-2」社が取り扱ったLNG出荷量は129万4,400 tに達している。

サベッタ港からLNGを出荷しているのは「ヤマルLNG」と「アークティックLNG-2」の2社のみである。ヤマルLNGの出荷は荷役会社「ヤマルLNG」が担当しており、一方で「アークティックLNG-2」社の出荷量は、そのままアークティックLNG-2プロジェクトの出荷量を示している。

ノヴァテクが当初発表していた計画では、第1系列が稼働を開始する2023年末に出荷を始める予定だった。したがって、制裁の影響により、初出荷は計画より1年以上遅れたことになる。

中国企業はアークティックLNG-2プロジェクトにおいて、CNPCおよびCNOOCがそれぞれ10%、合計20%を出資しており、ロシア以外では最大の出資国である。この出資比率は、プロジェクトの資金調達を支える重要な柱となっている。中国企業は出資比率に応じた優先引き取り権を確保しており、ロシアとのエネルギー協力を強化する上で戦略的な位置を占めている。また、西側企業が制裁により関与を縮小する中で、中国の継続的な出資はプロジェクトの安定性を支える要因となっている。

米国、EU、日本が制裁措置によりアークティックLNG-2産LNGの購入を停止した結果、中国は事実上の唯一の主要買い手となっている。中国南部の北海 (Beihai) LNGターミナルはアークティックLNG-2の主要受け入れ拠点として機能しており、2025年以降、中国は複数回にわたり同プロジェクトからのLNG貨物を受け入れている。これにより、中国はアークティックLNG-2にとって最も安定した輸入国となっている。

中国が購入を継続できる背景には、いくつかの要因がある。第1に、中国は米国・EUの対ロシア制裁に参加していないため、法的制約を受けない。第2に、ロシアとの戦略的パートナーシップを重視しており、エネルギー分野での協力を長期的に強化する方針を採っている。第3に、中国国内の天然ガス需要は増加傾向にあり、ロシア産LNGは価格競争力が高い。さらに、制裁の影響を受けにくい輸送ルート、いわゆる「影の船団」(シャドーフリート)を活用できる点も、中国が安定的に輸入を継続できる理由となっている。

欧州および日本が購入を停止したことで、中国が買い手であることはプロジェクト存続の前提条件となっている。中国の継続的な受け入れがなければ、アークティックLNG-2は生産したLNGの販売先を確保できず、事業継続が困難となる。一方、中国にとっても本プロジェクトは、LNG調達先の多角化、中東依存のリスク低減、ロシアとの長期的なエネルギー協力の深化、安定供給の確保といった観点か

ら戦略的価値を有している。

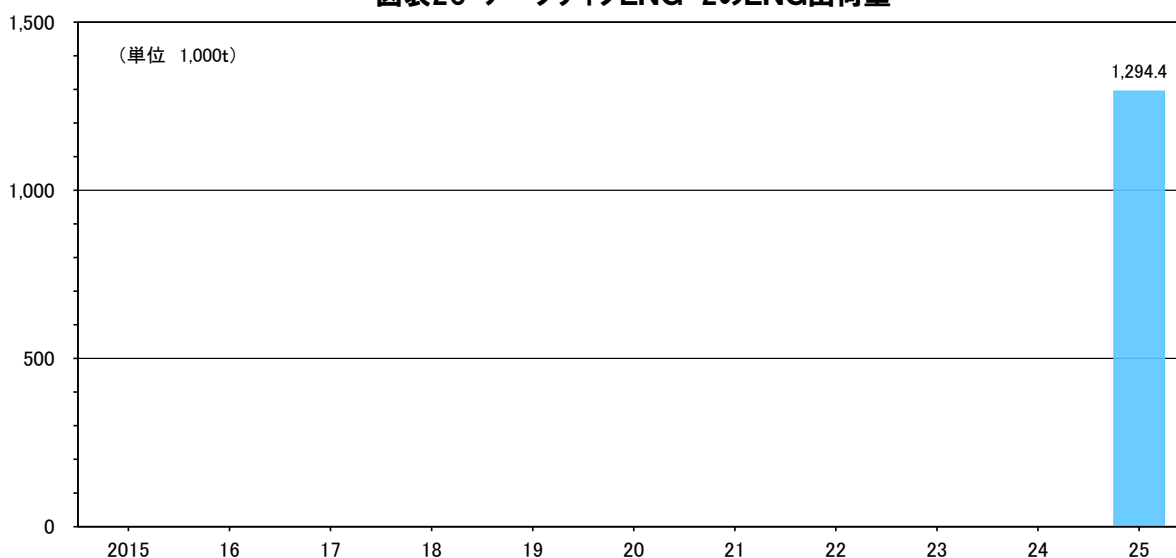
以上のように、中国企業はアークティックLNG-2プロジェクトにおいて、出資面と販売面の双方で不可欠な役割を果たしており、制裁環境下におけるプロジェクト継続の鍵を握る存在となっている。

図表25 アークティックLNG-2プロジェクトの概要

所在地	ヤマロ・ネネツ自治管区ギダン半島
オペレーター	JSC Arctic LNG-2
出資比率	ノヴァテク 60%、トタル 10%、CNPC 10%、CNOOC 10%、Japan Arctic LNG 10%
生産能力	年産1,980万t(660万t×3系列)
出荷量(2025年)	129.4万t(サベッタ港Arctic LNG-2の出荷量)
稼働開始	2025年より稼働開始
主な供給源	ウトレニエガス・コンデンセート田
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・日本とフランス企業はプロジェクトから撤退しないものの、関与停止 ・制裁下で2025年より稼働したが、生産量は計画を大幅に下回る ・欧州や日本企業はLNGの購入を停止 ・ロシアは販売先を中国・インドなどにシフト、しかし、制裁回避のため複雑な輸送ルートが必要に ・プロジェクトの建設が遅延し、初出荷が繰り返し延期(2025年に出荷開始) ・制裁でLNG船の建造ペースが大幅に低下、LNG船不足に陥る
制裁	2023年9月 米、Arctic LNG-2 LLCを制裁対象に指定。その後、制裁範囲はLNGを輸送する船舶会社やLNG船を建造する造船会社などにも拡大され、プロジェクトが計画通りに遂行できない状態に

(出所)各種資料より作成。

図表26 アークティックLNG-2のLNG出荷量



(出所)モスクワ海洋商業港協会代表部『ロシア、バルト諸国、ウクライナの港湾を通じた貨物輸送』(2025年版)。

(3)「シベリアの力」ガスパイプライン

2019年12月2日、サハ共和国のチャヤンダ・ガス田とアムール州の中心都市・ブラゴヴェシチェンスクの中国との国境までの約2,200kmのパイプラインが完成し、ロシアは中国にガスの供給を開始した。中国との国境に近いパイプラインの施設で開かれた記念式典には、プーチン大統領と習近平国家主席がビデオ中継で参加した。両首脳はガスの供給開始にゴーサインを出して、両国の緊密ぶりをアピールした。

プーチン大統領は「エネルギー分野でのロシアと中国の戦略的な互惠関係を新たなレベルに引き上げるものだ」、「中国はタフな交渉相手だが、最善の決定をすることができた」と述べて、プロジェクトの意義を強調した。習主席は「プロジェクトは両国を深く結び付け、相互に有益な協力関係の見本だ」と述べて、「両国関係が新しいステージに入った」と歓迎した。

ロシアはこのパイプラインを通じ、今後30年間にわたり最大年間380億 m^3 の天然ガスを中国へ輸出する計画である。供給量は段階的に拡大され、2020年は50億 m^3 、2021年は100億 m^3 、2022年は150億 m^3 とされた。2025年に380億 m^3 へ到達する計画だった。

当初の供給源はチャヤンダ・ガス田であったが、供給量増加に対応するため、2022年12月にはイルクーツク州のコビクタ・ガス田と同ガス田までの約800kmの延伸パイプラインが稼働を開始した。コビクタ・ガス田は埋蔵量約1.8兆 m^3 とされ、ロシア東部最大級であり、中国向け供給の重要拠点となっている。

また、ブラゴヴェシチェンスク郊外のガス加工プラントは2021年に操業を開始した。パイプラインで送られてくるガスから戦略物資であるヘリウムを除去し、エタンやブタンなど化学品原料を生産する施設である。隣接地にはガス化学プラントも建設され、化学品生産が進められている。

そもそも「シベリアの力」プロジェクトは、極東最大の埋蔵量を誇るチャヤンダ・ガス田を開発して、アムール州のスコヴォロヂノとハバロフスクを通り沿海地方のウラジオストク郊外までパイプラインを建設する「ヤクーチア・ハバロフスク・ウラジオストク計画」（※チャヤンダ・ガス田からハバロフスクまでのパイプラインの総延長は3,200km、総事業費は7,700億ルーブル、天然ガスの供給量は年間610億 m^3 ）のことを指した。ウラジオストク郊外にLNGプラントをつくり、日本などアジア太平洋諸国にLNGを輸出することが想定された。あくまでもウラジオストクへのパイプラインが本線で、中国へのパイプラインはその支線という位置づけだった。

LNGプラントをつくるには、中長期的な販売先を確保する必要があった。しかし、ロシアは販売先を見つけることができず、計画は暗礁に乗り上げた。一方、エネルギー消費量が急速に伸びていた中国は、ロシア産ガスのパイプラインでの供給を求めた。このため、プーチン政権は、支線との位置づ

けだった中国向けのガス供給を「シベリアの力」の最優先プロジェクトとすることを決めた。なお、ウラジオストク郊外のLNGプラントは大きな進展が得られないまま現在に至っている。

中国にガスを供給する構想は2006年に遡る。同年3月21日、ガスプロムがCNPCとの間で、ロシア産天然ガスの中国への供給に関するメモランダムを締結したことに始まる。

当時の合意では、東シベリアと西シベリアの2つのルートで中国にガスを供給することが計画された。1つは西シベリアの鉱床を起点にアルタイ地方を通り中国に至る西ルートで、もう1つはサハリンもしくは東シベリアの鉱床を起点にハバロフスク地方を通り中国に至る東ルート。輸送能力は西ルートが約300億 m^3 /年、東ルートが約380億 m^3 /年。供給源は、西ルートが西シベリア、東ルートがサハリンと東シベリアの新規開発ガス鉱床が想定された。

当初の計画では、西ルートを優先して建設する方針だったが、その後の方針変更で東ルートを優先することになった。

両国は長年交渉を続けてきたが価格が折り合わず、約10年にわたって交渉を続けてきた。双方の対立は、価格をどう形成するかという点にあった。ロシアは石油価格に連動して決まる価格形成モデルの採用を求めているのに対し、中国は石油や石炭などの複数の資源の価格バスケットで決まるモデルを主張。口中の価格差は1,000 m^3 当たり100ドル以上もあったとされ、双方の隔たりは大きかった。ガスの価格をめぐる、ロシアと中国は利害を異にし、対立が深まっていた。

転機となったのは2014年のウクライナ危機である。欧米との関係悪化を背景にロシアは中国との関係強化を急ぎ、長年の懸案だったガス交渉が急速に進展した。2014年5月、両国は30年間で総額4,000億ドル、年間最大380億 m^3 のガス供給で最終合意した。中国側も、米国や日本との対立、そして大気汚染対策による石炭からガスへの転換が合意を後押しした。

この合意を受け、2014年9月にパイプライン敷設が開始され、5年後の2019年12月に供給が始まった。その後、供給量は段階的に増加し、2020年の34億 m^3 から2024年には310億 m^3 に達した。中ロ両国は供給量を公表していないため、ロシア政府関係者の発言などから推計する必要があるが、2025年の輸送量は速報値で388億 m^3 とされる。

両国は2026年に440億 m^3 へ増やすことで合意しており、契約は順調に履行されている。2025年5月末には累計供給量が1,000億 m^3 に到達した。

2025年のロシアのガス輸出量は報道から1,000~1,100億 m^3 と推定され、中国向けはその35~39%を占めるとみられる。欧州向け輸出が激減する中、ガスプロムはアジア向け輸出を強化しており、とりわけ中国向け供給拡大を最優先としている。ガスプロムは「中国はアジアにおける主要な戦略的パートナーであり、同地域のガス需要拡大の原動力となっている」と位置づけている。

欧州向けガス輸出が激減する中、ガスプロムはアジア向け輸出を強化し、アジアシフトを鮮明にしている。なかでも、中国への供給拡大は最優先事項である。ガスプロムは「中国はアジアにおける主要な戦略的パートナーであり、同地域のガス需要拡大の原動力となっている」としている。

ロシアは2019年の供給開始以来、中国向けのガス価格を発表していない。また、中国もウクライナ侵攻後、数量の発表を取り止めた。このため、供給価格は、中ロ要人の発言や、中国税関発表の輸入額から推計するしかない。

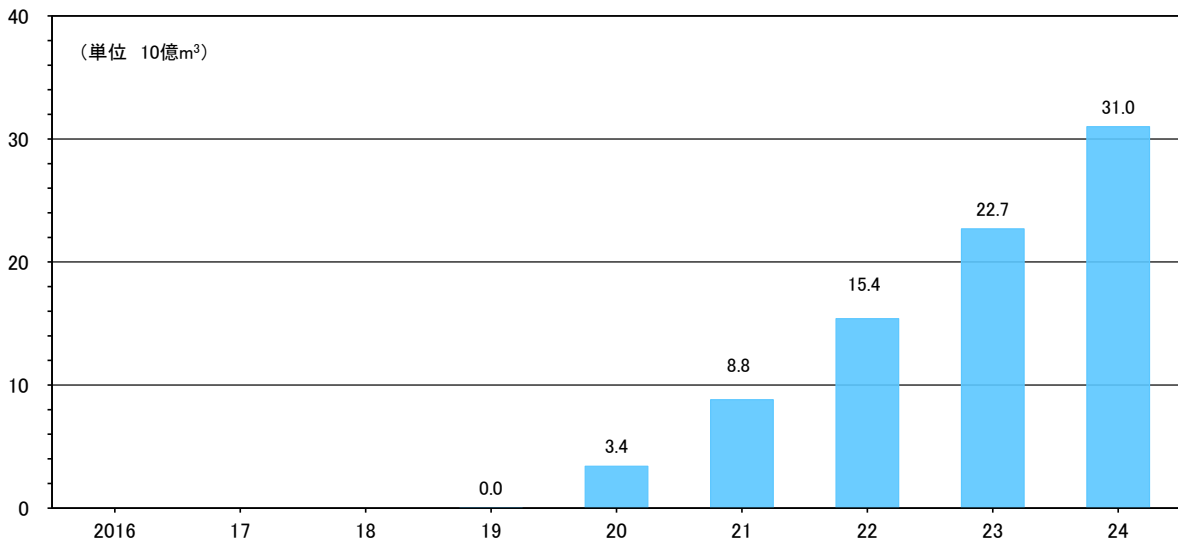
中国税関によれば、2024年のロシア産ガスの輸入額は80億3,994万ドルだった。一方、輸入量はガスプロム発表で310億m³である。この数字をもとに計算すると、2024年の供給価格は1,000m³当たり259ドルとなる。これは前年の284ドルと比べると、24ドル以上の下落である。一方、欧州やトルコ向けのガス輸出価格は400～500ドル台で推移しており、その差は1,000m³当たり100～200ドルにも及ぶ。この価格差から、中国がロシア産ガスを割安な価格で購入していることがわかる。

図表27 ガスパイプライン「シベリアの力」の概要

名称	Power of Siberia シベリアの力
所在地	イルクーツク州のコビクタ・ガス田からチャヤンダ・ガス田を経由し、アムール州のブラゴヴェシチェンスクに至るガスパイプライン。ブラゴヴェシチェンスク郊外にガス加工・化学プラントを合わせて建設する
目的	東シベリアの巨大ガス田から中国へ天然ガスを供給するパイプラインで、ロシア産ガスを中国へ30年間にわたり供給することを目的とする
オペレーター	ガスプロム
敷設距離	約3,000km(コビクタ、レンスク、オリョクミンスク、アルダン、スコヴォロジノ、スヴォボドヌイを通り、ブラゴヴェシチェンスクに至るルート)
送ガス能力	380億m ³ (2025年)
輸送量(2024年)	310億m ³
稼働開始	2019年12月より稼働開始
主な供給源	チャヤンダ・ガス田、コビクタ・ガス田
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ガスはヘリウムの含有率が高いという特徴がある ・ガス加工プラントで、ガスからヘリウムを除去した上で、中国へ輸出する ・ガス加工プラントではエタンやブタンなど化学品の原料を生産する。加工プラントの隣に、ガス化学プラントを建設し、ガス化学品を生産する ・「シベリアの力」とSKVパイプラインを結ぶブラゴヴェシチェンスク・ハバロフスク間のパイプラインを建設中
ロシアのメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア向けガス輸出拡大(欧州市場依存からの脱却を進める戦略の一環) ・東方輸出の基盤強化
中国のメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・安定した天然ガス供給源の確保 ・石炭依存の低減による環境改善

(出所)各種資料より作成。

図表28 シベリアの力のガス輸送量



(出所)ガスプロムのプレスリリースおよびロシアのノヴァク副首相などの発言。

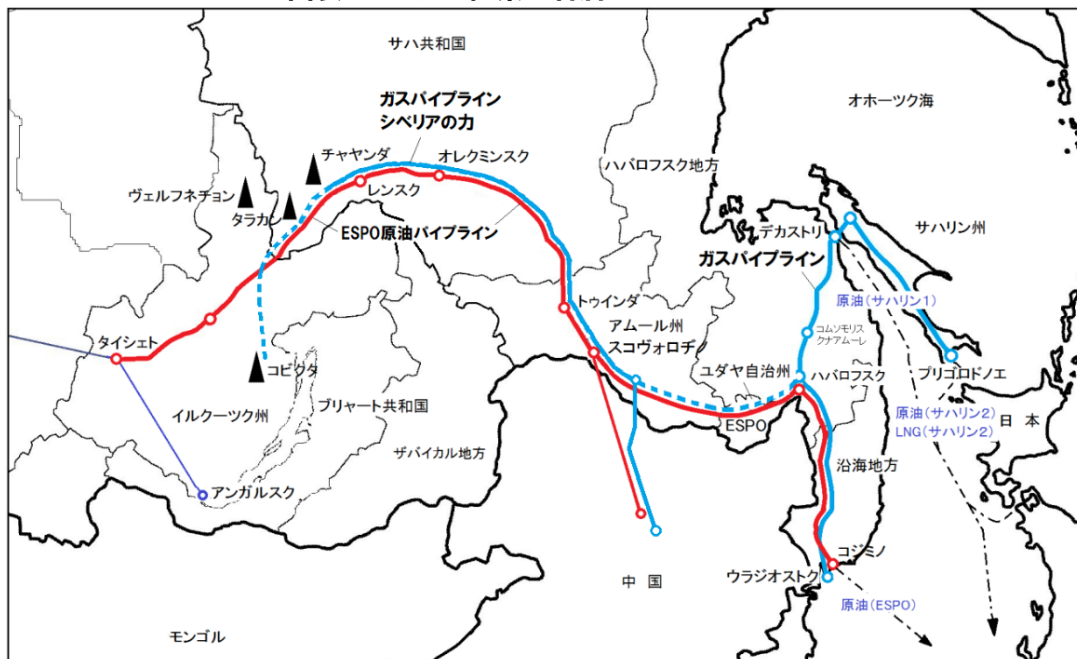
図表29 シベリアの力のガス輸送量

(単位 10億m³)

2019	2020	2021	2022	2023	2024
0.0	3.4	8.8	15.4	22.7	31.0

(出所)ガスプロムのプレスリリースおよびロシアのノヴァク副首相などの発言。

図表30 ロシア極東の石油・ガスパイプライン



(注)筆者作成。

(4)「シベリアのカ-2」ガスパイプライン

ロシアは、北極圏のヤマル半島からモンゴルを経由して中国にガスを送るパイプライン「シベリアのカ-2」の建設計画を進めている。

2025年はこの計画が大きく前進した年となった。2025年9月、ガスプロムとCNPCは、「シベリアのカ2」と、モンゴルを通過するトランジットガスパイプライン「ソユーズ・ヴォストーク」の建設に関する、法的拘束力を有する覚書に調印した。これにより、長年協議が続いてきたプロジェクトが正式に動き出すこととなった。

パイプラインはヤマルのガス田からモンゴルを通過して中国に至る全長6,700km。供給期間は30年とされ、プロジェクトが実現すれば、モンゴル経由で中国に供給されるガスは年間500億m³に達する見込みである。500億m³という数字は、欧州向け「ノルドストリーム1」に匹敵する規模である。輸出開始は2031～2032年が想定されている。

ミレル社長は2025年12月、「世界最大規模の投資プロジェクトになる」と強調し、「シベリアのカと同様に、『シベリアのカ-2』も計画通り、効率的に、そして予定より早く建設できると確信している」と述べ、前倒しで進む可能性を示した。

ロシアは当初、2023年10月のプーチン大統領の訪中時での合意を期待していた。しかし、大口契約の締結を望むロシアに対し、割安な価格での供給を望む中国は最後まで慎重な姿勢を崩さず、協議は長期化していた。

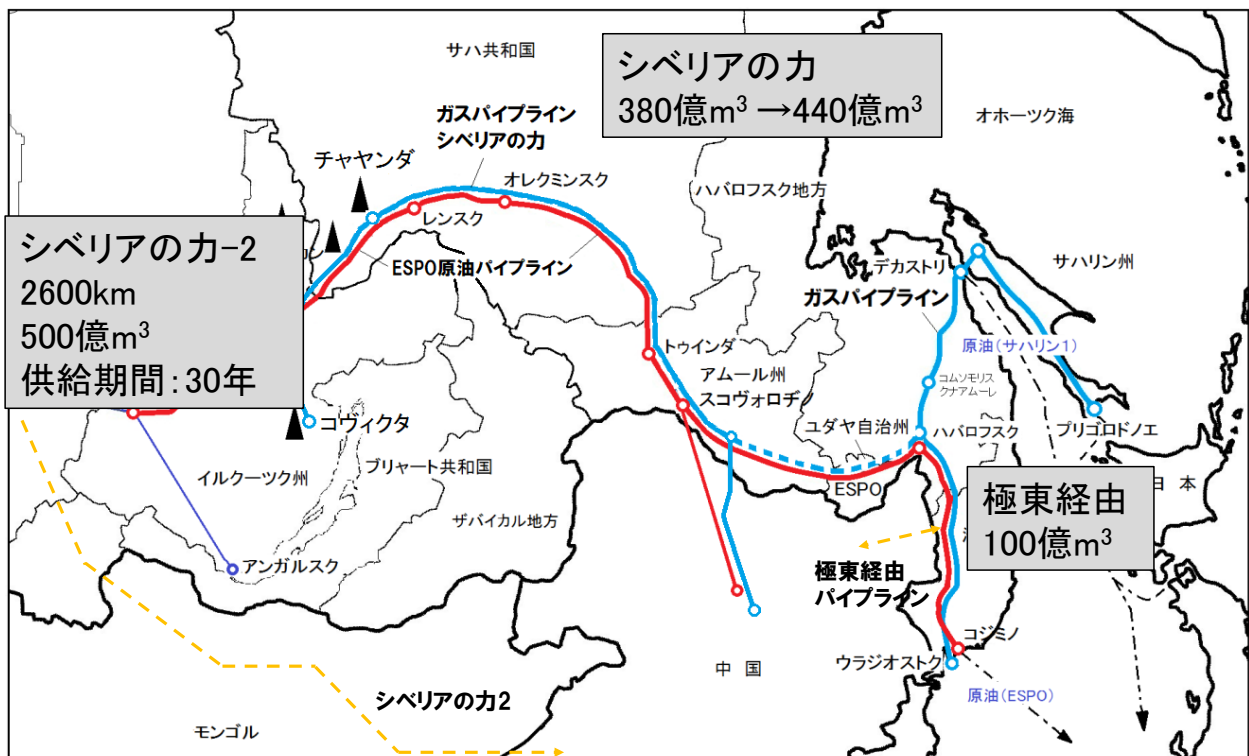
「シベリアのカ-2」のガス供給価格について、ミレル社長は「EU向けより安くなる」と述べ、プーチン大統領は「欧州向けと同様に市場価格となる」と発言しているが、最終的に価格面で合意したかどうかは明らかになっていない。

図表31 ガスパイプライン「シベリアの力-2」の概要

名称	Power of Siberia2 シベリアの力-2
概要	西シベリアのガス田からモンゴルを経由し、中国北西部に至る
目的	西シベリアのガスを中国北西部へ供給 モンゴルへのガス供給も拡大
オペレーター	ガスプロム
敷設距離	約6,700km(西シベリア→モンゴル→中国北西部、ルートは未定)
送ガス能力	500億m ³
稼働開始	2031～2032年(前倒して建設される可能性も)
主な供給源	ヤマルなど西シベリアのガス田
出来事	2025年9月 ガスプロムとCNPC、法的拘束力のある覚書を締結 2026年3月現在、供給価格を巡って両国は合意に至っていない(市場価格を求めるロシアに対し、割安な価格を希望する中国)
ロシアのメリット	・欧州向け輸出が激減したため、中国向けの新市場確保が急務 ・西シベリアのガスを東向けに転換する戦略
中国のメリット	・安定した天然ガス供給源の確保とエネルギー調達源の多様化 ・西側諸国からのガス輸入の軽減と経済安全保障の確保

(出所)各種資料より作成。

図表32 中国向けガスパイプライン



(5) 極東経由ガスパイプライン

両国間では、サハリンからハバロフスクを経由してウラジオストクへ至るパイプラインを、沿海地方北部（ダリネレチェンスク・黒竜江省虎林付近）で中国側へ分岐させ、年間100億m³のガスを供給する「極東ルート」の計画も進んでいる。両国は2023年2月にパイプラインの建設で合意し、政府間協定を締結した。さらに2025年6月には、ガスプロムとCNPC、Pipe Chinaが、国境地帯のパイプラインを中国側が建設することで合意した。2024年9月、ロシア政府は、環境影響評価の結果を公表し、肯定的な結論を示している。ミレル社長は、遅くとも2027年に輸送が開始されるとの見通しを示している。

報道によると、パイプラインの敷設はすでに開始されており、順調に行けば、2027年に稼働を開始する見通しである。

「シベリアの力」に加え、計画中の「シベリアの力-2」と「極東ルート」を合わせた中国向けガス輸出力は、2025年の約3倍となる年間1,040億m³に達する見込みである。

図表33 極東経由ガスパイプラインの概要

名称	極東経由パイプライン
概要	SKVパイプラインを、沿海地方北部(ダリネレチェンスク)で分岐させ、中国・黒龍江省の虎林付近で既存のパイプラインに接続する
目的	極東ガスを中国北東部へ供給 シベリア力のガス供給を補完するルートとの位置づけ
オペレーター	ロシア:ガスプロム 中国:CNPC
敷設距離	100km(ダリネレチェンスク・虎林間)
送ガス能力	100億m ³ (120億m ³ に増やす可能性も)
稼働開始	2027年
主な供給源	サハリン1、3などサハリンのガス田
出来事	2022年 長期供給契約締結 2023年2月 建設で合意、政府間協定締結 2025年6月 ガスプロム、CNPC、PipeChina、国境地帯のパイプラインを中国側が建設することで合意
ロシアのメリット	・欧州向け輸出が激減したため、中国向けの新市場確保が急務 ・サハリン産ガスの対中輸出
中国のメリット	・安定した天然ガス供給源の確保とエネルギー調達源の多様化 ・中国東北部のガス需要増加に対応、石炭依存低減

(出所)各種資料より作成。

Ⅲ. ロシアと中央アジア諸国のエネルギー関係

1. カザフスタン

(1)カズムナイガス(National Company KazMunayGas JS)

探鉱から生産、輸送、精製、販売に至る全工程を網羅する。同社の総資産はカザフスタンの対GDP比では9%に上るとされる。以下、カズムナイガス (KMG) に注目していく。

①企業概要¹

- 設立: 2002年2月20日 (国営企業「カザフオイル」と「石油ガス運輸」が合併)
- 本社: カザフスタン、アスタナ
- 株主構成²:サムルク・カズィナ (政府系ファンド) : 67.42%
カザフスタン財務省: 20%
カザフスタン国立銀行: 9.58%
個人投資家 (浮動株) : 約3%



②主要な事業領域と市場占有率

- 石油生産: 国内生産量の約26%を占め、日量約48.6万バレルを生産
- 輸送: 石油輸送の約56%を管理
- 精製: 石油精製能力の約80%を保有 (パヴロダル、アティラウ、シムケントの主要製油所を運営)
- 海外展開: ルーマニアの「KMGインターナショナル」³などを通じ、欧州市場 (モルドバ、ジョージア、ブルガリア等) にも進出

③主な戦略的プロジェクトとパートナーシップ

テンギズ、カラチャガナク、カシャガンといったカザフスタン最大級の油田プロジェクトに国を代表して出資している。メインパートナーのロシアの他、日本の丸紅 (製油所改修⁴) や、INPEX (カシャガン油田権益⁵)、中国、イタリアのエニなど、世界各国のエネルギー企業とも提携している⁶。ポリプロピレン生産などの石油化学分野への投資を強化するなど⁷、事業の多角化も推進している。

¹ 同社サイト (https://www.kmg.kz/interactive/report_2024/profil-kompanii.html) 他を参照

² <https://www.kmg.kz/en/sustainable-development/corporate-governance/shareholders/>

³ ルーマニア企業「ロムペトロール」の株式の7割超を、2007年にKMGが取得 (2009年に全株式を取得)。
(<https://www.rompetrol.com/who-we-are/history/group-history>)

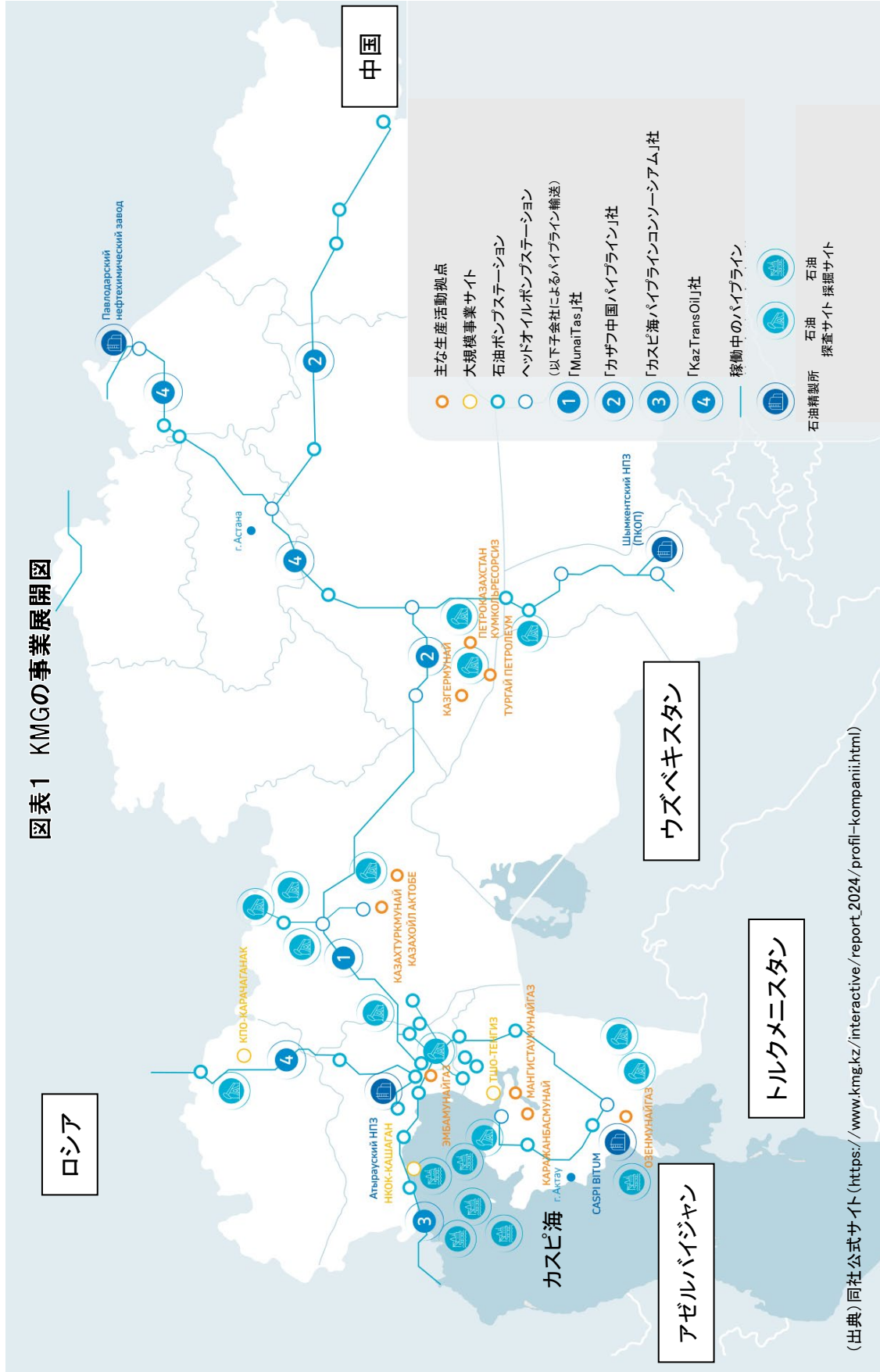
⁴ <https://www.bloomberg.com/jp/news/articles/2011-12-30/LWZYJK0UQVI901>

⁵ <https://www.inpex.com/business/project/northcaspien.html>

⁶ <https://www.bloomberg.com/jp/news/articles/2008-01-14/JUN6BX07NBB601>

⁷ <https://www.jetro.go.jp/biznews/2022/11/48f58fb4a6a3c87d.html>

図表1 KMGの事業展開図



(出典) 同社公式サイト (https://www.kmg.kz/interactive/report_2024/profil-kompanii.html)

(2)KMGのロシアとの協力・連携に関する動向⁸

①天然ガス供給網の拡大へ向けた提携(ガスプロム)

2025年にカザフスタン政府はガスプロムとの間で新しいパイプライン建設について合意した。同パイプラインはキルギスへのガス供給も見据えている可能性がある⁹。またロシア産ガスの供給拡大について合意が交わされている。2024年の供給量は約38億m³で、2028年までに120億m³まで増加する予測もある¹⁰。また、ロシアからカザフスタン北東部へガスを供給するための新しい幹線パイプライン建設に向けた覚書が、2025年10月に締結された。

既存のパイプラインを活用した逆送輸送も活発化している。既存の「中央アジア・センター(CAC)」パイプライン¹¹を改修し、ロシアからカザフスタンを経由してウズベキスタンへガスが輸送されている。

②石油の探鉱・生産(ルクオイル、タネフト)

カスピ海北部に石油鉱区が集中しているが、このエリアで実施している事業の大部分でロシアの石油各大手と連携している。以下はその一部の例である：

- カラトン・サブソルト(Karaton Subsalt)：2024年11月、KMGとロシアのタネフト(Tatneft)が共同で深さ5,500mの試掘を開始した。
- カラムカス・シー(Kalamkas-Sea)：ロシアのルクオイル(LUKOIL)との共同プロジェクト。2024年に設計段階に入り、2026年からオフショアプラットフォームの建設を開始する予定。

③石油輸送と輸出(CPC、ロスネフチ)

- カスピ海パイプライン(CPC)：KMGとロシア(トランスネフト等)が主要株主。カザフスタン産石油の約3分の2をロシア経由で輸出する生命線。
- ドイツ向け石油供給：ロシアのロスネフト・ドイチュラント(ドイツ政府管理下)に対し、KMGが供給量を月間13万tに増やして2026年まで継続する契約を締結。

④精製・加工

カザフスタンのカラチャガナク油田で生産されるガスを、ロシア国内のオレンブルク・ガス処理工場で加工する長期契約が結ばれている。

⁸ 主要な情報は以下を参照。(<https://ar2024.kmg.kz/en/strategic-report/operating-review/exploration>)

⁹ <https://interfax.com/newsroom/top-stories/114203/>

¹⁰ <https://interfax.com/newsroom/top-stories/115201/>

¹¹ ソ連時代に、中央アジア産ガスの地域内供給及び対口供給のために建設された。

(3)KMGの中国との協力・連携に関する動向¹²

①石油化学分野の大規模プロジェクト

中国企業との連携により、カザフスタンを高付加価値製品の生産国へと転換させる狙いがあるものとみられる。

- ポリエチレン・プロジェクト（シノペック）：2023年に中国のシノペック（Sinopec）がアティラウ州でのポリエチレン製造プロジェクトに参画、共同開発を進めている¹³。
- ビチュメン（舗装用アスファルト）工場の拡張（CITIC）：中国のCITICグループとの合弁会社「Caspi Bitum」が、アクタウにある工場の拡張プロジェクトを推進中。2025年の稼働開始を目指し、投資額は7,600万ドルを超えている¹⁴。

②探鉱・生産における共同開発

中国の国営石油大手が資金と技術を提供し、新たな資源開発を行っている。

- ジリョイ（Zhylyoi）プロジェクト（CNOOC）：2025年5月、中国海洋石油（CNOOC）とKMGは、アティラウ州のジリョイ鉱区における共同探査・生産に関する協定を締結した。探査費用は人民元建ての「点心債」が活用される模様¹⁵。
- ウリフタウ（Urikhtau）ガス処理工場（CNPC）：中国石油天然ガス集団（CNPC）と共同で、ウリフタウ油ガス田からのガス処理プロジェクトを推進することに合意¹⁶。
- 広範な戦略提携（CNPC）：2026年2月、CNPCとKMGは、炭化水素の探査・生産・加工に加え、再生可能エネルギー分野でも協力を深化させることで合意。

③エネルギー輸送インフラ

中国へ直接エネルギーを届けるパイプラインが重要な役割を果たしている。

- カザフスタン～中国ガスパイプライン：トルクメニスタンから中国に至る「中央アジア・中国ガスパイプライン」のカザフスタン国内区間を、中国側と共同で運営。
- ケニヤク・クムコル・パイプラインの拡張：中国向けの石油輸出能力を高めるため、既存の国内石油パイプラインの輸送能力拡張も連携して進められている。

¹² 主要な情報は以下を参照（https://jp-kz.org/wp/wp-content/uploads/2020/12/oil_publication_r1.pdf）
（<https://newvision.io/industry-digest/kazakhstan-opens-its-doors-to-china-energy-investment>）

¹³ <https://www.dreamnews.jp/press/0000280899/>

¹⁴ <https://www.interfax.com/newsroom/top-stories/109676/>

¹⁵ なお点心債は中国国外で販売される国債で、カズムナイガスは20億ドルを用意するという
（<https://www.kmg.kz/en/press-center/press-releases/cnooc-soglashenie-geologorazvedka-22102024/>）

¹⁶ <https://x.gd/4197B>

(4)KMGの欧米との協力・連携に関する動向

巨大油田の運営と、脱炭素化に向けたグリーンエネルギーへの転換が2本柱となっている。

①巨大油田プロジェクト(権益分担)

カザフスタンの石油生産の核心である「4大油田」には、KMGと並び欧米メジャーが名を連ねている。

- テンギズ油田 (Tengizchevroil) ¹⁷:
 - パートナー: シェブロン (米)、エクソンモービル (米)。
 - 状況: カザフ最大の生産量を誇る。現在、増産プロジェクト (WPMP/FGP) の最終段階にあり、さらなる生産能力の拡大が進められている。
- カシャガン油田 (NCOC) ¹⁸:
 - パートナー: エニ (伊)、TotalEnergies (仏)、シェル (英)、エクソンモービル (米) 等。
 - 状況: カスピ海沖の超巨大油田。世界最大級の難工事を経て稼働しており、ガス処理施設の建設など、生産安定化に向けた第2段階の開発が進んでいる。
- カラチャガナク油田 (KPO) ¹⁹:
 - パートナー: シェル (英)、エニ (伊)、シェブロン (米) 等。
 - 状況: 随伴ガスの再注入による石油増産技術の導入など、効率化プロジェクトが進展中である。

②再生可能エネルギー・脱炭素への連携

近年、欧米企業との協力は「化石燃料」から「クリーンエネルギー」へと急速にシフトしている。

- 巨大風力発電プロジェクト (TotalEnergies) ²⁰:

フランスのTotalEnergiesと共同で、ジャンブル州に1GW規模の風力発電所と蓄電システムを建設中。
- 低炭素化と水素 (エニ) ²¹:

イタリアのエニと、ハイブリッド発電所 (再エネ+ガス) の建設や、バイオ燃料、水素生産に向けた技術協力を行っている。またフランスの「Air Liquide」と、パヴロダル石油化学工場に水素製造ユニットを設置し、その後年間16万t前後の冬期用ディーゼル燃料を製造することで合意した²²。

¹⁷ <https://www.tengizchevroil.com/company>

¹⁸ <https://www.ncoc.kz/en/page/our-management>

¹⁹ <https://www.kpo.kz/en/about-kpo/parent-companies>

²⁰ <https://astanatimes.com/2026/02/kazakhstan-france-move-to-active-phase-of-1-gw-wind-power-project/>

²¹ <https://jp.reuters.com/article/eni-kmg-to-build-kazakhstan-first-hybrid-renewables-gas-plant-idUSKBN2XU10R/>

²² https://jp-kz.org/wp/wp-content/uploads/oil_publication_r5.pdf

- CCUS（炭素回収・貯留）：

2022年、KMGはシェブロンとの間で、二酸化炭素回収・貯留（CCUS）低炭素水素利用、メタン排出・漏洩管理、エネルギー効率の向上、国内におけるカーボンプライシング機構の導入といった分野における共同プロジェクトの実現に関する協力覚書を締結した²³。

③その他、戦略的連携

- ルーマニア拠点（KMG International）：

KMGはルーマニアの旧ロムペトロールを買収し、欧州での精製・販売網を保有しているが、ここではフランスやドイツなど欧州諸国への石油供給拠点として、域内企業と物流面で連携している。なおルーマニアは近年、トランスカスピ海国際輸送回廊（TITR）²⁴への参画を表明しており、中央アジアやコーカサスとの連結性強化が今後さらに進行する可能性がある。

- 航空燃料の国産化²⁵：

欧米企業の技術支援を受け、ジェット燃料の国際規格（ASTM）への適合や生産拡大を進め、航空機向けの供給安定化を図っている。

²³ https://jp-kz.org/wp/wp-content/uploads/oil_publication_r5.pdf

²⁴ 「中央回廊」（ミドルコリドー）とも。中国から中央アジア、カスピ海、コーカサスを経て、ロシアの領土を介さずに欧州へと接続する物流路。ロシアによるウクライナ侵攻後、代替物流路として注目を集めている一方、陸運と海運の組み合わせや中国国境での鉄道幅の違い、カスピ海の天候などといった要素による、コストやリードタイムの問題も指摘されている。

²⁵[https://www.kmgaero.kz/?p=6162&lang=en#:~:text=It%20should%20be%20reminded%20that,%2C%20transportation%2C%20refueling%20process\).](https://www.kmgaero.kz/?p=6162&lang=en#:~:text=It%20should%20be%20reminded%20that,%2C%20transportation%2C%20refueling%20process).)

(5)カザフスタンのエネルギー資源の輸出ルートについて

カザフスタンは内陸に位置しており、産油国の中でも特殊な地理的条件にある。さらに主要な油田が国土の西側に位置するカスピ海沿岸に集中していること、ソ連時代は大消費地であったソ連欧州部がその西側に隣接していたことなどから、パイプラインによる輸送路構築はモスクワなど欧州方面に偏重した。しかし独立後、カザフスタンは外交の多角化とともに、エネルギー資源の輸出先の多角化も模索しており、その機運はロシアによるウクライナ侵攻後、さらに強まっている。

KMG傘下の主要なパイプライン輸送企業 ²⁶	
<p>カスピ海パイプラインコンソーシアム²⁷</p> <p>主な輸送先: 欧州向け</p> <p>パイプライン容量: 年間6,700万t</p> <p>KMGのシェア: 19%</p> <p>(他、ロシア24%、シェブロン15%等)</p>	 <p>КАСПИЙСКИЙ ТРУБОПРОВОДНЫЙ КОНСОРЦИУМ</p>
<p>JSC KazTransOil(カズトランスオイル)</p> <p>主な輸送先: 対欧州・中国輸出、国内市場</p> <p>パイプライン容量:</p> <p>年間1,752万t(アティラウ-サマラ区間)</p> <p>アクタウ港の容量: 年間520万t</p> <p>KMGのシェア: 90%</p> <p>(残りの10%は少数株主が所有)</p>	 <p>KazTransOil</p>
<p>JSC SZTK MunaiTas</p> <p>主な輸送先: 対中輸出、国内市場</p> <p>パイプライン容量: 年間600万t</p> <p>カズトランスオイルのシェア: 51%</p>	 <p>MUNAITAS NORTH-WEST PIPELINE COMPANY LLP</p>
<p>カザフスタン・中国パイプラインLLP²⁸</p> <p>主な輸送先: 対中輸出、国内市場</p> <p>パイプライン容量: 年間2,000万t</p> <p>カズトランスオイルのシェア: 50%</p> <p>(中国石油天然気集団(CNODC)が50%)</p>	 <p>KCP</p>

²⁶ 上記4社以外に、黒海や地中海での海上輸送を手掛ける「カズモルトランスフロート」社(カズトランスオイルが100%保有)も傘下にある。(https://www.kmg.kz/ru/company/business-lines/#line-56)

²⁷ https://www.cpc.ru/en/about/Pages/default.aspx

²⁸ https://www.kcp.kz/company/about?language=en

上記企業のうち、カズトランスオイル（KazTransOil）は、2017年8月22日より、黒海に面するジョージアのバトゥミ港Batumi Oil Terminal Ltdの株式100%を所有している。なおBatumi Oil Terminal Ltdは、LLC「Batumi Sea Port」の株式100%を保有している。Batumi Oil Terminal Ltdは、石油、石油製品、ガス、およびそれらの加工製品の積み替え、輸送、運送、購入および販売に関するサービスの提供に従事している²⁹。これによりカズムナイガスは子会社を通じて、カスピ海からコーカサスを經由して黒海の物流路へ至るルートを確認しているともいえる。

①ロシア経由:伝統的かつ最大の生命線

カザフスタン産石油の約8割が依然としてロシア領土を通過して世界市場へ出る。

- CPC（カスピ海パイプライン）：
 - ルート: 西カザフスタンの油田～ロシアのノヴォロシスク港（黒海）。
重要性: カザフスタン最大の輸出ルート。KMG、シェブロン、ロシア政府などが共同出資。ただし、2025年11月のノヴォロシスクターミナルへの無人機攻撃により輸送がストップする事態に。
- アティラウ・サマラ・パイプライン：
 - ルート: カザフスタン～ロシアのサマラ（そこから「ドルジバ」パイプラインに接続）。
 - 近況: ロシア経由でドイツ（シュヴェート製油所）へ石油を送るルートとして活用されている。欧州方面への輸出がメイン。またドイツ方面へのカザフスタン産原油のスムーズな輸送のためカズムナイガス子会社のカズトランスオイルは2025年12月、ポーランドPERN社と協定を締結した³⁰。ドイツはロシア産エネルギー資源への依存度の低減のためカザフスタン産原油の輸入を決定したが、輸送ルートはロシア経由となり、完全な「脱ロシア」の達成は難しいことがうかがえる。

②中国経由:東方へのエネルギー架け橋

需要の旺盛なアジア市場へ直結するルート。

- カザフスタン・中国石油パイプライン：
 - ルート: アティラウ ～ アラシャンコウ（中国国境）。
 - 戦略: CNODCとの共同事業。中国西部のエネルギー安定供給を支える。
- 中央アジア・中国ガスパイプライン：
 - ルート: トルクメニスタン～カザフスタン南部～中国。
 - 役割: カザフスタン産のガス輸出に加え、他国からの通過料収入も得る戦略的インフラ。なおトルクメニスタンはガス輸出の過半を、このパイプラインを通過する対中輸出が占めている。

²⁹ https://kaztransoil.kz/en/about/subsidiaries_and_jvs/batumi_oil_terminal/

³⁰ <https://neftegaz.ru/news/transport-and-storage/911204-adamova-zastava-otkryta-kaztransoysl-podpisal-soglashenie-s-polskoy-pern-dlya-tranzita-kazakhstanskoy/>

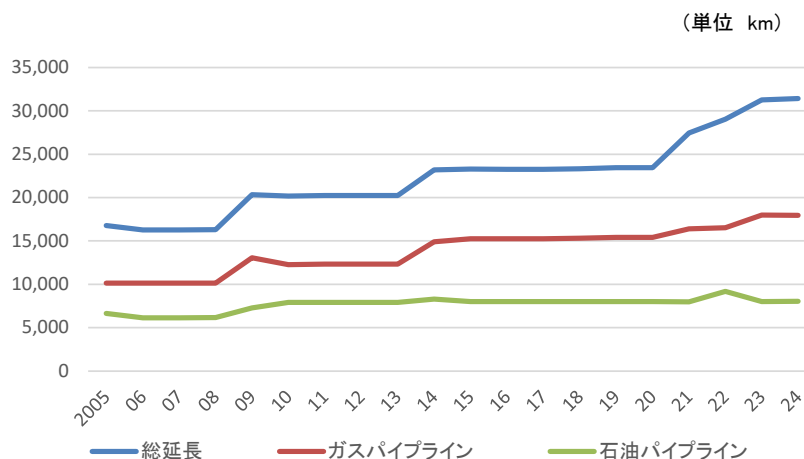
る。

③カスピ海横断ルート

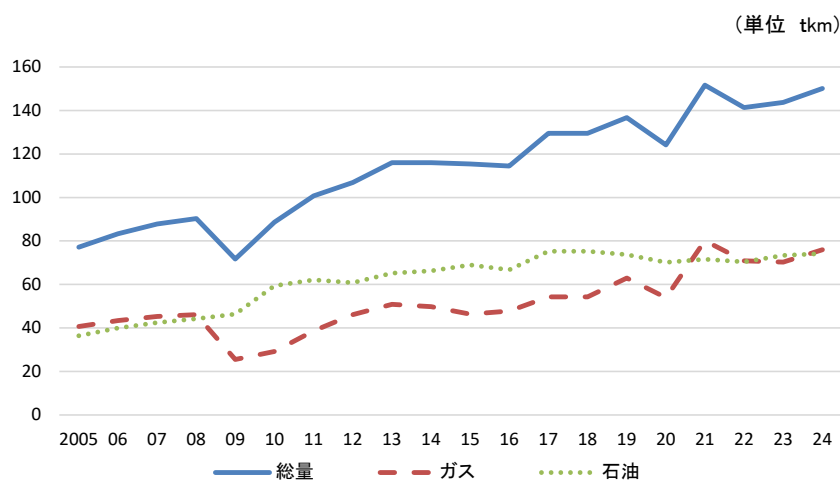
ロシアを回避して欧州へ直接アクセスする。アゼルバイジャン、ジョージア、トルコを接続するBTCパイプラインとの接続を見据えており、近年注目を浴びている。なおカスピ海沿岸の主要なカスピ海沿岸港湾はクリク港とアクタウ港であるが、パイプライン輸送の実績があるのはアクタウ港である。

- ルート: アクタウ港～バクー（アゼルバイジャン）をタンカーで結び、そこからBTCパイプライン（バクー・トビリシ・ジェイハン）でトルコの地中海沿岸へ送る。
- 動向: 2023年以降、KMGはアゼルバイジャン側と協力し、このルートの輸送量を大幅に増やす計画を進めている。

図表2 カザフスタンのパイプライン建設動向



図表3 カザフスタンのパイプライン輸送動向



(出所)カザフスタン統計委員会より作成。

2. ウズベキスタン

(1)ウズベキスタンの主要エネルギー企業

- 石油・天然ガス部門

ウズベクネフチガス (Uzbekneftegaz) :

ウズベキスタン最大の国有石油・天然ガス企業。探査、採掘、加工、販売までを垂直統合で手がける。政府の方針により、効率化を目指した組織再編や株式公開 (IPO) の準備が進められている³¹。本節ではウズベクネフチガスについて主に取り上げていく。

- 電力・再生可能エネルギー部門

ウズベクエネルゴ (Uzbekenergo) :

かつて発電・送電・配電を一手に担っていた国有電力公社。現在は部門ごとに分離・再編が進行中。

- 原子力部門

ウズアトム (Uzatom) :

ウズベキスタン原子力発展局。ロシアの国営企業 ロスアトム (Rosatom) と協力し、小型モジュール炉 (SMR) を含む原子力発電所の建設プロジェクトを推進³²。

(2)ウズベクネフチガスについて³³

①企業概要と主な活動

- 設立: 1992年5月3日
- 業態: 石油・天然ガスの探査、採掘、加工、貯蔵、輸送、販売までを垂直統合で手がける。
- 生産規模: 2023年の炭化水素生産量は、石油換算で日量約52万バレル。
- 主要拠点: タシケントに本社を置き、ブハラやヒヴァ、スルハンダリヤ、ウスチュルトなどの主要地域で操業。またあるグブキン名称ロシア国立石油大学タシケント校など複数の高等教育機関も傘下に収める。



②近年の動向と重要プロジェクト

- 生産目標: 2025年の天然ガス生産目標を約265億m³と設定し、生産の安定化を図っている。
- GTLプロジェクト: カシュカダリヤ州で大規模なガス液化燃料 (GTL) プラントを運用。2026年

³¹ <https://www.jetro.go.jp/biznews/2019/07/329f7f92b734c53c.html>

³² <https://www.jaif.or.jp/journal/oversea/23280.html>

³³ <https://webdev.ung.uz/media/allfiles/files/906ce9f5468a4a2bb12ed5e010d3ce8c.pdf>

までのフル稼働を目指しており、ディーゼル、ナフサ、灯油などの生産能力拡大を推進中。

- 組織再編と民営化: 政府主導の経済改革により、効率化を目的とした資産の分離や組織再編が進められている。2025年から2028年にかけてタシュケント証券取引所等での株式公開（IPO）が計画されている。また2025年4月にはロンドン証券取引所にて8億5,000万ドル相当のユーロ債を発行するなど、国際市場への参画も進んでいる³⁴。
- 外資提携: ロシアのルコオイルやガスプロム、中国のCNPCなどと戦略的パートナーシップを結んでおり、近年では米Cargillとの大規模な金融契約も締結³⁵。

③主な課題

既存ガス田の老朽化と減退への対応が急務となっている。また国内向けの規制価格（低価格設定）が収益性の重石となっており、インフラ近代化のための資金調達が継続的な課題。

(3)エネルギー部門におけるウズベキスタンとロシアとの協力・連携に関する動向

国内需要を賄うためエネルギー資源の輸出国から輸入国に転換した。背景としては人口増加や産業の振興を要因とする国内需要の高まりというウズベキスタン側の事情、およびウクライナ侵攻後欧州以外のエネルギー資源の市場を求めるというロシア側の事情がある。このほか、原発建設へ向けたロシアとの協力も進行中である。

①天然ガスの輸入拡大(ガスプロムとの連携)

ウズベキスタンは国内のガス生産減少に伴い、ロシアからの輸入を急拡大させている。

- 供給契約の強化: ガスプロム（Gazprom）との契約により、2025年には年間77億m³（2024年比で約20億m³増）のガス輸入が計画されていた³⁶。
- 長期的なインフラ整備: 2026年までに輸入能力を年間110億m³まで引き上げるため、既存の「中央アジア・センター（CAC）」パイプラインの逆送（ロシアから南下）能力を拡張する計画が進行中³⁷。供給力拡大へ向けてウズベキスタン側から5億ドルの投資がおこなわれる予定³⁸。
- 2040年までの長期契約: 2024年6月には、カザフスタンを経由した中継輸送について2040年までの長期契約が締結され、エネルギー安全保障におけるロシアへの依存度が長期的に高まる見通し。

³⁴ <https://caspiantpost.com/analytics/uzbekistan-s-gas-giant-returns-to-global-markets-with-landmark-eurobond-issue>

³⁵ <https://www.uzdaily.uz/en/uzbekneftegaz-and-cargill-sign-us3-5-billion-financing-agreement/#:~:text=%20Uzbekistan.%20%20Economy.%20%20Sports.>

³⁶ <https://daryo.uz/en/2025/10/18/russia-and-uzbekistan-strengthen-energy-partnership-across-gas-oil-and-nuclear-sectors>

³⁷ この計画ではキルギスまでのガス輸送も視野に入れている模様だ。（<https://interfax.com/newsroom/top-stories/103116/>）(<https://oilgas.uz/en/news/by-the-end-of-this-year-russian-gas-supplies-can-be-arranged>)

³⁸ <https://eurasianet.org/uzbekistan-plans-500m-investment-to-boost-russian-gas-imports>

②石油および資源開発(ルクオイル等との連携)

ルクオイル (Lukoil) はウズベキスタンにおいて、ウズベクネフチガスとの合弁プロジェクトを通じて累計1,000億m³以上のガスを生産するなど、最大の外国投資家の一つとなっている³⁹。従来ウズベキスタンはロシアからのエネルギー資源の輸入はなかったが、2024年にはロシア産原油を23万t (1億121万ドル)、ロシア産天然ガスを46億m³ (7億3,712万ドル) 輸入するようになった。ガス輸入では数量ベースで第7位、金額ベースでは第10位の、ロシア産天然ガスの買い手となっている。

(4)ウズベクネフチガスの中国との協力・連携に関する動向

従来の天然ガス供給に加え、2025年から2026年にかけて太陽光・風力発電や化学コンプレックスといった「グリーンエネルギー」と「高度加工」の分野で協力・連携が拡大している。主な連携内容は以下の通り。

①再生可能エネルギーへの巨額投資⁴⁰

中国企業は、「脱炭素化」戦略における重要なパートナーとなっている。

- 太陽光発電: 中国大唐集団 (China Datang Corporation) がタシュケント州で263MWの太陽光発電所 (1.5億ドル) を建設中。他にも、中国電気装備集団 (CEEGC) がジザフ州で500MWのプロジェクトを推進。
- 風力発電: 三一重能 (SANY Renewable Energy) がカラカルパクスタン共和国で1,000MW規模 (約12億~22億ドル) の巨大風力発電所を建設。
- 揚水発電・送電網: 中国南方電網 (CSG) と10億ドル規模の揚水発電所建設で合意したほか、老朽化した送電網の近代化にも中国が深く関与。

②石油・天然ガスおよび化学部門(CNPC・Sinopec)

ウズベクネフチガスとの連携が強化されている。

- 探査・採掘の高度化: 中国石油天然気集団 (CNPC) の技術を導入し、既存ガス田の増産や新規探査を共同で実施⁴¹。またCNPCの子会社であるXIBUと、2026年から2027年にかけて30本の油井を掘削することで合意⁴²。
- 化学コンプレックス: 中国石油化工 (Sinopec) がブハラ州で33億ドル規模のオレフィン生産プラ

³⁹ <https://egyptoil-gas.com/news/lukoil-achieves-100-bcm-of-natural-gas-production-from-uzbekistan-projects/#:~:text=LUKOIL%20Achieves%20100%20bcm%20of%20Natural%20Gas,Uzbekistan%20Projects%20%7C%20Egypt%20Oil%20&%20Gas.>

⁴⁰ <https://www.fpri.org/article/2025/08/debt-and-development-the-next-chapter-of-chinese-investments-in-central-asia/>

⁴¹ <https://www.trend.az/business/4147921.html>

⁴² <https://www.gazeta.uz/ru/2026/03/11/xibu-uzbekistan/>

ントを建設中⁴³。

- 地下貯蔵施設: 中国の協力により、国内のエネルギー安定供給のための新たな地下ガス貯蔵施設の建設も計画中⁴⁴。

③中央アジア・中国ガスパイプライン「ラインD」

トルクメニスタンからウズベキスタンを経由して中国へ至る第4のルート「ラインD」の建設について、2024年から2025年にかけて再開に向けた協議が継続されている。価格交渉や供給元の確保により遅延していたが、中国側は戦略的価値を重視し、早期の建設進展を求めている⁴⁵。

④投資規模の推移

中国の対ウズベキスタンへ投資は、2025年に158億ドルに達し、2026年にはさらに33%増の210億ドルまで拡大する見込み。エネルギー分野はその中核を成しており、2025年上半期までの投資額の約半分をエネルギー関連が占めている⁴⁶。

(5)ウズベクネフチガスの欧米との協力・連携に関する動向

欧米企業は、ウズベキスタンの「脱ロシア・中国一辺倒」からの脱却と、エネルギー供給の多角化・最新技術導入において極めて重要な役割を果たしている。主な動向は以下の通りである。

①ガス・石油開発と近代化(欧州・米国)

- TotalEnergies (フランス) : 2024年からカシュカダリヤ州の「マシュアラック」ガス田の近代化プロジェクトに参画。最新のデジタル技術を用いた増産支援を行っている。
- Cargill (米国) : ウズベクネフチガスに対し、最大で5億ドル規模の融資および金融サポートを提供。これにより、老朽化した設備の更新や生産ラインの効率化が進められている⁴⁷。
- Honeywell UOP (米国) : 石油精製およびガス処理施設の近代化において、制御システムや高度な加工技術を提供。ブハラ石油精製所の近代化プロジェクトなどで中心的な役割を担う⁴⁸。

②再生可能エネルギー(欧州企業が主導)

欧州系企業は、ウズベキスタン政府が進める「2030年までに再エネ比率を40%に引き上げる」計画

⁴³ <https://uz.kursiv.media/en/2025-12-25/chinese-investment-in-uzbekistan-increased-40-fold-in-nine-years/>

⁴⁴ <https://x.gd/qP8Xp>

⁴⁵ <https://www.reuters.com/markets/commodities/china-prioritising-turkmenistan-over-russia-next-big-pipeline-project-2023-05-24/>

⁴⁶ <https://interfax.com/newsroom/top-stories/116445/他>

⁴⁷ <https://x.gd/helmT>

⁴⁸ <https://x.gd/rEUqW>

の主要な担い手である。

- Masdar（アラブ首長国連邦・欧米資本提携）：厳密には中東企業だが、欧州金融機関の支援を受けつつ、ウズベキスタン最大の太陽光・風力発電ポートフォリオを構築。ザラフシャンでの500MW風力発電など複数の大規模プロジェクトを稼働させている。
- Voltalia（フランス）：ホレズム州での太陽光発電所建設（100MW）を落札。IPP（独立系発電事業者）として、同国初となる蓄電池併設型の再エネプロジェクトも推進している。欧州復興開発銀行（EBRD）が最大5,460万米ドル（5,050万ユーロ）の融資パッケージを提供する⁴⁹。
- Skyborn Renewables（ドイツ）：風力発電プロジェクトの調査・開発に参画しており、欧州の風力技術の導入を主導している。

③電カインフラと脱炭素技術

- Siemens Energy（ドイツ）：ガスタービン技術の提供を通じて、火力発電所の高効率化を支援。また、ウズベキスタンの送電網をスマートグリッド化するための技術協力も行っている。
- Air Products（米国）：2025年、ワシントンで米国の対中央アジア外交枠組み「C5+1」首脳会合が開催された際、ウズベキスタンにメタノール生産工場を建設するため30億ドルを投資する計画が発表された。このプロジェクトは同国のエネルギー自立と産業の多様化を促進すると期待されている⁵⁰。

④資金調達と国際基準

欧州復興開発銀行（EBRD）や世界銀行など、欧米資本が主導する国際金融機関が、再エネプロジェクトやウズベクネフチガスの組織改革に対して巨額の融資を行っている。企業の透明性を高め、将来的なロンドンやニューヨーク市場でのIPO（株式公開）を支援する狙いがある。

※カザフスタン、ウズベキスタンいずれにおいても、ロシアとの関係が「供給・輸入の安定」であるのに対し、中国・欧米のエネ分野での参画には「次世代インフラの構築と産業の高度化」「再エネ」といった技術力を活用するアプローチに特徴がある。

⁴⁹ <https://www.ebrd.com/home/news-and-events/news/2024/ebrd-and-eu-support-voltalias-first-project-in-uzbekistan.html>

⁵⁰ <https://x.gd/DOSJ0>

3. 中央アジア諸国とロシア・中国とのエネルギー貿易

中央アジア諸国の中で対中国エネルギー輸出を最も活発に行っているのはトルクメニスタンであり、品目の99%以上が天然ガス（ガス状、HSコード27112100）である。

トルクメニスタンが中国に対するガス供給国となった背景には、ロシアとの関係が影響している。独立当初はトルクメニスタンの主要な天然ガス顧客はウクライナなど欧州方面に存在しており、ロシアを経由して、またはロシアガスとのスワップ取引によってガス輸出を行っていた。しかしその後ロシアとの価格面での交渉が難航したことやパイプライン事故の責任問題などが発生し、エネルギー分野における対ロ依存の脱却が急務となった。2009年、トルクメニスタンと中国とを結ぶ「中央アジア・中国パイプライン」が完成し、現在ではトルクメニスタンのガス輸出の過半数が対中輸出で占められているとされる⁵¹。

カザフスタンとウズベキスタンも、中国にエネルギー資源を輸出している。2015年～2025年の累積実績を見てみると、カザフスタンは石油（HSコード27090000）がHSコード27の品目のうち6割以上、天然ガス（ガス状）が2割以上を占めている。ウズベキスタンの同時期の累積実績を見てみると、9割近くが天然ガス（ガス状）、1割が石油となっている。

ウズベキスタンは独立後の1995年にエネルギー自給を達成していたが、人口増加や国内の経済発展などを背景としてエネルギー消費が増大し、ガス輸出国から輸入国へと移行した。特にロシアからのガス輸入が増大している。ウズベキスタン国内では過去にはガス輸出の一時停止も議論されたが⁵²、結果としてガス輸出は継続された。ロシアから輸入するガスが安価に抑えられていることから、中国に輸出するガスの価格との差額を得ている可能性が考えられる。

なお、ウズベキスタン側の統計当局が発表するガスの輸出入に関する数字が、中国側統計当局が発表する数字と相違している点、長年指摘されてきた（ウズベキスタンから見る輸出額が、中国から見る輸入額より小さい）。ウズベキスタン側はこの数字の相違について、中国側がトルクメニスタンで生産されウズベキスタンを経由して中国に輸送される天然ガスを計上している可能性を指摘しているが、トルクメニスタンのガス輸出額が膨大に上ることを考えるとやや考えにくい。現地紙は2025年の両国の統計間に見られる数字の相違は1億4,450万ドル、2020年から2025年の間の、両国間の数字の相違は累積で6億8,720万ドルに達したと伝えている⁵³。

また、ロシアは世界有数の産油国であるが、カザフスタンから毎年一定数量のガスを輸入している。これはソ連時代にガスインフラが現在の国境をまたぐ形で建設されたことでガス供給網も国境を越えて稼働していることに加え、トランジット輸送やスワップ取引によるガス輸送も含まれているものと推察できる。例えば2024年の数値を見てみると、ロシア側統計でみる対カザフスタン輸入は金額にして2億1,520万ドルである一方、カザフスタン側統計でみる対ロシア輸出は4億7,200万ドルと倍以上

⁵¹ 以上の経緯については以下を参照（http://www.jacas.jp/jacasbulletin/007/JB007/JB07_009chida.pdf）

⁵² <https://www.gazeta.uz/ru/2024/12/21/gas-export-import/>

⁵³ <https://www.gazeta.uz/ru/2026/02/05/gas-import-export/>

の開きがあり、これはトランジット輸送やスワップ取引によるガス輸送について、両国の統計当局間で扱いが異なることによる可能性がある。

中央アジア諸国がロシアにとってエネルギー資源の買い手として重要性を増すことは、域内諸国にとっては対ロ関係でより優位に立つ上で好ましいといえる。その一方で潜在的にロシアと競合関係にあるトルクメニスタンにとっては、懸念材料となりうる⁵⁴。

小括

以上これまでの情報の整理を踏まえると、以下の通り総括することができる。

中央アジアの産油諸国（ここではウズベキスタンも含める）は独立以降、エネルギー安全保障面での自立を追求する動きを強めていった。ただし産油国のうちカザフスタンについては、ロシアと長大な国境を共有していること、ソ連時代に建設されたパイプラインなどのインフラが国境をまたいで建設されていたこと、また主要な鉱区がロシアに近接しているカスピ海北部に位置していること、といった条件により、ロシアとの提携なしでの開発は考えられなかった。

一方ウズベキスタンの場合、長らくカリモフ初代大統領が孤立主義的な外交方針を採用していたこともあり、エネルギー面でのロシアとの関係を発展させる必要がなかった。しかし2016年にミルジヨエフに政権が移行して以降、外交政策の転換や国内の産業振興などが影響し、ロシアとのエネルギー面でのつながりが再度構築された。

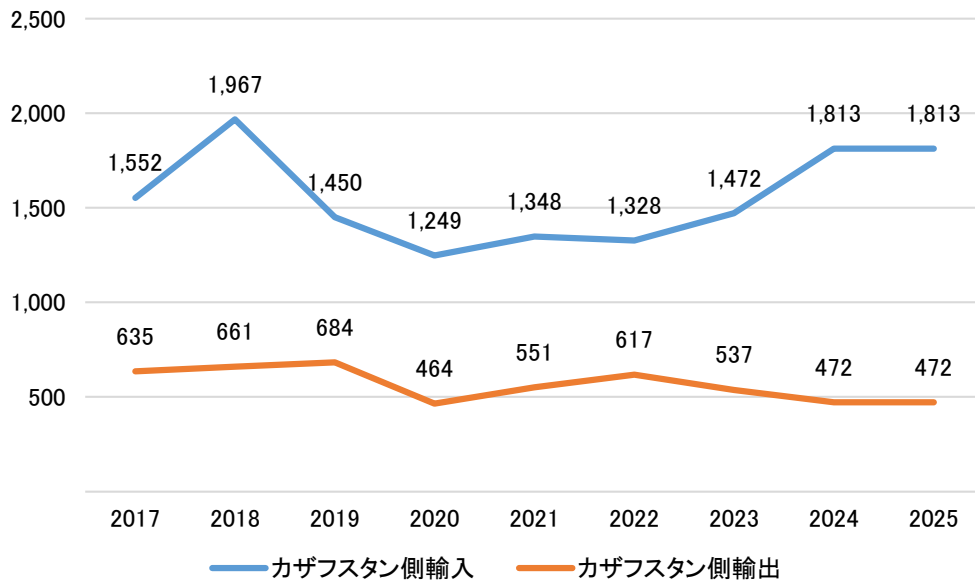
隣国イランとのスワップ取引を行っているトルクメニスタンを除けば、中央アジア諸国のエネルギー資源を通じた中ロ以外の域外諸国とのつながりは限定的である。内陸国ゆえパイプライン輸送が主流となり、連結性が地理的条件に制限されることは避けられないといえる。

前述の通り、生産のベース面ではロシアが、技術面では中国が支援する、という一種の「棲み分け」がみられる。しかし一方でウズベキスタンではCNPCとの提携による大規模掘削事業の動きも見られる。中ロ間の国力のバランスングにより、「棲み分け」がどこまで維持されるかも変化しそうである。

⁵⁴ 本節については以下を参考とした。(https://www.researchgate.net/publication/382613437_Central_Asia_-_Center_Gas_Pipeline_System_Challenges_and_Opportunities_for_Modern_Russia_-_Central_Asia_Energy_Relations)

図表4 カザフスタンの対ロシア燃料輸出入動向
(HSコード27)

(単位 100万ドル)



(出所)カザフスタン統計委員会より作成。

図表5 ロシアのガス輸出動向 (数量ベース)

(単位 100万m³)

順位	国名	2019	2020	2021	2022	2023	2024
	合計	210,326	203,253	213,250	142,185	99,625	102,636
1	中国	5	2,637	8,219	17,800	22,007	24,725
2	トルコ	15,543	13,550	30,069	21,770	20,423	17,741
3	ベラルーシ	12,170	18,688	19,792	18,922	17,031	17,137
4	カザフスタン	7,139	11,785	9,849	7,502	8,310	8,813
5	ハンガリー	7,587	8,915	5,664	3,660	6,157	6,902
7	ウズベキスタン	0	0	0	0	697	4,605

図表6 ロシアのガス輸出動向 (金額ベース)

(単位 1,000ドル)

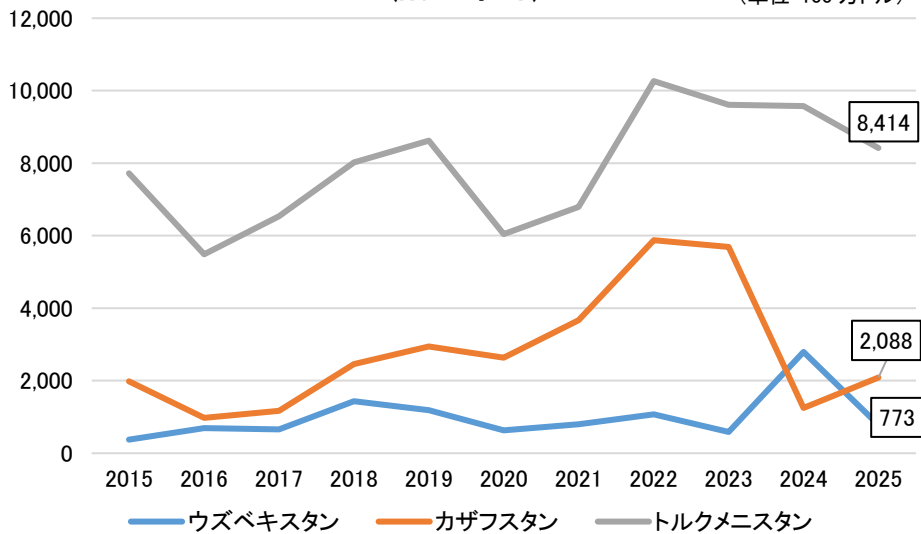
順位	国名	2019	2020	2021	2022	2023	2024
	合計	42,537,717.9	26,626,461.7	50,887,916.6	95,961,987.9	34,868,934.6	26,635,595.8
1	トルコ	4,491,986.9	2,885,543.9	5,888,212.4	22,439,459.9	9,772,511.2	6,786,658.9
2	中国	1,074.3	482,268.2	1,158,394.8	4,515,268.0	6,435,585.2	6,667,834.0
3	ハンガリー	1,480,103.1	1,101,344.8	1,591,008.5	5,814,980.7	3,496,524.0	2,488,154.0
4	ベラルーシ	1,586,872.1	2,442,639.0	2,606,460.4	2,363,010.0	2,326,724.6	1,945,234.0
5	オーストリア	3,621,434.9	1,671,251.9	2,510,416.2	5,095,186.4	3,480,817.5	1,943,409.3
10	ウズベキスタン	0.0	0.0	0.0	0.0	111,566.6	737,126.1

(出所)Tebiz Group。

図表7 中央アジア産油国の対中輸出動向

(HSコード27)

(単位 100 万ドル)

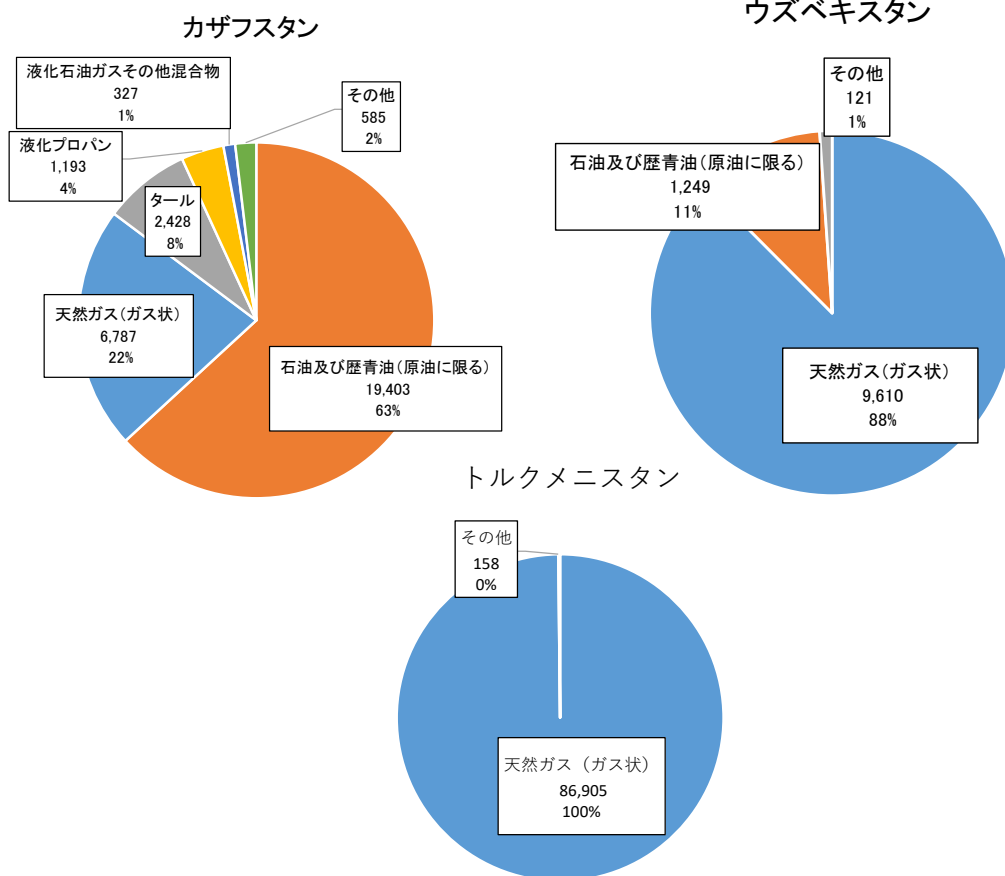


(出所) 中国税関統計より作成。

図表8 中央アジア産油国による炭化水素製品の2015年～2025年対中輸出累積

(HSコード27、累積額:中段)

(単位 100 万ドル)



(出所) 中国税関統計より作成。

令和7年度産油国等連携強化促進事業費補助金（石油天然ガス権益・安定供給の確保に向けた資源国との関係強化支援事業のうち中東等産油・産ガス国投資等促進事業に係るものに限る。（中央アジア・コーカサス地域等産油・産ガス国投資等促進事業）

ロシアの石油ガス輸出の「脱米欧化」と 中国へのエネルギー供給強化に関する調査

2026年3月発行

編集・発行

一般社団法人 ROTOBO
ロシアNIS経済研究所
東京都中央区新川2-1-7
電話 (03) 3551-6218

©禁無断転載
